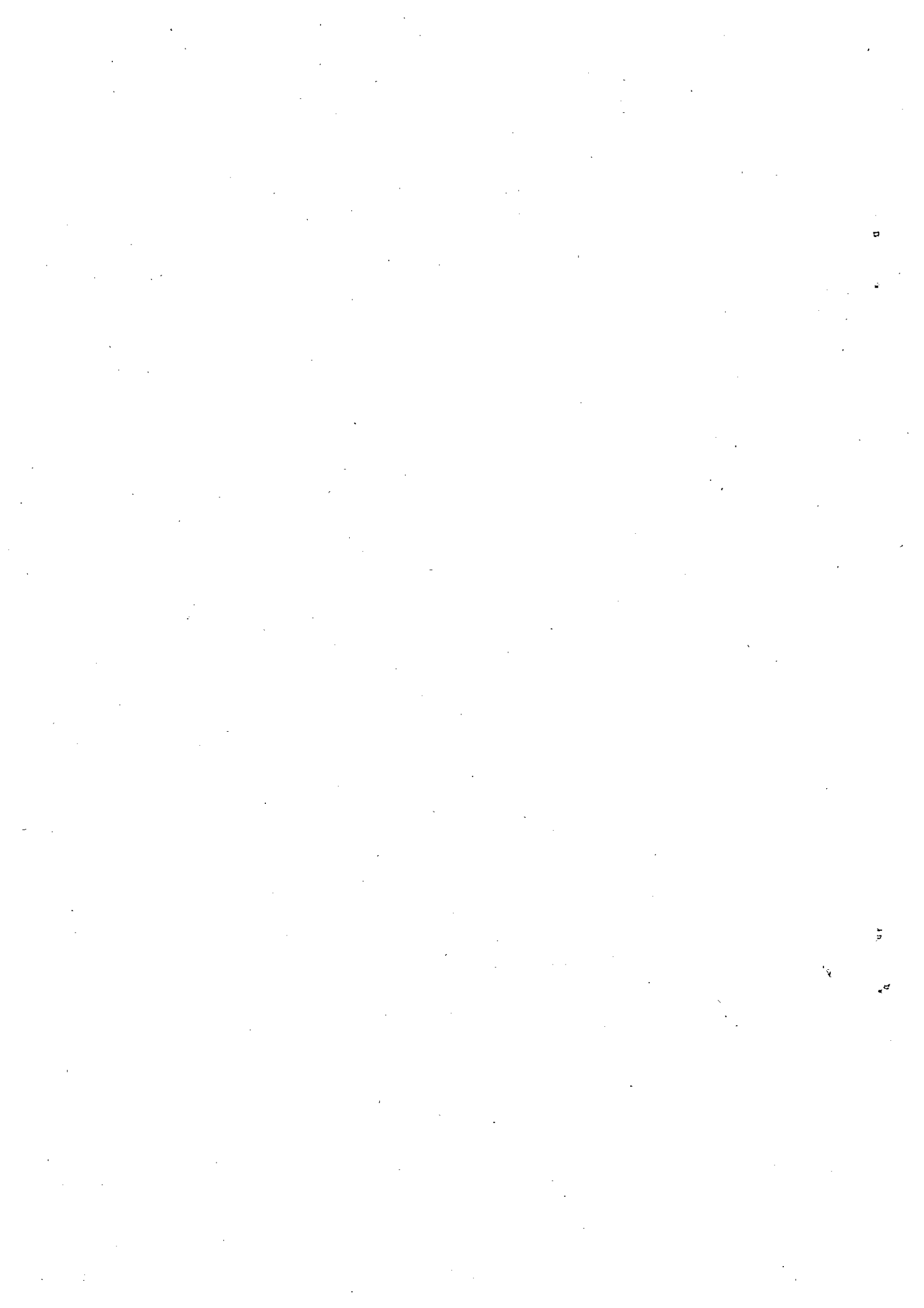


地域アクションプランの 平成26年度上半期の進捗状況等

・安芸地域	1
・物部川地域	21
・高知市地域	39
・嶺北地域	53
・仁淀川地域	63
・高幡地域	87
・幡多地域	103



安芸地域アクションプランの進捗状況等

H26.9.12

安芸地域本部

1 地域アクションプランの上半期の実施状況（総括）

(1) 総評

農業分野のナスに関しては、生産者との勉強会などを中心に系統出荷率の向上や土佐鷹販売量の増加等の取組を行い、ユズに関しても、栽培農家に対して新植・改植を推進する勉強会や講習会を開催するほか、果汁等の安定供給と販路の開拓などに向けた協議等を行っている。

農産加工施設を整備し奈半利味噌の増産を目指す取組は、関係者等と協議を行い、産業振興推進総合補助金の活用に向け準備作業を進めている。なお、当地域では台風11号により、農業分野でも大きな被害があったが、地域APの進捗に大きな影響はない見込みである。

奈半利町加領郷漁港で町営水産加工施設を整備する取組については、現在、加工品づくりを行う地元の団体との話し合いや施設の規模などについて関係者との協議を進めている。

林業分野のうち、特用林産物の土佐備長炭については、製造・販売の拡大に向けた今後の具体的な取組について、関係者と協議を進めている。

商工業分野では、室戸市の「楽市」の機能強化について、10月初旬に加工施設建設のための入札が実施できるよう、作業を進めている。

観光部門では、平成27年度に安芸地域9市町村で開催する東部地域博覧会について、7月25日に開催された第3回総会において、実施計画が承認され、4月29日の開幕に向けて、実質的なスタートが切られた。

また、奈半利町に整備を予定している「藤村記念館（仮称）」（地域AP NO.26）については、8月13日に起工式が行われ、施設整備が始まった。

(2) 具体的な動き

①地域の重点的な動き

重点的な取組	取組状況（結果、成果を含む）・課題と今後の対応
<p>二つの日本一を有する産地機能の維持・強化</p> <p>■No.1 ナス産地におけるまとまりづくりとブランド化の推進（室戸市、安芸市、東洋町、奈半利町、田野町、安田町、北川村、芸西村）</p> <p>《事業主体》</p> <p>・JA土佐あき</p>	<p>【目標（H27）】</p> <p>安芸市の系統出荷率：60%</p> <p>土佐鷹の作付面積：80ha</p> <p>【H26 到達点】</p> <p>安芸市の系統出荷率：60%</p> <p>土佐鷹の作付面積：40ha</p> <p>【H25 到達点】</p> <p>安芸市の系統出荷率：58% → 実績 57.2%</p> <p>土佐鷹作付面積：40ha → 実績 26.9ha</p> <p>【取組状況】</p> <p>○系統率の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域園芸戦略推進会議まとまりづくりチーム会の開催（5回） ・各地区反省会、現地検討会の開催（12ヶ所で実施予定）

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 2 ユズを中心とした中山間振興(室戸市、安芸市、安田町、北川村、馬路村)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ J A 土佐あき ・ J A 馬路村 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安芸出荷場での営農相談の実施 (3回、延べ204人へ情報提供) ・ 病害抑制実証成績(CO2施用試験成績等)の周知と実践の喚起(7か所) ・ 地区栽培講習会(2回) <p>○土佐鷹の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 土佐鷹普及推進協議会の開催(4回)とJA・園芸連・県で農家を個別に巡回(5月、9月)(栽培面積は、前年度より0.36ha減少の26.5ha) ・ 園芸研究幹事会等の開催(2回) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢化や重油の高騰による栽培面積の減少 ⇒ 栽培指導を徹底し、生産量の確保に向け取り組む <p>[目標(H27)]</p> <p>青果出荷受入量: 400t</p> <p>作業受託等の新たな組織づくり: 北川村 1組織 馬路村 1組織</p> <p>加工仕向量: 4,670t</p> <p>加工用果皮(A品・B品)の出来高: 安芸 1,000t 北川 80t</p> <p>J A 馬路村加工品販売額</p> <ul style="list-style-type: none"> ユズ茶: 1.6億円 化粧品: 5,200万円 ポン酢他ユズ加工品: 20.7億円 <p>[H26 到達点]</p> <p>青果出荷受入量: 400t</p> <p>組織設立に向けた方向性の決定</p> <p>加工仕向量: 4,670t</p> <p>加工用果皮(A品・B品)の出来高: 安芸 1,000t 北川 80t</p> <p>J A 馬路村加工品販売額</p> <ul style="list-style-type: none"> ユズ茶: 1.6億円 化粧品: 5,200万円 ポン酢他ユズ加工品: 20.7億円 <p>[H25 到達点]</p> <p>青果出荷受入量: 400t → 実績 398t</p> <p>組織設立に向けた方向性の決定 → 実績 北川村 方向性を確認 馬路村 組織検討に至っていない</p> <p>加工仕向量: 4,500t → 実績 4,058t</p> <p>加工用果皮の出来高量 A・B品: 安芸 840t、北川 60t → 実績 安芸 951t、北川 39t</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>J A馬路村加工品販売額 ユズ茶: 1.6億円 → 実績0.8億円 化粧品: 5,200万円 → 実績1.03億円 ポン酢他ユズ加工品: 20.7億円 → 実績33.2億円</p> <p>[取組状況]</p> <p>○新植・改植の推進 ・講習会(果実品質のワンランクアップなど、5回)、勉強会(適期防除・カラーリング出荷拡大、14回、延べ200人程度参加予定)の実施 ・母樹園の管理状況確認巡回(3回予定)</p> <p>○将来にわたってユズ園を維持管理する仕組みづくり ・連絡会等での課題抽出と共有化、活動計画の検討(北川村8回予定、馬路村3回予定) ・農地流動化及び組織設立等の検討(北川村宋ノ上地区)</p> <p>○ユズ果汁等の安定供給と積極的な販路開拓 ・県版 HACCP 取得に向けた指導(JA 土佐あき、JA 馬路村) ・加工用果皮出荷拡大・品質ワンランクアップ勉強会等開催(23回予定) ・青果輸出に係る残留農薬検査等に関する検討(2回予定) ・ジュース製造ラインの改修に関する協議の実施(2回)</p> <p>[課題と今後の対応] ・ユズ果汁の販売強化、ユズ商品の販売拡大 ⇒ 取り組みの着実な継続</p>
<p>森林資源の活用促進</p> <p>■No.8 木質バイオマス活用の促進(安芸市、芸西村)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JA土佐あき ・(有)安岡重機 ・高知バイオマスファーム ・高知東部森林組合 	<p>[目標(H27)]</p> <p>ペレット生産量能力:1,500t/年 木質資源利用ボイラー設置台数:100基</p> <p>[H26到達点]</p> <p>ペレット生産量能力:1,000t/年 木質資源利用ボイラー設置台数:122基</p> <p>[H25到達点]</p> <p>ペレット生産:700t/年 → 実績661t/年 ボイラー設置:102基 → 実績102基</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木質資源利用促進事業の事業計画書(ペレットボイラー)の本課提出(安芸市13台・芸西村9台) ・JAとのペレット調達に係る意見交換 ・木質ペレット製造業者との意見交換 ・ペレットの需給状況(H25実績)の把握 ・原木調達先候補の一つである安芸森林管理署との意見交換 ・木質ペレットボイラー発注(安芸市13台・芸西村9台)

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No.7 土佐備長炭の生産・出荷・販売体制の強化(室戸市、東洋町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・室戸市木炭振興会 ・土佐備長炭生産組合 	<p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域内でのペレット需要量に対する供給量不足 ・木質ペレットの供給価格 ・燃焼灰の処理 ⇒ 木質ペレットの原料原木の安定調達 <p>[目標(H27)]</p> <p>新規就労者確保: 就労者5名 共同窯設置: 6基 生産量の増産: 30t/年/基 新規商品開発: 1商品 原木配給施設: 1箇所</p> <p>[H26 到達点]</p> <p>新規就労者確保: 就労者5名 共同窯設置: 6基 新規商品開発: 1商品</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>新規就労者確保: 就労者3名 → 実績2名 共同窯設置: 4基 → 実績4基 新規商品開発: 1商品 → 実績1商品</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係市町村(室戸市・東洋町)との産振補助金に係る打合せ ・生産者団体(炭玄グループ: 3経営体5基)への補助事業等の指導 ・産振補助金に係る打合せ(振興会) ・研修生の募集に係る打合せ(室戸市) ・新規研修生の応募者(3名)の受入を調整中 ・産振補助金に係る打合せ(東洋町) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原木調達に係る、原木の価格競争や伐り手の確保(室戸市炭玄グループ) ・木炭生産者全員の一本化に向けた調整(室戸市振興会) ・生産組合の法人化(東洋町生産組合) ⇒ 引続き法人化(組織一本化)への検討の働きかけ ・後継者(研修生)の確保 ⇒ 特用林産業新規就業者支援事業の活用

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>水産物のブランド化への取組</p> <p>■No. 10 芸東地域の水産物の付加価値の向上と販路の拡大(室戸市、東洋町、奈半利町、田野町、安田町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ [鮮魚] 芸東水産業改良普及協議会 ・ [加工品] <ul style="list-style-type: none"> (有)タカシン水産 高知県漁協 <p>■No. 11 加工体制の強化等によるシラスの魚価等の向上(安芸市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 民間企業 ・ 安芸漁協 ・ 安芸おじゃ娘 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>平均単価(キンメダイ): 1,200円/kg 水揚金額(大敷漁獲物): 15億円 加工品販売金額: 12,000万円</p> <p>[H26 到達点]</p> <p>平均単価(キンメダイ): 1,200円/kg 水揚金額(大敷漁獲物): 14億円 加工品販売金額: 9,000万円</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>室戸市場のキンメダイ取扱量: 2.3%、1,000万円 → 実績 1,180万円 加工品販売額: 8,600万円 → 実績 7,483万円 継続取引件数: 県外 10件、県内 12件 → 実績 県外 15件、県内 30件</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大阪の量販店でキンメダイの宣伝販売を実施 (4回: のべ 26店舗) ・ 定置網における高鮮度処理魚の生産販売を試行(13回) ・ 上記試行の結果報告と今後の対応を協議 ・ 定置網の朝どれ鮮魚のPR販売を実施(1回) ・ 近海マグロはえ縄漁船の地元水揚げを働きかけ ・ ハダカイワシ(低利用魚)のフライ商品を試作 ・ シーフードショー東京でキンメダイ等の商談を実施 ・ 高鮮度処理ピンナガの食味試験を実施 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 土佐乙女マグロ(船上高鮮度処理ピンナガマグロ)の販路拡大の取組 ⇒ 市場ニーズに応じた鮮度処理方法等、技術面の支援 ・ 近海マグロはえ縄漁による水揚(地元)価格形成 ⇒ 産地買受人の購買力や販路に応じた魚種、水揚量等の検討 <p>[目標 (H27)]</p> <p>水揚げ金額: 201,000千円</p> <p>[H26 到達点]</p> <p>水揚げ金額: 159,000千円</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>安芸水産売上額: 96,000千円 → 実績 63,945千円 (安芸漁協シラス水揚げ額 実績 135,734千円)</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安芸水産との協議(2回) ・他地域シラス漁業関係者との協議(2回) ・安芸おじゃ娘との協議(2回) ・シラスの鮮度維持に関する協議(3回)・シラス水揚状況の聞取り(須崎市の漁協) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間を通じた原魚の確保(安芸水産) ⇒ 香川県庵治漁協から原魚確保
<p>地域の1次産品等を活用した商品づくりと販路拡大</p> <p>■No.6 白下糖の生産の拡大と観光への活用(芸西村)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芸西村 ・芸西村製糖組合 ・生産者グループ <p>■No.13 安芸市の地域食材を活用した商品づくりの推進(安芸市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安芸市 ・生産団体・グループ ・民間事業者・加工業者 ・安芸市観光協会 ・「はばたけ弥太郎」安芸市推進委員会 ・安芸「釜あげちりめん丼」楽会 ・安芸市商工会女性部 ・JA土佐あき婦人部 ・入河内大根のこそう会 	<p>[目標(H27)]</p> <p>サトウキビ収穫量:40t</p> <p>[H26到達点]</p> <p>サトウキビ収穫量:39t</p> <p>[H25到達点]</p> <p>サトウキビ収穫量:38t → 実績39t</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芸西村地域AP等協議(3回) ・関係者協議(5回) ・高知県観光拠点等整備事業費補助金(芸西村伝承館改修)交付決定 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原材料(サトウキビ)の確保等の取組 ⇒ 品質向上のための栽培歴作成 サトウキビ作付面積拡大のための買取制度の検討 <p>[目標(H27)]</p> <p>—</p> <p>[H26到達点]</p> <p>—</p> <p>[H25到達点]</p> <p>—</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安芸「釜あげちりめん丼」楽会意見交換会(1回) ・安芸「釜あげちりめん丼」楽会検討会(4回) ・安芸「釜あげちりめん丼」楽会総会(1回) ・入河内大根のこそう会総会(1回) ・じゃこサミット実行委員会(8回) ・安芸まるごと丼提供店舗5店舗(安芸市内)

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 14 地域食材を活かした奈半利町の特産品づくりの推進(奈半利町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奈半利町 ・奈半利なんでも市加工グループ ・いちじく加工品グループ ・加領郷漁協女性部 	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントでの「ちりめん井」の販売(2回) ・「じゃこメルマガ」の配信開始 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施主体(「釜あげちりめん井」楽会など)の取組は地元での関係者などと連携した取組が弱い ⇒加工業者との意見交換や小学校への出前講座等で地元の足場を固める取組を進める <p>[目標(H27)]</p> <p>売上高(農産加工品):750万円 売上高(水産加工品):200万円</p> <p>[H26到達点]</p> <p>加工施設の整備</p> <p>[H25到達点]</p> <p>—</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加工施設整備に関して各加工グループ等との協議(18回) ・加工施設整備のための先進地視察(1回) ・加工グループメンバーの「農業創造セミナー(入門コース、応用・実践コース)への受講支援 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JA施設の整備に伴う地域APの修正 ⇒フォローアップ会議(9月)で修正予定 ・町整備の加工施設の取組 ⇒実施主体(漁協女性部など)との事業計画の策定に向けた協議
<p>■No. 15 田野町の地域資源を活用した新商品の開発と販路の拡大(田野町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四国部品(株)中芸事業所 ・民間企業 	<p>[目標(H27)]</p> <p>酒粕商品販売額:42,000千円</p> <p>[H26到達点]</p> <p>酒粕商品販売額:29,160千円</p> <p>[H25到達点]</p> <p>酒粕商品販売額:16,200千円 → 実績6,438千円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内外の高知県物産展、イベント等への出展(2回) ・産業振興計画シンポジウムでの商品展示(3回) ・新商品の開発・販売(2品目) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域食材を活用した新商品の開発 ・売上増加に向けた販路拡大

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	⇒ 商品コンセプトの明確化と商品の特色に応じた売り方・販売展開 生産者組織など関係者との連携構築 ・地域資源を活用した取組を行う新たな事業者の参加 ⇒ 課題解決に向けた取組計画の作成、実施
<p>東部地域の直販所等の強化と販路拡大に向けた仕組みづくり</p> <p>■No. 17 キラメッセ室戸「楽市」の機能強化(室戸市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・室戸市 <p>■No. 20 地場産品直販所「かっぱ市」の機能強化(芸西村)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芸西村 ・(有) かっぱ市 ・生産者グループ 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>直販所「楽市」来場者：258,000人</p> <p>[H26 到達点]</p> <p>整備完了</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>整備基本構想の策定</p> <p>→ 実績：基本構想・基本計画まとめ完了</p> <p>[取組状況]</p> <p>6月20日の産業振興推進総合支援事業費補助金審査会で保留</p> <p>7月28日の産業振興推進総合支援事業費補助金審査会で採択</p> <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東部博開催に合わせた施設整備の完成と審査会意見を踏まえた関係者との協議によるソフト面での機能強化 <p>[目標 (H27)]</p> <p>売上額：106,000千円</p> <p>[H26 到達点]</p> <p>売上額：125,000千円</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>売上額：119,000千円 → 実績 124,569千円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芸西村地域 AP 等協議 (2回) ・製糖体験メニュー実施についての協議 (1回) ・企画会の開催 (1回) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花卉類等の出展量の確保 ・新商品の開発及び新商品の原材料(サトウキビ等)確保 <p>⇒ 商品集荷システムの構築</p> <p> テイクアウト商品の充実</p> <p> 加工場・飲食施設等の充実</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 18 海の駅を拠点とした地域振興(東洋町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東洋町 	<p>[目標(H27)]</p> <p>来場者数:180,000人</p> <p>[H26到達点]</p> <p>来場者数:170,000人</p> <p>[H25到達点]</p> <p>新施設早期完成 → 実績:平成26年1月12日オープン</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェイスブックによる情報発信 ・地域特産品を活用した飲食メニューの提供 ・海の駅運営協議会開催(7/17) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加工品(加工施設)の検討 <p>⇒加工品開発に向けた来場者の動向とニーズの把握</p>
<p>広域的に連携した観光の推進</p> <p>■No. 21 安芸地域の観光振興の推進～東部地域博覧会の開催～(安芸地域全域)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安芸広域市町村圏事務組合 ・市町村 ・観光協会等 ・地域団体 ・民間事業者 ・高知県東部地域博覧会推進協議会 	<p>[目標(H27)]</p> <p>圏内主要施設訪問者数:140,000人</p> <p>圏内宿泊者数:150,000人</p> <p>[H26到達点]</p> <p>圏内主要施設訪問者数:140,000人</p> <p>圏内宿泊者数:150,000人</p> <p>[H25到達点]</p> <p>圏内主要施設訪問者数:125,000人 → 実績115,840人</p> <p>圏内宿泊者数:140,000人 → 実績141,000人</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東部博イベント審査会 3回 ・東部博企画運営部会 3回 ・東部博コアメンバー会 5回 ・東部博幹事会 1回 ・東部博総会 1回 ・東部博広報誘客部会 1回 ・東部博受入おもてなし部会 1回 ・高知県広域観光推進事業費補助金の交付決定 ・広域観光アドバイザーによる研修 13回 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施計画策定後の具体的な取組 <p>⇒ 東部博コアメンバー会などの各運営組織の設置 民泊の拡大や体験プログラムの磨き上げ 教育旅行の推進に向けた関係団体との協議 東部博をきっかけにした広域観光組織の立ち上げ</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 27 中芸地区における広域観光の推進(奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中芸広域連合 ・中芸観光協議会 ・中芸商工会 ・観光関連事業者等 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>—</p> <p>[H26 到達点]</p> <p>—</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>—</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域本部による事務局職員の業務支援(総括・支援員2名) ○中芸観光協議会運営会議の開催(2回) ○高知県東部博中芸推進委員会の開催(3回) ○中芸地域グルメ開発検討会の開催(1回) ○GW期間における臨時観光案内及び中芸観光キャンペーンの開催 ○東部博イベント審査会(5/13、6/11)へコアイベント提案(2件) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魅力ある旅行商品の造成 ・ガイド等の受入体制の整備 <p>⇒ 東部博(H26.12～、プレ東部博)に向けた協議会の運営体制を強化</p>

②上記以外で特記すべき取組

取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 22 世界ジオパーク認証を活かした観光の振興(室戸市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・室戸市 ・室戸ジオパーク推進協議会 ・室戸市観光協会 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>ジオパークガイド登録者数：40人</p> <p>ジオパーク関係施設来訪者：70,000人</p> <p>[H26 到達点]</p> <p>ジオパークガイド登録者数：60人</p> <p>ジオパーク関係施設来訪者：70,000人</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>ジオパークガイド登録者数：50人 → 実績61人</p> <p>ジオパーク関係施設来訪者：70,000人 → 実績79,657人</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知県産業振興推進ふるさと雇用事業活用 24,880千円 ・高知県観光拠点等整備事業費補助金活用 拠点施設外構工事実施設計・監理業務委託事業 7,999千円(事業費11,999千円) 拠点施設展示整備実施設計・監理業務委託事業 9,086千円(事業費13,630千円)

取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 23 イルカのふれあい体験による交流人口の拡大(室戸市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NPO法人室戸ドルフィンプロジェクト ・室戸市 	<p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受入体制の強化 ⇒ ジオガイド養成講座(10月以降)とこどもサマースクール(秋以降)の実施内容の検討 ・拠点施設整備 ⇒ 関係機関と拠点施設の展示物や運営体制等について協議 <p>[目標(H27)]</p> <p>室戸ドルフィンセンター来場者数: 27,000人</p> <p>[H26 到達点]</p> <p>室戸ドルフィンセンター来場者数: 27,000人</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>室戸ドルフィンセンター来場者数: 27,000人 → 実績 31,626人</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「海の駅とろむ クーポン iRUCA」を2,500部作成し、GW期間中の来訪者に集中的に配布しながら、アンケート調査を行い、今後の営業活動に生かすための情報収集を行った。 ・城西館限定プラン「キンメ井とドルフィン体験プログラム付き宿泊パックプラン」の販売開始(7/12～) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジオパーク等地域の観光素材を組み合わせた情報発信 ⇒ より多くの集客を図るための広報・営業の検討 周辺施設等との連携による集客
<p>■No. 24 岩崎弥太郎生家を核とした観光振興(安芸市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安芸市 ・安芸市観光協会 ・「はばたけ弥太郎」安芸市推進委員会 ・安芸市観光ボランティアガイドの会 ・民間事業者 	<p>[目標(H27)]</p> <p>—</p> <p>[H26 到達点]</p> <p>—</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>—</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「商い甲子園」実行委員会(6回) ⇒ 台風11号の影響により中止 ・安芸市ボランティアガイドの会総会(1回) ・「はばたけ弥太郎」推進委員会総会(1回) ・高知県観光拠点等整備事業費補助金の申請準備

取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 26 藤村製糸を活用した観光振興(奈半利町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・藤村製糸 ・なはり浦の会 ・奈半利町 ・なはり観光文化協会 	<p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東部博の拠点施設(パビリオン)の整備に向けた取組 ⇒ 岩崎弥太郎生家周辺の整備内容の検討 展示物等に関する三菱グループとの協議 廓中ふるさと館のリニューアル 整備に関する予算(安芸市9月補正)の確保 <p>[目標(H27)]</p> <p>町並みガイド実績: 800人/年</p> <p>[H26 到達点]</p> <p>記念館の整備</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>—</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記念館建設に関して藤村製糸株式会社との協議: 4回 ・「なはり浦の会」の活動拠点の確認及び活動支援: 6回 ・観光拠点等整備事業補助金の調整: 5回 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設整備後の効果的な運営(活用)策 ⇒ 魅力ある展示内容の検討 地元ガイド組織の「なはり浦の会」との連携
<p>■No. 30 世界に2つの「モネの庭」の誘客強化による交流人口の拡大(北川村)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北川村 ・(株)きたがわジャルダン 	<p>[目標(H27)]</p> <p>入園者数: 65,000人</p> <p>[H26 到達点]</p> <p>入園者数: 60,000人</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>入園者数: 60,000人 → 56,281人(H25.2~H26.1)</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シェフ配置 ・講師との直接契約による接客マナー研修の実施 ・カフェ改善協議 ・月替わりランチメニューの提供 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来場者の増、経営収支改善の取組 ⇒ 観光協会や宿泊施設などの関係機関との連携強化 飲食部門(カフェメニュー、セルフ形式)の検討

取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 32 安田中山地区の活性化プロジェクト (安田町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安田町 ・中山を元気にする会 ・安田川漁協 ・自然薯生産組合 ・味工房じねん ・中山合同女性部 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>—</p> <p>[H26 到達点]</p> <p>—</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>—</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安田ふるさと応援隊の増員 (1名、4/1) ・中山を元気にする会開催 (5回)、交流会開催 (1回) ・集落活動センター整備工事開始 (10月末まで(予定)) ・シェアオフィス仮入居 (東京映画社、11/1 移転予定) ・東京映画社連携事業 (子供による映像制作) 開始 (8/4) ・山芋試験栽培開始 (5月) ・地域づくり (小さなビジネス) 補助金実施計画書の提出 ・高知大学 UBC 赤池特任講師と連携開始 ・高知大・安田町連携協定事業の整理 (8/1) ・温泉湧出調査 (電磁探査) 完了 ・地域防災に関する地元協議 (間下地区、5回) ・町有バスを活用した買い物支援事業試行 (毎月第3木曜) ・地域文化 (獅子舞) の保存・継承に関する協議 (小川地区、5/27) ・地域文化 (獅子舞) 体験事業 (7/27) ・認知症対策に関する啓発活動 (4回) ・「なかやま守り隊」の結成 (7/17) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動拠点の整備 ⇒ 整備の早期着手 関係機関や大学等の連携の強化
<p>■No. 34 馬路村魚梁瀬地区の活性化プロジェクト (馬路村)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・馬路村 ・魚梁瀬地区住民団体 (自治会) 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>—</p> <p>[H26 到達点]</p> <p>—</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>—</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民による協議会 (2回) ・ふるさと応援隊募集要項、設置要綱等整備、役場内協議 ・ふるさと応援隊 第一次選考 (書類選考) (7/31)

取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>第二次選考(面接)(9/6 予定)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「高知暮らしフェア」においてふるさと応援隊募集説明 (2回) ・丸山公園現状調査(樹木医による桜診断)(4/15) ・野生鳥獣に強い集落づくり事業 チーム会(2回) 集落全体会(1回) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部からの人材(ふるさと応援隊)活用 ⇒ 地域住民による検討と移住相談会(説明会)への参加

2 平成 26 年度産業振興推進総合支援事業費補助金の導入状況 (交付決定又は採択事業)

単位：千円

取組	事業概要	総事業費 (補助金額)
キラメッセ室戸「楽市」の機能強化	加工販売所の建設	100,810 (50,000)
	駐車場の拡張	
	合併浄化槽の交換・移設	
	公衆トイレの改修	

3 地域アクションプランの追加、修正、削除 (予定) 項目

[修正] ■ 「No. 14 地域食材を活かした奈半利町の特産品づくりの推進 (奈半利町)」の事業主体に、「JA土佐あき」を追加する。

(理由) 現プランに追加して、「JA土佐あき」が所有する加工場の改修も行うこととなったため

■ 「No. 21 安芸地域の観光振興の推進～東部地域博覧会の開催～ (安芸地域全域)」の目標値の修正

(理由) 推進協議会総会で承認された数値目標と、整合性を持たせるため

4 県民参画に向けた取組

- ・中部地区集落活動協議会 (北川村) の場で「第 2 期産業振興計画 ver. 3」の概要について説明 (4 月 17 日)
- ・5 月 23 日開催のシンポジウムへの参加要請を個別に管内企業に行った際「第 2 期産業振興計画 ver. 3」の概要について説明

5 相談案件：7 件

NO.	相談日	事業種別	相談内容
1	4/8	農業	「黒糖」の製造・販売について
2	5/19	農業	「ミョウガ」を使った加工品の製造・販売について
	6/4		
	6/26		
	7/1		
3	5/20	水産加工業	「スジアオノリ」などの養殖について
			体験観光の施設の整備について 加工施設の稼働率向上対策について
4	5/29	農業	「イタドリ」を使った加工品の製造について
5	6/6	飲食店	「ゆず」を使った加工品の製造・販売について
6	6/6	園芸	「果物」を使った加工品の製造・販売について
7	7/15	農業	「ゆず」加工品の販売促進資材 (食品表示入りのラベルデザイン、説明パネルなど) の制作について

修正項目(案)

【安芸地域】

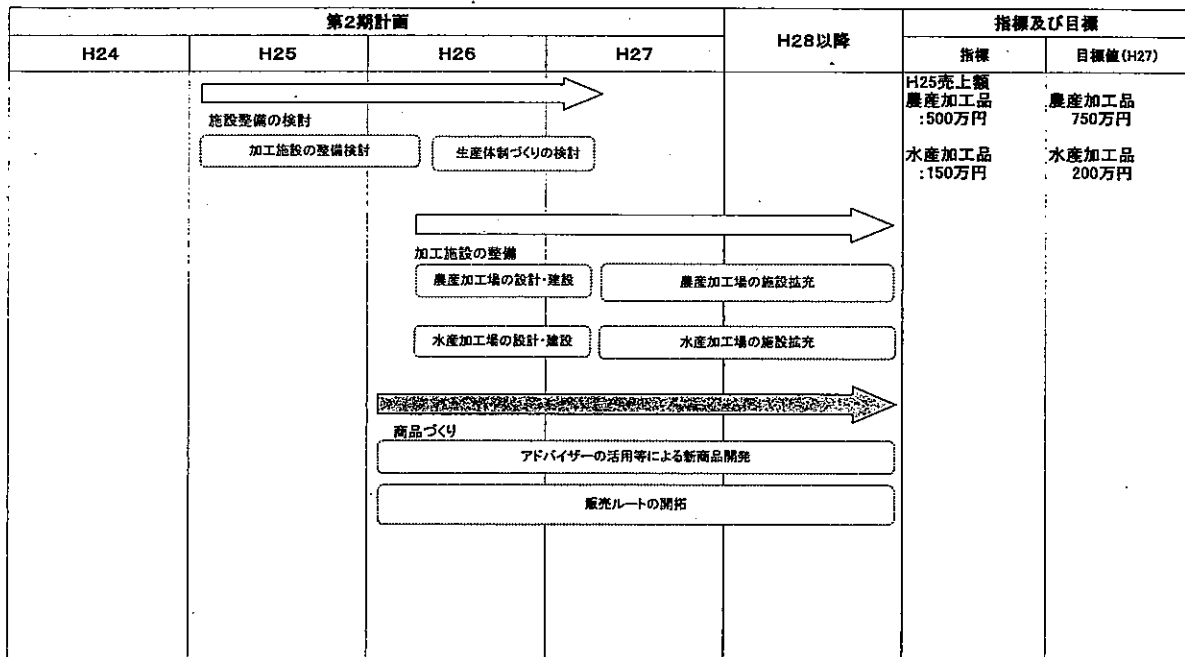
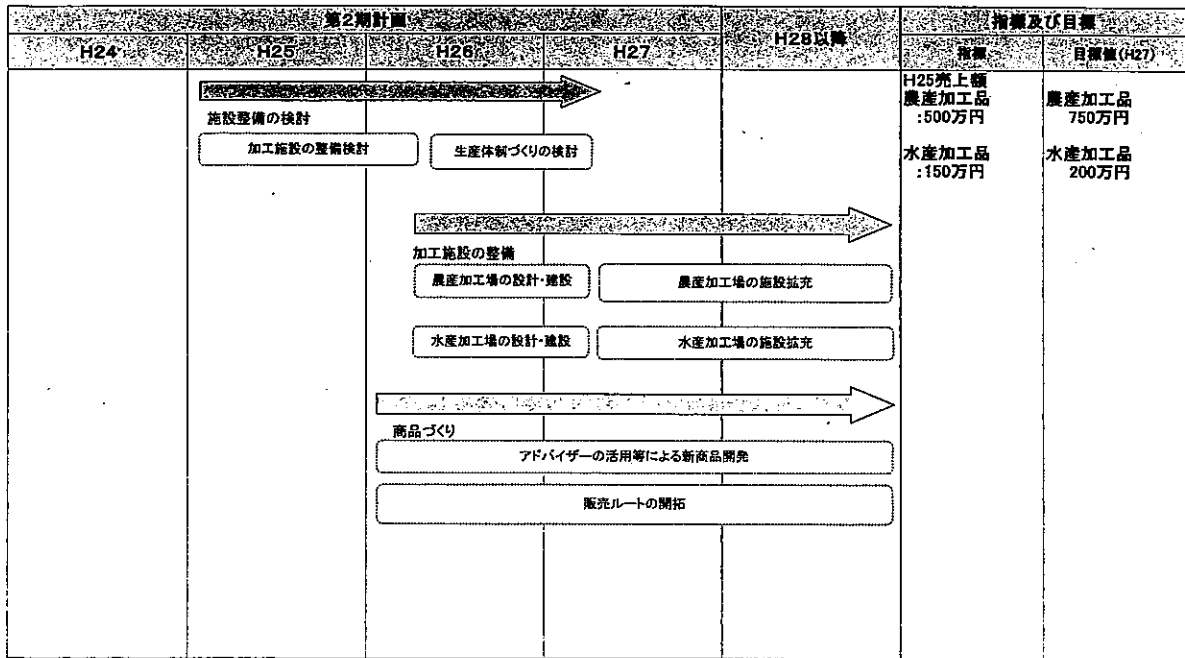
項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
14 地域食材を活かした奈半利町の特産品づくりの推進 (奈半利町)	地域資源を活用した加工品をつくる施設を整備することにより、地域特産品の生産と販路の拡大を図るとともに地域の生産者の収入の安定化を目指す。	・奈半利町 ・奈半利なんでも市加工グループ ・いちじく加工品グループ ・加賀郷産協女性部			◆施設整備の検討 ◆加工施設の整備 ◆商品づくり

修正前



項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
14 地域食材を活かした奈半利町の特産品づくりの推進 (奈半利町)	地域資源を活用した加工品をつくる施設を整備することにより、地域特産品の生産と販路の拡大を図るとともに地域の生産者の収入の安定化を目指す。	・奈半利町 ・奈半利なんでも市加工グループ ・いちじく加工品グループ ・加賀郷産協女性部 ・JA土佐あき			◆施設整備の検討 ◆加工施設の整備 ◆商品づくり

修正後



第2期計画					指標及び目標		
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)	
	安芸地域における地域博覧会の開催 博覧会推進協議会の立ち上げ 基本計画の策定 実施計画の策定 プレ博覧会の実施 博覧会の開催					圏内主要施設訪問者数 (H22:120,394人) 圏内宿泊者数 (H22:137,439人)	140,000人 150,000人
	広域観光組織の立ち上げと観光協会等の機能強化 観光協会等の機能強化 広域観光組織の立ち上げ及び体制強化					圏内観光施設、イベント等集客数(東部地域博覧会の開催に向けた基礎数値) (平成24年度 777,174人)	圏内観光施設、イベント等集客数(東部地域博覧会による目標数値) (910,250人)
	戦略的な広報・PR活動の展開 旅行エージェント等への戦略的な広報活動の展開及び観光情報の発信強化						
	周遊観光や教育旅行の商品づくり、スポーツ大会等の誘致と観光拠点等の磨き上げ 観光拠点等の磨き上げ <東戸・東戸エリア> 室戸ジオパーク、生鬼・白浜海岸・吉良川町並みなど <中芸エリア> モノの館・鳥居渡森林道遺産、中国橋太郎館、泉平利源センター、安田まちなみ交流館・和、唐浜食わず貝、遠づり体験ハウス、飯村屋敷など <安芸・芸西エリア> 岩崎宗太郎生家、土原黒中、野良崎計、伝承館、等々浜など						
	教育旅行商品づくりと体験プログラムの磨き上げ 地域内スポーツ拠点施設等を活用した大会や合宿等の誘致と施設整備(安芸市野球場・中芸広域体育館・室戸広域公園・安芸広域公園など)						
	受入体制の整備 民泊の推進や人材の養成など受入体制の整備						

※主要施設:キラメッセ室戸(新館)、中国橋太郎館、モノの館マルモックン、安芸市立香浦美術館、安芸市歴史民俗資料館、内原野陶芸館



第2期計画					指標及び目標		
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)	
	安芸地域における地域博覧会の開催 博覧会推進協議会の立ち上げ 基本計画の策定 実施計画の策定 プレ博覧会の実施 博覧会の開催					圏内主要施設訪問者数 (H23~25の平均値:218,000人) 圏内宿泊者数 (H23~25の平均値:133,000人)	2,556,000人 150,000人
	広域観光組織の立ち上げと観光協会等の機能強化 観光協会等の機能強化 広域観光組織の立ち上げ及び体制強化					圏内観光施設、イベント等集客数(東部地域博覧会の開催に向けた基礎数値) (平成23~25年度の平均値:705,000人)	圏内観光施設、イベント等集客数(東部地域博覧会による目標数値) (2,705,000人)
	戦略的な広報・PR活動の展開 旅行エージェント等への戦略的な広報活動の展開及び観光情報の発信強化						
	周遊観光や教育旅行の商品づくり、スポーツ大会等の誘致と観光拠点等の磨き上げ 観光拠点等の磨き上げ <東戸・東戸エリア> 室戸ジオパーク、生鬼・白浜海岸・吉良川町並みなど <中芸エリア> モノの館・鳥居渡森林道遺産、中国橋太郎館、泉平利源センター、安田まちなみ交流館・和、唐浜食わず貝、遠づり体験ハウス、飯村屋敷など <安芸・芸西エリア> 岩崎宗太郎生家、土原黒中、野良崎計、伝承館、等々浜など						
	教育旅行商品づくりと体験プログラムの磨き上げ 地域内スポーツ拠点施設等を活用した大会や合宿等の誘致と施設整備(安芸市野球場・中芸広域体育館・室戸広域公園・安芸広域公園など)						
	受入体制の整備 民泊の推進や人材の養成など受入体制の整備						

※主要施設:キラメッセ室戸(新館)、中国橋太郎館、モノの館マルモックン、安芸市立香浦美術館、安芸市歴史民俗資料館、内原野陶芸館、安芸こころがし社中等安芸地域8市町内の計4施設・体験及び東瀬川ガールズ祭り、室戸灯台合衆り、ゆずりはじまる祭等の東部周遊イベント

物部川地域アクションプランの進捗状況等

H 2 6 . 9 . 1 2

物部川地域本部

1 地域アクションプランの上半期の実施状況（総括）

(1) 総評

全 24 項目について、実行支援チームを編成し、支援及び進捗管理を行っている。

必要な情報の共有や事業進捗に向けた協議など、支援チーム員と関係者が連携して取り組んでおり、全項目において概ね計画どおり進捗している。

園芸主幹品目のうち、シシトウ、エメラルドメロン、ニラにおいては、収量増や品質向上に向けて、炭酸ガス施用効果の検証を行うなど環境制御技術の取り組みが順調に進んでいる。

青果出荷日本一のユズにおいては、高齢化等により農作業の一部を行うことができなくなった生産農家が、受託組織である「ゆずもり」に防除作業を委託し、産地を維持する仕組みが機能し始めた。

また、防除作業の効率化を図るためのスピードスプレーの年度内導入に向けて、取り組みを開始した。

地産地消・食育の推進においては、4月に移転開業したJA長岡の直販所「なの市」及び飲食店「なのカフェ」が、地元の豊富な農畜産物とそれらを活かしたスイーツの販売を行っており、売上額及び来客数とも順調に推移している。

6次産業化の推進においては、夜須の協同組合やすらぎ市が、平成25年度に加工施設の整備を行い、4月からメロンパンをはじめとするトレフルッタの加工品販売を始めた。

企業組合ごめんシャモ研究会は、シャモの安定的な生産を図るため、高知農業高校に整備した貯卵及び孵卵施設の運用を開始した。

観光の取り組みにおいては、南国市では同市の他に香南市、香美市、高知市のスイーツ店を対象としたスイーツグランプリを昨年引き続き実施した。香南市では「長谷寺の坐禅ツアー」の実施やトレイルランニングレースの募集を行い、香美市では新たに「べふ峡温泉スプリングフェスティバル」を実施し、恒例の「川上様夏祭り」や「奥物部湖水祭り」を開催した。

8月10日未明に本県に上陸した台風11号により、一部で鶏舎の損壊及びニラやメロンを中心に農作物や施設等に被害が生じたため、農家やJA等と連携し、復旧に向けて取り組んでいる。

(2) 具体的な動き

①地域の重点的な動き

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
園芸主幹品目の再構築及び強化 ■No. 1 南国市の園芸主幹品目シシトウの再構	[目標 (H27)]

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>築(南国市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ J A 南国市 ・ J A 長岡 ・ J A 十市 	<p>シシトウ販売額：10.8億円</p> <p>[H26 到達点]</p> <p>シシトウ販売額：10.6億円</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>シシトウ販売額：10.4億円 → 実績 9.7億円</p> <p>※販売額は J A への入金額</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 木質資源利用促進事業により 2 戸が木質ペレットボイラーを導入する予定である。 ・ 炭酸ガス施用の実証ほの調査を行った(4回)。 ・ 新規栽培者に対する個別巡回等(4戸延 25回)を行い、栽培技術及び経営改善の指導を実施した。 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>省エネ技術導入に向けた取り組み</p> <p>⇒木質バイオマスボイラー、ヒートポンプについて、補助事業等を活用した導入を推進していく。</p> <p>増収に向けた取り組み</p> <p>⇒炭酸ガス施用について、27園芸年度も継続して実証試験を実施し、増収効果を検討する。</p> <p>担い手育成</p> <p>⇒26園芸年度の結果について分析を行い、次作に向けた目標設定を行う。</p>
<p>■No.3 エメラルドメロンの販売力向上対策(香南市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ J A 土佐香美 	<p>[目標(H27)]</p> <p>エメラルドメロン販売額：4.8億円</p> <p>[H26 到達点]</p> <p>エメラルドメロン販売額：4.8億円</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>エメラルドメロン販売額：4.8億円 → 実績 4.5億円</p> <p>※販売額は J A への入金額</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 名古屋から販売店の組合が来高して現地栽培状況の確認や商談を行った。 ・ 徳島、兵庫、愛知及び県内で試食宣伝を行った。 ・ 炭酸ガス発生装置導入農家から炭酸ガス施用実態の聞き取り調査を行った。 ・ 梅雨、高温期に適した栽培管理方法(温度・灌水・換気管

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No.4 ニラの産地力強化「日本一のニラ産地の維持・拡大へ向けた仕組みづくり」(香南市・香美市)</p> <p>《事業主体》</p> <p>・JA土佐香美</p>	<p>理など)について現地検討会を開催した(4/7、6/11、7/4)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・抑制栽培での天敵利用について、試験導入後の実証結果やアンケート調査結果の報告及び天敵活用のための勉強会を開催した(6/27)。 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収量品質の向上 ⇒炭酸ガス施用について施用効果の検証と改善策の検討を行う。 ・難病虫害防除対策 ⇒抑制栽培(1作目)について、天敵導入による防除効果の再検証を行う。 <p>[目標(H27)]</p> <p>ニラ販売額：30.0億円</p> <p>[H26到達点]</p> <p>ニラ販売額：29.0億円</p> <p>[H25到達点]</p> <p>ニラ販売額：29.0億円 → 実績 23.6億円</p> <p>※販売額はJAへの入金額</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハウスの品種比較や露地の品種に合わせた栽植方法、遮光資材効果の実証ほを設置した(7カ所)。 ・ハウス栽培における緩効性肥料の実証ほを設置した(1カ所)。 ・露地で軟腐病対策実証ほを設置し、定期的に薬剤散布を行い、防除効果を調査する。 ・電照栽培と炭酸ガス施用効果の検証を行っている。 ・異物混入対策の目慣らし会を開催し、安全・安心チェックシートによる点検を行った。 ・作型改善案をもとに面談し、今後の栽培計画を検討した。 ・野市地区の新規就農者の支援チーム員として支援することを3戸の農家から了解を得た。 ・生産者やJAから提供を受けた経営状況や販売に関するデータの分析を行う。 ・調整作業の機械化についてメーカーの視察調査や実演会の開催、処理能力の調査を行った。 ・昨年12月の突風被害に遭ったハウスで、25年度災害レンタル繰越着工により、3戸32aのハウスが6月末までに完成

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニラのプロモーションについて、地産地消・外商課、産地・流通支援課と打合わせを行い、個包装に「高知家」のロゴを入れることを決定した。 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出荷量の増加及び周年安定生産 ⇒産地の維持を図るため、病害虫対策及び有望品種の実証、月ごとの栽培指針の作成配布等を行うとともに調整作業の機械化を検討していく。 ・新規就農者等の育成・確保 ⇒部会でのバックアップ体制の検討を行い、必要な対策を講じていく。 ・部会員の経営改善の仕組み作り ⇒規模別の課題を抽出し、経営改善の指導に取り組む。
<p>ユズの総合的な産地強化</p> <p>■No. 5 生産から販売までのユズの総合的な産地強化対策(香美市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・香美市 ・JA土佐香美 	<p>[目標(H27)]</p> <p>ユズ販売額：5億円</p> <p>[H26到達点]</p> <p>ユズ販売額：4.5億円</p> <p>[H25到達点]</p> <p>ユズ販売額：4.5億円 → 実績4.7億円</p> <p>※販売額はJAへの入金額</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユズ産地協議会、委員会、座談会、若手生産者との意見交換会を開催し、出荷量維持のための方策を検討した。 ・座談会で「ユズ産地構造改革計画」を周知した。 ・ユズ生産部会三役が、「ユズ産地構造改革計画」を基に産地の将来像を検討し、委員会で提案を行った。 ・担い手として10名をリストアップし、意向を調査した。 ・地区委員が中心となり、「ゆずもり」として防除作業を受託した(5/16)。 ・新規就農者などを対象とした勉強会を開催(7/18)し、殺菌剤の使用方法などについて認識を深めた。 ・「こうち農業確立総合支援事業」を活用して、スピードスプレヤーの導入申請をすることとした。 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規模拡大、作業受委託に向けた取り組み

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>⇒園地の基盤整備のためにせま地直しを実施し、防除作業の省力化のためにスピードスプレー等の機械化の推進を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担い手の育成 <p>⇒生産安定のための技術指導や定期的な学習会の開催を行うとともに、担い手が部会活動などに積極的に参加できるように支援する。</p>
<p>地産地消・食育の推進</p> <p>■No. 6 直販所「あけぼの市」の機能強化による農家の所得向上及び交流人口の拡大（南国市）</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ J A長岡 <p>■No. 7 地域農産物を活用した直販所「ひかり市」の施設拡充（南国市）</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ J A十市 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>直販所等の売上額：100,000 千円 直販所等の雇用者数：8 人 ながおか温泉入場者数：19 万人</p> <p>[H26 到達点]</p> <p>直販所等の売上額：100,000 千円 直販所等の雇用者数：12 人 ながおか温泉入場者数：16 万人</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>直販所等の売上額：33,000 千円 → 実績 31,300 千円 直販所等の雇用者数：3 人 → 実績 14 人 ながおか温泉入場者数：16 万人 → 実績 15.3 万人</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直販所「なの市」と飲食店「なの cafe」がオープンした(4/2)。 ・運営会議を随時開催し、業務改善に努めている。 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安定的な供給体制の構築 ⇒安定的な品揃えと品質維持のため生産者とスタッフの連携強化に努める。 ・経営安定化に向けた取り組み。 ⇒役員会等において、売上げ向上と人件費を含む費用の適正化の検討を行っていく。 <p>[目標 (H27)]</p> <p>直販所の営業日数：週 6 日 直販所への出店者数：100 人 直販所売上額：50,000 千円 直販所スタッフ雇用（新規）：3 名</p> <p>[H26 到達点]</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No.9 地産地消・食育の推進(南国市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JA南国市出資農業生産法人(株)南国スタイル ・JA南国市、JA長岡、JA十市 ・南国市地産地消推進協議会 ・農家レストランまほろば畑 ・南国市 	<p>直販所の営業日数：週6日 直販所への出店者数：100人 直販所売上額：34,500千円 直販所スタッフ雇用(新規)：9名</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>直販所の営業日数：週6日 → 実績 週6日 直販所への出店者数：90人 → 実績 93人 直販所売上額：34,500千円 → 実績 22,900千円 直販所スタッフ雇用(新規)：5名 → 実績9名</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産者会議を実施した(4/23)。 ・水曜日の営業を開始し、年始を除き基本的に週7日の営業とした(6/4～)。 ・新商品(米粉と小麦のブレンドパン(7/1～)、生姜シロップ(7/20～))の販売を開始した。 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安定的な供給体制の整備 ⇒出荷会員を確保し、直販部門の充実を図る。 ・加工品の開発及び販売 ⇒夏場の品薄対策と売上げ増加のため加工品の開発及び販売を行う。 <p>[目標(H27)]</p> <p>学校給食における地元野菜の供給割合金額ベース：15% 業務筋への供給：15事業体</p> <p>[H26 到達点]</p> <p>学校給食における地元野菜の供給割合金額ベース：16% 業務筋への供給：18事業体</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>学校給食における地元野菜の供給割合金額ベース：13% → 実績 16.3% 業務筋への供給：18事業体 → 実績 17事業体</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まほろば畑の各グループにヒアリングを実施し、現状における課題の聞き取りを行った(5/15～5/27)。 ・まほろば畑総会の開催(7/8) ・学校給食の配送業務について三者協議(株)南国スタイル、

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>南国市農林水産課、南国市教育委員会学校教育課)を行った(7/28)。</p> <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 配送効率の向上 ⇒ 配送体制や配送ルート、受注方法の検討等を行い、配送効率の向上に努める。 ・ まほろば畑の運営方法の検討 ⇒ 農家レストランまほろば畑の運営継続に向けて、後継者の育成や労務軽減を図るため、課題の洗い出し及び改善策を検討していく。
<p>豊富な地域資源を活用した6次産業化の推進</p> <p>■No. 8 加工品販売による夜須地域の活性化(香南市)</p> <p>《事業主体》 協同組合やすらぎ市</p> <p>■No. 10 「ごめんケンカシャモ」のブランド化の取組(南国市)</p> <p>《事業主体》 ・ 企業組合ごめんシャモ研究会</p>	<p>[目標(H27)] 加工品販売額: 1億円 [H26 到達点] 加工品販売額: 9,600万円 [H25 到達点] 加工品販売額: 8,000万円→実績9,634万円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成25年度産業振興推進総合支援事業費補助金を活用して整備した加工施設が3月に完成し、4月からメロンパンを初めとする加工品の販売を開始した。 ・ 主力商品の生産計画及び販売額等の方針を確認した(4/27、5/25)。 ・ 産業振興計画シンポジウムで実践発表を行った(5/23)。 ・ 加工業者と連携し、新商品(ジュレ3品)の開発及び販売を開始した(7/25)。 <p>[課題と今後の対応] 主力商品の安定生産及び販売 ⇒ 原料の適期確保と商品の品質安定化を図る。</p> <p>[目標(H27)] ごめんケンカシャモ提供店舗数: 18店舗 シャモ目標飼育羽数: 3,000羽 ごめんケンカシャモを使った加工品数: 3品 [H26 到達点]</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 14 地域の特産品づくり～農産物加工への取組～（南国市）</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なんこく空の駅推進協議会、西島園芸団地など既存企業、組織、グループ ・新しい組織、グループ ・JA南国市出資農業生産法人(株)南国スタイル ・南国市商工会 ・南国市観光協会 	<p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存取引先と定期的な情報交換を行っている(1～2回/週)。 ・昨年度実績や今年度の計画や課題について、関係者と協議を行った(5/14)。 ・現況等について、加工場担当者と協議及び意見交換を行った(8/1)。 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>衛生管理の維持向上</p> <p>⇒加工体制の見直し及び自主マニュアルの徹底を図る。</p> <p>[目標(H27)]</p> <p>地域産品を活用した新しい組織・グループ設立数(新規): 10組織・団体</p> <p>開発商品売上額:1,000万円(40品目)</p> <p>[H26到達点]</p> <p>地域産品を活用した新しい組織・グループ設立数(新規): 8組織・団体</p> <p>開発商品売上額:3,000万円(24品目)</p> <p>[H25到達点]</p> <p>地域産品を活用した新しい組織・グループ設立数(新規): 8組織・団体 → 実績 5組織・団体</p> <p>開発商品売上額:1,900万円(24品目) → 実績 2,900万円(21品目)</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域特産品等開発事業(南国市)の募集を開始した(5/1～)。 ・ピワ葉茶ティーパックの商品化に向けて、試飲アンケートを行った(6/16～19)。 ・地域特産品等開発事業審査会を開催し、ヤギミルクの販路拡大等の事業計画が採択された(7/22)。 ・集落活動センター「チーム稲生」でのピワ葉茶ティーパックの販売開始に向けて、作業工程のマニュアル化等関係者で協議を開始した(8/1～)。 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>特産品づくりのプレーヤーの発掘・育成</p> <p>⇒地域特産品等開発事業(南国市)及び実践型地域雇用創造事業(厚生労働省)等を活用してプレーヤーの発掘及び育成に取り組む。</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 15 香美市ブランドの確立・特産品づくり(香美市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・香美市観光協会 ・食品加工グループ 	<p>[目標(H27)]</p> <p>開発商品売上額: 6,300千円(20品目)</p> <p>[H26到達点]</p> <p>開発商品売上額: 7,000千円(16品目)</p> <p>[H25到達点]</p> <p>開発商品売上額: 5,700千円(16品目)</p> <p style="padding-left: 40px;">→ 実績 6,500千円(13品目)</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(一社)香美市観光協会が、べふ峡温泉スプリングフェスティバルを開催し、鹿肉メニューや特産品の販売を行った(4/29)。また、香美市内外で開催されるイベントに参加し、シカ商品やユズ加工品などを販売し、特産品のPRを行った(8回)。 ・農業創造セミナーにコハマ農産物直販所と物部町婦人会(ポンド・エ・トッティ)が参加した(7/17～)。 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>商品の販売促進及び販路開拓</p> <p style="padding-left: 20px;">⇒イベント等に参加し、特産品の販売及びPRを行っていく。</p>
<p>地域に育つ県産材の有効活用</p> <p>■No. 11 民有林における素材の増産(物部川地 域全域)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各森林組合 ・林業事業体等 	<p>[目標(H27)]</p> <p>「森の工場」整備済面積: 19,000ha</p> <p>素材生産量(民有林のみ): 47,500 m³</p> <p>[H26到達点]</p> <p>「森の工場」整備済面積: 18,500ha</p> <p>素材生産量(民有林のみ): 37,600 m³</p> <p>[H25到達点]</p> <p>「森の工場」整備済面積: 18,127ha → 実績 18,143 ha</p> <p>素材生産量(民有林のみ): 30,600 m³ → 実績 42,000 m³</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度の素材増産のための森林整備事業について森林組合及び林業事業体への説明会を行った(2回)。 ・森林経営計画策定に向け、香南市及び香美市の3地区において、地元説明会を行った(4/26、7/12、7/29)。 ・林業事業体の森の工場1団地が新規に認定された(5/19)。

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 12 木質バイオマスの活用に向けての取組(物部川地域全域)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南国市 ・香南市 ・香美市 ・JA南国市 ・JA長岡 ・JA十市 ・JA土佐香美 	<p>・ホームページや南国市の広報誌により間伐推進のPRを実施した(8/1、9/30 予定)。</p> <p>[課題と今後の対応]</p> <p>森林経営計画の策定 ⇒労働力の確保や機械装備などの課題に留意して、森林経営計画を策定していく。</p> <p>[目標(H27)]</p> <p>ペレット利用量: 1,230 t 排出量取引: 1,500 t-co2</p> <p>[H26 到達点]</p> <p>ペレット利用量: 630 t</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>ペレット利用量: 517 t → 実績 575 t</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木質バイオマスボイラー導入に向けて、森林・林業再生基盤づくり交付金を活用した木質資源利用促進事業への対応についての打ち合わせを行った(4/17)。 ・4JA共同灰処理に向けた打ち合わせを行った(4/24)。 ・木質バイオマスボイラー導入審査会を開催した(5/23)。 ・木質バイオマスエネルギー利用促進協議会を開催した(6/4)。 ・木質バイオマス燃焼灰の自ら利用の手引きを公表(7/31)した。 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>ボイラー導入、4JA共同灰処理の進捗状況の確認 ⇒関係機関と連携し、補助事業等の活用を図っていく。</p>
<p>歴史と伝統ある地場産業の振興</p> <p>■No. 19 地場産業(土佐打刃物、フラフ)の振興(香美市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知県土佐刃物連合協同組合 ・香美市商工会 ・フラフ製造業者 ・香美市観光協会 	<p>[目標(H27)]</p> <p>刃物製造業者数: 現状維持</p> <p>[H26 到達点]</p> <p>刃物製造業者数: 現状維持</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>刃物製造業者数: 現状維持 → 実績 1者減少(35事業者)</p> <p>[取組状況]</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>・大型外国客船の高知新港への寄港に合わせて、物販ブースにてくじらナイフの展示販売を行った(4/20)。</p> <p>・積丹ソーラン味覚まつりで土佐打刃物の展示販売を行った(6/29)。</p> <p>[課題と今後の対応] 土佐打刃物後継者育成 ⇒関係者で「伝統的工芸品産業等後継者育成対策事業」の検討及び後継者育成プランを協議していく。</p>
<p>体験型観光商品の充実及び広域観光の取組の推進</p> <p>■No. 20 観光事業から観光産業へ～観光産業の振興～(南国市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南国市観光協会 ・市内各観光に関わる企業・団体・グループ 	<p>[目標(H27)]</p> <p>観光協会の会員数：150</p> <p>一般社団法人数(観光協会の法人化)：1組織</p> <p>主要4観光施設※の入り込み数：500,000人</p> <p>[H26到達点]</p> <p>観光協会の会員数：85</p> <p>一般社団法人数(観光協会の法人化)：1組織</p> <p>主要4観光施設※の入り込み数：524,000人</p> <p>[H25到達点]</p> <p>観光協会の会員数：85人 → 実績75人</p> <p>一般社団法人数(観光協会の法人化)：1組織 → 実績1組織</p> <p>主要4観光施設※の入り込み数：517,000人 → 実績524,000人</p> <p>※県立歴史民俗資料館、西島園芸団地、パシフィックゴルフ(以上、来場者)、道の駅南国風良里(ショップ、直販所のレジ通過人数)</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岡豊山さくらまつり・土佐の食1グランプリを開催した(4/5、6)。 ・第2回ごめん祭を開催した(5/11)。 ・長宗我部フェスを開催した(5/17)。 ・第2回スイーツグランプリ実施(2/22～6/5投票、7/4結果発表) ・西島園芸団地ドライミスト設備を設置し、「いちごカフェ」をオープンした(7/20)。 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験型観光の推進

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 21 体験観光等の旅行商品化と販売の推進・地域の観光情報の発信(香南市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・香南市観光協会 ・地域の体験メニュー等提供団体 	<p>⇒コンテンツの創出、磨き上げ、育成、ネットワーク化に取り組んでいく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光協会会員の拡大 ⇒観光協会が主催するイベント等を通じて、会員の拡大を図る。 <p>[目標(H27)]</p> <p>年間プロモーション活動：年6回以上(年のべ50社以上) 主催旅行の開催：10コース・募集200人以上</p> <p>[H26到達点]</p> <p>年間プロモーション活動：年6回以上(年のべ50社以上) 主催旅行の開催：10コース・募集200人以上</p> <p>[H25到達点]</p> <p>年間プロモーション活動：年6回以上(年のべ50社以上) →実績 年2回(年のべ31社) 主催旅行の開催：10コース・募集200人以上 →実績 10コース・募集530人</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごめん・なはり線酒蔵見学ツアーの下見及び打合せを行った(5/5)。 ・長谷寺座禅ツアーの下見及び打合せを行い、9月までに4回開催する予定で募集を開始した(6/29・7/26実施 計42名参加、8/19・9/21各20名募集)。 ・「第1回歌舞伎でまちおこし実行委員会」を開催した(6/3)。 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>旅行企画の多様化と催行 ⇒地域素材を活用して多様化を図るとともに、告知方法の改善を図る。</p>
<p>■No. 22 「森の駅」を中心とした体験型観光の推進(香美市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・香美市 ・香美市観光協会 ・地域内の観光施設及び体験型観光メニュー等の提供団体 	<p>[目標(H27)]</p> <p>体験プログラム数：20プログラム 体験プログラム受け入れ人数：500人</p> <p>[H26到達点]</p> <p>体験プログラム数：18プログラム 体験プログラム受け入れ人数：2,800人</p> <p>[H25到達点]</p> <p>体験プログラム数：16プログラム → 実績17プログラム 体験プログラム受け入れ人数：400人 → 実績2,700人</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 23 広域観光の取組の推進(物部川地域全域)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知中央広域観光協議会のうち、南国市、香南市、香美市、(一社)南国市観光協会、(一社)香南市観光協会、(一社)香美市観光協会 	<p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「歌で巡る史跡うおーく」を開催(4/20)。 ・べふ峡温泉スプリング・フェスティバルを開催し、いざなぎ流舞神楽の鑑賞、御幣切り体験、竹食器作り体験を行った(4/29)。 ・龍河洞祭りとそれに合わせた子ども向けイベントを企画し実施した(8/23 予定)。 ・県観光アドバイザーを招へいし、体験型観光の研修及び講演会を実施した(8/29 予定)。 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>体験メニューの充実</p> <p>⇒地域と香美市観光協会が連携し、新たな体験プログラムの造成や参加者の受け入れ体制の整備を図る。</p> <p>[目標(H27)]</p> <p>観光客入り込み数：80万人</p> <p>[H26 到達点]</p> <p>観光客入り込み数：65万人</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>観光客入り込み数：65万人 → 実績 63.2万人</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知中央広域観光協議会総会を開催し、平成26年度事業計画及び予算を決定した(5/15)。 ・実務担当者会を開催した(4/15、6/4、7/9、8/26 予定)。 ・プロモーションツールとしてH25年度に作成したパンフレット(高知中央じゃらん)をH26年度版に改訂するとともに、圏域のポスターを新たに作成し、中国・四国・関西地区の道の駅や高速道路サービスエリア、量販店等への掲示を開始した(9/1～予定)。 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>広域観光の戦略検討</p> <p>⇒4市の取組を明確化し、広域観光協議会の戦略を検討していく。</p>

②上記以外で特記すべき取組

該当なし

2 平成 26 年度産業振興推進総合支援事業費補助金の導入状況 (交付決定又は採択事業)

単位：千円

取組	事業概要	総事業費 (補助金額)
予定なし		

3 地域アクションプランの追加、修正、削除 (予定) 項目

[追加] ■土佐山田えびす商店街を中心とする地域の活性化 (香美市) (仮称)

地域状況調査を行い、利用可能な空き店舗の改修や商店街と地域住民、移住者等の情報交流拠点施設の整備を行うことなどにより、移住者による新規創業も含めた新たな店舗の開業を支援するとともに、商店街を含む地域の活性化を図る。

4 県民参画に向けた取組

○第 2 期産業振興計画 ver.3 及び産業振興計画シンポジウムの P R

- ・香南市西川地区集落活動センター推進協議会役員会 (4/8) 及び総会 (4/14)
- ・香美・香南地区農業振興連絡協議会総会 (4/23)
- ・三水会※ (5/21)

○土佐 M B A の説明及び P R

- ・南国・香美・香南各市商工会及び観光協会、J A 土佐香美、J A 南国市・J A 長岡・J A 十市、香美・物部各森林組合への訪問や会合の機会を使った P R
- ・なんこく空の駅推進協議会、ごめんシャモ研究会等各種団体への訪問 など

※香美市の官公署、公共的団体、企業等の代表者等で構成される、親睦及び産業文化の向上発展への寄与を目的とする団体

5 相談案件：4 件

NO.	相談日	事業種別	相談内容
1	4/17	農業	山北みかんのブランド再構築に向けた高精度選果機を導入したい。
2	5/23	商工	地域食材を使ったレストランを出店したい。
3	6/9	食品加工	乾燥ケールの製造・販売を強化するため、委託農家の確保と乾燥施設・設備を整備したい。
4	7/10	農業	香美市物部町でユズの園地の防除作業の省力化等のために、スピードスプレーの導入を図りたい。

【物部川地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでに取組と成果	課題	主な内容
<p>土佐山田えびす商店街を中心とする地域の活性化</p> <p>（香美市）</p>	<p>利用可能な空き店舗の改修や商店街と地域住民、移住者等の情報交流拠点施設の整備を行うことなどにより、移住者による新規創業も含めた新たな店舗の開業を支援するとともに、商店街を含む地域の活性化を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・香美市商工会 ・えびす街協同組合 ・地域活動団体 ・香美市 			<p>◆えびす商店街を含む地域の活性化策の推進及び情報交流拠点の整備等</p>

2.11					指標及び目標		
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)	
		<p>えびす商店街を含む地域の活性化策の推進及び情報交流拠点の整備等</p> <p>地域状況調査</p> <p>空き店舗の活用及び活性化策の検討並びに情報交流拠点施設の整備計画策定</p> <p>空き店舗の活用及び活性化策の推進</p> <p>情報交流拠点施設の整備</p>				新規店舗の開業数	1店舗以上

有望素材シート (26年度) (案)

『地域アクションプラン』検討過程での有望素材の洗い出し

市町村名	香美市	素材名 関連素材	商店街や地域住民と移住者等の情報交流拠点施設
現状・課題	<p>【現状】 土佐山田えびす商店街は、他地域の商店街と同様、後継者不足や若者世代の県外流出等に伴う地区人口の減少により、空き店舗が増加し中心部の空洞化が進んでいる。そのため、「えびす昭和横丁」のイベント開催や地域アンテナショップ「ふらっと中町」の設置等により、商店街の活性化を図る取り組みを行っているが、かつての賑わいを取り戻せる状況には至っていない。</p> <p>【課題】 店舗としては使用していないが、高齢となった元の経営者が居住している事例があり、空き店舗部分が増加する要因となっている。どのようにして、これらの空き店舗を活用し、商店街を含む地域の活性化につなげていくかが課題である。 また、移住希望者に対して、地域創業を促す仕組みを整備できるかも課題となっている。</p>		
今後の方向性	<p>香美市が進める移住・定住対策を軸に、香美市の人口減少に歯止めをかけ、地域内外の多くの方に来ていただけるような「土佐山田えびす商店街」を目指し、協議検討を進める。 そのための方策のひとつとして、県と市の「移住促進補助金」や国の補助金（地域商業自立促進事業補助金(H26年度)）等を活用し、アンケートやヒアリング等で商店街や地域住民、移住者等（後継者及び移住希望者を含む。）のニーズ把握を行い、当事者のマッチングを行うことで、移住・定住促進につなげる。 また、利用可能な空き店舗の改修や地域住民だけでなく、移住者等が相互に交流できる拠点施設の整備を行うことなどにより、移住者による新規創業も含めた新たな店舗の開業を支援するとともに、商店街を含む地域の活性化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域状況調査 ・空き店舗の活用及び活性化策についての検討及び実施 ・利用可能な空き店舗の改修及び商店街や地域住民と移住者等の情報交流拠点施設の整備 		

『有望素材』を活かした具体的な取り組み (案)

『地域アクションプラン』における具体的な取り組み案

項目	取り組み名	土佐山田えびす商店街を中心とする地域の活性化				
	関係市町村名	香美市				
事業の概要	利用可能な空き店舗の改修や商店街と地域住民、移住者等の情報交流拠点施設の整備を行うことなどにより、移住者による新規創業も含めた新たな店舗の開業を支援するとともに、商店街を含む地域の活性化を図る。					
事業主体等	【事業主体】 香美市商工会、えびす街協同組合、地域活動団体、香美市 【関係機関】					
主な内容・スケジュール	取組手順	事業実施 【H26】	1年後 【H27】	2年後 【H28】	3年後 【H29】	4年後 【H30以降】
	えびす商店街を含む地域の活性化策の推進及び情報交流拠点の整備等	<ul style="list-style-type: none"> ・地域状況調査 ・空き店舗の活用及び活性化策の検討並びに情報交流拠点施設の整備計画策定 	<ul style="list-style-type: none"> ・空き店舗の活用及び活性化策の検討並びに情報交流拠点施設の整備計画策定 ・空き店舗の活用及び活性化策の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・空き店舗の活用及び活性化策の推進 ・情報交流拠点施設の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・空き店舗の活用及び活性化策の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・空き店舗の活用及び活性化策の推進
指標・目標	項目	事業実施 【H26】	1年後 【H27】	2年後 【H28】	3年後 【H29】	4年後 【H30以降】
	新規店舗の開業数 【設定根拠】	【推計の考え方】 ・えびす商店街のH26年8月25日現在の空き店舗数 32店舗（空き店舗率 34.8%（全体店舗数92、営業店舗数60、空き店舗数32）） ・32ある空き店舗を年1店舗ずつ改善（1年後の空き店舗率：33.7% 全体店舗数92、営業店舗数61、空き店舗数31） ※ 新規店舗の開業は空き店舗を活用した店舗には限定しない。	1店舗以上	同左	同左	同左
		【考え方】				
総事業費等	総事業費 (内訳 国： 9,400千円 県： うち26年度 3,400千円) 市町村： 其他：)					
	想定する支援事業（補助金名称、人的支援の内容、その他） 国：地域商業自立促進事業補助金 県：移住促進事業費補助金・産業振興推進総合支援事業費補助金 人的支援： その他：					
備考						

高知市地域アクションプランの進捗状況等

H 2 6 . 9 . 1 2

高知市地域本部

1 地域アクションプランの上半期の実施状況（総括）

(1) 総評

全 32 項目の地域アクションプランについて、実行支援チームをつくり、事業推進に向けた支援と進捗管理を実施することにより目標の達成を目指している。

農業分野では、県下随一のキュウリの産地である J A 高知春野が、キュウリの代表的な病気である黄化エソ病対策として、天敵利用技術の普及を図るとともに、増収のため、炭酸ガスを施用する取り組みなどを行っている。また、地域農産物の消費拡大を図るため、J A 高知市の農産品加工施設の機能強化を高知県産業振興推進総合支援事業費補助金の活用によって支援し、併せて食品加工や販売の人材育成にも積極的に取り組んでいる。

商工業分野では、高知県産の竹を使った自動車用ハンドル素材や竹シートの製造において、原材料の竹の供給も安定し、順調に取引先への納入がなされている。また、弘化台ブランドの創出を目指した地元鮮魚を活用した食品の製造では、県水産振興部や工業技術センターと連携することにより完成した商品の販売が始まり、徐々に販路が広がってきている。

観光分野では、近隣地域等との連携による滞在型・体験型観光の推進において、城西館が行う「とさ恋ツアー」の観光商品づくりを支援することにより、新商品の開発が進んでおり、各事業者の観光客受け入れ態勢も強化されつつある。また、高知よさこい情報交流館が 2 年目を迎え、入館者の維持・拡大に向けた取り組みを行っている。

(2) 具体的な動き

① 地域の重点的な動き

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
地域の特色を活かした多様な農業の展開 ■No. 1 キュウリの生産販売対策の強化による産地振興 《事業主体》 ・ J A 高知春野 ・ J A 高知春野キュウリ部会	[目標 (H27)] 出荷量：H27 園芸年度 11,000 t [H26 到達点] 出荷量：H26 園芸年度 11,000 t [H25 到達点] 出荷量：H25 園芸年度 11,000 t → 実績 10,560 t [取組状況] ・ 担い手対策（農家研修開始 3 月～1 名・4 月～1 名・8 月～2 名、指導農業士の確保に向け新たに 3 名推薦、指導農業士・新規就農者等意見交換会の開催 [8/27]）の実施

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 5 ナシ産地の振興とブランド強化</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ J A高知市 ・ 針木梨組合 <p>■No. 7 新ショウガの生産振興</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ J A高知春野 ・ J A高知春野ショウガ部会 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 黄化エソ病対策として天敵栽培の推進(天敵利用取り組み農家数 33 戸、実証試験ほ場調査 26 回、勉強会 3 回) ・ 炭酸ガス施用の促進(炭酸ガス利用効果実証調査 5 回、管外事例調査 2 回) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 産地維持拡大体制整備 ⇒担い手が利用できる農地情報の収集及び共有、就農受入体制の強化 ・ 品質向上及び増収のための技術改良 ⇒天敵利用及び炭酸ガス施用の普及促進 ・ 農家所得向上のための流通・販売対策 ⇒販売促進活動の実施 <p>[目標 (H27)]</p> <p>生産量：H27 年産 550 t</p> <p>[H26 到達点]</p> <p>生産量：H26 年産 440 t</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>生産量：H25 年産 330 t → 実績 360t</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高品質化に向けた栽培技術講習会(1回 29 人参加)の実施 ・ 高温対策現地試験ほ設置 ・ 市場及び産地[千葉]視察研修(29 名参加)の実施 ・ 鳥獣害対策(検討会 1 回 13 人参加、カラスの捕獲活動)の実施 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 共同出荷体制整備に向けた情報共有、課題の抽出 ・ 高温対策の現地試験ほ調査・データ収集 ⇒情報や調査結果等の分析、及び対策の実施 <p>[目標 (H27)]</p> <p>販売額：H27 園芸年度 120,000 万円</p> <p>[H26 到達点]</p> <p>販売額：H26 園芸年度 95,000 万円</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>販売額：H25 園芸年度 95,000 万円 → 実績 82,400 万円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 品質向上対策(ハウス新ショウガ販売会議 1 回 13 人参加、出荷目慣らし会 4 回、現地検討会 2 回、生産場面へのマイ

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>クロバブル活用の検討1回)の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・販売・消費拡大PR(販売促進活動⇒スーパー等[東京1回、兵庫1回、香川1回]・市場[東京1回]、市場交流会⇒春野にて市場7社と1回)の実施 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>品質の向上</p> <p>⇒市場での腐敗事故軽減対策の実施</p>
<p>中山間地域の振興</p> <p>■No. 8 ユズを核とした中山間農業の活性化</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JA高知市 ・JA高知市土佐山柚子生産組合 <p>■No. 9 四方竹のブランド化による中山間地域の振興</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JA高知市 ・JA高知市特産部会(七ツ淵筍加工組合、土佐山四方竹生産組合、鏡特産部会) ・(財)夢産地とさやま開発公社 	<p>[目標(H26)]</p> <p>販売額：19,000万円</p> <p>[H26到達点]</p> <p>販売額：19,000万円</p> <p>[H25到達点]</p> <p>販売額：18,000万円 → 実績16,447万円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・苗木育成圃場の管理指導(2回) ・ユズチーム会の開催(6回[予定]) ・ユズ栽培技術情報誌の発行(6回[予定]) ・他産地(物部・徳島)動向調査(8/28) ・栽培方法現地検討会(1回) ・収量予測調査(3回[予定]) ・省防除実証圃調査(6回[予定]) ・ユズ園台帳の更新[予定] <p>[課題と今後の対応]</p> <p>加工需要に応える産地の形成</p> <p>⇒青果生産モデル生産者の重点技術指導、ユズ選果機導入の検討</p> <p>[目標(H27)]</p> <p>販売額：4,000万円</p> <p>[H26到達点]</p> <p>販売額：4,000万円</p> <p>[H25到達点]</p> <p>販売額：4,000万円 → 実績4,328万円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四方竹の生態解明(地下茎等の生育調査8回[予定])の取り組み ・四方竹加工場の稼働に関する検討(2回[予定]) ・自動選別機の開発及び導入の検討(業者との協議2回)

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 10 「まるごと有機プロジェクトの推進」による中山間地域の振興</p> <p>《事業主体》</p> <p>・(財) 夢産地とさやま開発公社等</p>	<p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知市四方竹振興計画の適切な進行管理 ⇒地下茎等の生育調査、支援体制の充実 ・販売促進活動の実施 ⇒都市圏での認知度向上、出荷ピーク時の販売先確保 <p>[目標(H27)]</p> <p>販売額：10,720万円</p> <p>[H26 到達点]</p> <p>販売額：9,800万円</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>販売額：11,800万円 → 実績 7,400万円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジンジャーエール及びジンジャーシロップの新加工場での効率的な生産体制が確立され安定供給が実現 ・ジンジャーエールを中心にホテル・仲卸・小売店等への販路開拓 ・6次産業化補助金等の活用による新たな加工品開発の検討 ・良質な堆肥の安定生産(とさやま土づくりセンター) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>公社及び農家の所得の向上 ⇒新たな加工品の開発と新加工施設の整備</p>
<p>■No. 11 直販店を核とした鏡地域の活性化</p> <p>《事業主体》</p> <p>・鏡村直販店組合</p>	<p>[目標(H26)]</p> <p>販売額：17,000万円</p> <p>[H26 到達点]</p> <p>販売額：17,000万円</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>販売額：16,000万円 → 実績 15,610万円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏季葉菜類の収穫に向けた作付誘導(実証圃場の設置：小ネギ2作収穫、9月末までに4作目収穫見込み) ・普及指導協力員による地元産物を使った料理講習会の開催 (2回[4月・6月]・17人参加、3回目[8月]・10人参加見込み) ・加工品(ショウガ粉末とオクラ粉末)の試作と評価の実施 ・産業振興アドバイザー制度を活用したクレーム対応研修会の開催(1回・48名参加) ・リオ店の機能強化策として、菓子・アイスクリーム類の販売を新たに始め、売り上げを伸ばしている。

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 14 森の工場を核とする素材生産量の拡大</p> <p>《事業主体》</p> <p>・高知市森林組合</p>	<p>[課題と今後の対応]</p> <p>消費者ニーズに基づく直販所と生産体制づくり ⇒料理講習会、加工品の試作と評価の実施</p> <p>[目標(H27)]</p> <p>森の工場面積：1,500ha 素材生産量：4,000 m³</p> <p>[H26 到達点]</p> <p>森の工場面積：1,400ha 素材生産量：3,400 m³</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>森の工場面積：1,174ha → 実績 1,188ha 素材生産量：3,270 m³ → 実績 3,044 m³</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・素材増産に係る関係機関への森林整備事業説明会等の開催(3回) ・横矢地区を新たに森の工場として認定[264.51ha](4～5月) ・高知市広報紙(7/1)及び県ホームページ(9/30予定)により、間伐の推進と活用できる補助制度等を紹介。 ・基盤整備である作業道開設(5路線・2,600m[予定])による、10月からの本格的な素材生産体制の整備(9月末完了見込み) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>施業の集約化 ⇒森の工場の拡大と施業合意率の向上を図るため、ホームページや県市広報紙などによる間伐推進等のPR</p>
<p>一次産品(地域資源)を活用した6次産業化の推進</p> <p>■No. 16 春野地区の農産物(トマト等)の付加価値向上</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(有)スタジオ・オカムラ ・連携農家 	<p>[目標(H27)]</p> <p>販売額：9,400万円</p> <p>[H26 到達点]</p> <p>販売額：6,000万円</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>販売額：6,000万円 → 実績 4,359万円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・百貨店等(高島屋・大丸松坂屋・小田急・イオン・イトーヨーカドーなど)でのお中元ギフトカタログ等による販売 ・飲料やソース類のOEM受注生産の拡大を目指し、ホテル、

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 12 「食」の提供による地域農産物の消費拡大</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ J A 高知市 ・ J A 高知市女性部 	<p>惣菜製造、食材取扱企業等に向けた販路開拓の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ピカンテペッパー契約栽培農家への育苗指導 (4/16) 及び現地巡回 (5/23) の実施 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>小口配送に伴う物流等のコスト対策 ⇒OEM製品の受注など量のまとまりを目指した販路開拓</p> <p>[目標 (H27)]</p> <p>販売額：2,500 万円</p> <p>[H26 到達点]</p> <p>販売額：2,400 万円</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>販売額：1,935 万円 → 2,203 万円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 農産加工施設「婦人の家」の改修工事完了 (6月20日) ・ フライヤーが増えたため、既存の機器と揚げる食材を使い分けることで、1日のメニューが増加した。 ・ 販売強化計画の見直しに係るチェックリストによる自主点検の改善 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>加工施設の機能強化 ⇒新施設の活用状況の確認、新たな加工品開発への支援</p>
<p>■No. 13 生乳加工品の製造・販売による新しい酪農経営モデルの創出</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高知市酪農農業協同組合 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>店舗の販売額：1,600 万円</p> <p>[H26 到達点]</p> <p>店舗の販売額：1,400 万円</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>店舗の販売額：1,400 万円 → 実績 1,252 万円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 城西館「とさ恋ツアー」の着地型観光商品づくりに係る協議 (4/4)、モニターツアー (7/5) ・ 高知大学との連携による顧客開拓等についての支援に係る打ち合わせ (6/12)、えんむすび隊による作業体験 (7/13) ・ 商談会への参加による販路開拓活動の実施 (6/6) ・ 店舗での販売額 (4~7月)：4,264,517 円 (対前年比 95%) ・ 店舗の認知度向上のためのオープンファーム (4回) の実施 ・ 龍馬パスポート参加施設 [観光施設] への申込書提出 (8月)

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 20 「弘化台ブランドの創出」地元鮮魚を活用した食品の製造・販売</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株) 永邦水産 	<p>[課題と今後の対応]</p> <p>新規顧客の開拓とリピーターの確保 ⇒イベントの継続的な実施とブログ等での情報発信、店舗外(県庁生協、ネット販売等)での販促活動の充実</p> <p>[目標(H27)]</p> <p>食品加工品の売上額: 2.5 億円</p> <p>[H26 到達点]</p> <p>食品加工品の売上額: 1.5 億円</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>食品加工品の売上額: 1.5 億円 → 実績 0.5 億円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知放送テレビ「おはようこうち」で取り組みを紹介(5/4) ・高知県業務用商品開発プロジェクトの個別相談会に参加(5/15) ・介護事業所との商談・試食会の実施(5/16) ・全国展開のスーパーや飲食店との商談及び試作品づくり <p>[課題と今後の対応]</p> <p>新商品づくりと販路の確保 ⇒大手量販店等との商談のための支援</p>
<p>■No. 21 地域の農産物を使った菓子類等の外商の推進</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(有) マンジェ・ササ 	<p>[目標(H27)]</p> <p>首都圏での売上額: 1.7 億円</p> <p>[H26 到達点]</p> <p>—</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>首都圏での売上額: 7,000 万円 → 実績: 未確定</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自由が丘店及びKITTE店で、旬の県産農産物や高知の地酒・牛乳などの特産品を使ったスイーツを販売 ・東京ソラマチ[スカイツリー]及び銀座三越高知フェア(4月)、東急東横店(6月)で期間限定出店 ・テレビや雑誌での情報発信による消費者へのアピール ・名古屋高島屋の催事「四国瀬戸内味めぐり」に出展(7月) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>高知県産の野菜とスイーツの組み合わせなど意外性のある商品の消費者への浸透 ⇒テレビや雑誌などのグルメレポートやホームページによる商品と活用した特産農産物の情報発信</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>新分野への挑戦</p> <p>■No. 18 県産竹材を用いた新規分野への製品展開</p> <p>《事業主体》</p> <p>・(株) コスモ工房</p> <p>■No. 19 防災食の開発・製造・販売</p> <p>《事業主体》</p> <p>・高知県食品工業団地事業協同組合の企業など</p>	<p>[目標 (H27)]</p> <p>売上額：1.2 億円</p> <p>[H26 到達点]</p> <p>売上額：1.1 億円</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>売上額：0.9 億円 → 実績 1 億円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・竹製ハンドルの材料となるラミナの安定出荷 ・高幡地域本部と連携した竹材の確保 (須崎地区森林組合) ・平成 26 年度こうち産業振興基金 [高知県産業振興センター] の経営革新支援事業の助成決定 (4 月) ・フランスにおける竹製品の需要や展示会・ショールームの状況などについて現地調査を実施 (7 月) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>竹シートなどの国内外への販路拡大に向けた支援 ⇒高知市と連携し事業拡大や雇用に対する支援強化</p> <p>[目標 (H27)]</p> <p>アイテム数：50 アイテム</p> <p>[H26 到達点]</p> <p>アイテム数：11 アイテム</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>アイテム数：6 アイテム → 実績 6 アイテム</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域産品を原材料とする防災食の開発及び改良 ・保存用ミレービスケット・土佐のミリメシが、こうちふるさと寄附金の記念品及び高知県庁カフェテリアプランの商品に採用 (6 月) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>新商品の開発、販路の確保、商品の改良 ⇒量販店等への販路開拓</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>中心市街地の活性化</p> <p>■No. 23 中心商店街でのアンテナショップの運営</p> <p>《事業主体》</p> <p>・(株)まこと</p>	<p>[目標(H26)]</p> <p>販売額：184,300千円</p> <p>[H26 到達点]</p> <p>販売額：184,300千円</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>販売額：153,600千円 → 実績 150,155千円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> 魅力ある県産品の掘り起こし →登録アイテム累計4,715点、うち約2,000点を陳列・販売 H26年度新規取扱商品126品目(7/31時点) クルーズ客船新港入港時の出張販売(4/20) 県外(高松市)での地場産品販売(5/10~11) よさこい・お盆時の売り場強化、てんこす秋祭り(8~9月) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> 「てんこす」の販売額アップ ⇒商店街関係者・NPO・学生等との連携による地域産品のPRや集客イベントの開催 インターネット販売の強化 ⇒ホームページの魅力向上、販売展開計画の作成
<p>■No. 24 多彩なイベントや演出等によるおまちのにぎわいづくり</p> <p>《事業主体》</p> <p>・商店街振興組合など</p>	<p>[目標(H27)]</p> <p>—</p> <p>[H26 到達点]</p> <p>—</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>—</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> 季節に応じたフラフ等を飾り、商店街のにぎわいを演出 【4~5月：南国土佐の春】フラフ10枚、ペナント134枚 【7月本家よさこい】フラフ8枚 第2回「高知まちゼミ」開催・36店43講座・475人参加(5/1~5/31) まちなか・よさこい実施(5/11~7/20の毎週日曜日) 土曜夜市開催(6/28~7/26の毎週土曜日) 大橋通り商店街で「お城下市」、ワンコイン商店街を実施 高知オクトーバーフェスト2014開催(8/22~31)

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>[課題と今後の対応]</p> <p>集客力の向上、リピーターの創出 ⇒商店街での多彩な集客イベントの実施</p>
<p>魅力ある観光戦略の展開</p> <p>■No. 27 近隣地域等との連携による滞在型・体験型観光の推進</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)城西館等 ・高知市 <p>■No. 28 本家よさこいのブランド力確立とよさこい文化の継承・発展</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知市 ・(社)高知市観光協会ほか関係団体等 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>高知市内の宿泊施設の延べ宿泊者数：112 万人 [H26 到達点]</p> <p>高知市内の宿泊施設の延べ宿泊者数：114 万人 [H25 到達点]</p> <p>高知市内の宿泊施設の延べ宿泊者数：114 万人→実績 113.6 万人</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知中央広域観光協議会の設立による観光資源の広域ネットワーク化、及び各種情報誌等への観光広告の掲載 ・城西館による県内各地での着地型観光ツアーの展開 ・城西館の「とさ恋ツアー」の新商品開発に係る協議及び現地視察(3箇所)、モニターツアー(3箇所) ・日本経済新聞による「とさ恋ツアー」の情報発信(5/30) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな着地型旅行商品の開発、及び既存の商品を併せた宿泊客へのPR ・近隣地域との連携の強化 ⇒高知中央広域観光協議会、仁淀川地域観光協議会等との連携 <p>[目標 (H27)]</p> <p>よさこい祭り来場者数：近年の最高来場者数(1,200千人)の維持 [H26 到達点]</p> <p>よさこい祭り来場者数：1,200千人 [H25 到達点]</p> <p>よさこい祭り来場者数：1,200千人 → 実績 1,200千人</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知よさこい情報交流館事業の実施(入館者7/31現在 82,197人) ・高知よさこい情報交流館開館1周年記念セレモニー(4/27) ・はりまや橋商店街と連携したイベント(よさこい鳴子踊り等)の実施 ・こうち春花まつり(5/3～5)での演舞

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 31 土佐の偉人を活かした観光の振興</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知市 ・(社)高知市観光協会 ・特定非営利活動法人土佐観光ガイドボランティア協会 ・長宗我部連絡協議会等関係団体 	<p>・駅前よさこい鳴子踊り、まちなかよさこい等の実施</p> <p>・よさこい祭り(8/10～12)観客動員100万人[花火大会8/13含む]</p> <p>・原宿表参道元氣祭スーパーよさこいで観光PR(8/23～24)</p> <p>・よさこいアンコール(8/18～31)</p> <p>[課題と今後の対応]</p> <p>高知よさこい情報交流館開館2年目の入館者の維持・拡大 ⇒各地のよさこいイベントとの連携と魅力ある施設づくり</p> <p>[目標(H27)]</p> <p>「龍馬の生まれた町歩き～土佐っ歩～」等への参加人数： 3,800人</p> <p>[H26 到達点]</p> <p>「龍馬の生まれた町歩き～土佐っ歩～」等への参加人数： 2,695人</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>「龍馬の生まれた町歩き～土佐っ歩～」等への参加人数： 2,695人 → 実績2,226人</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「龍馬に大接近」の実施(4/12～5/18)約42,000人集客 ・土佐っ歩の実績4～7月：493人 ・第3回長宗我部まつりに向けた高知大学KICSとの連携によるイベントの検討 ・第3回長宗我部まつり開催(5/18)：約8,000人集客 ・武市半平太例祭[仁井田](5/11) ・龍馬生誕180年記念事業第1回推進委員会の開催(7/22) ・第27回全国龍馬ファンの集い高知大会第2回実行委員会の開催(7/22) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>更なる集客力の向上 ⇒偉人関連施設及びイベントの充実強化、団体客の確保</p>

②上記以外で特記すべき取組

取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
該当なし	

2 平成 26 年度産業振興推進総合支援事業費補助金の導入状況 (交付決定又は採択事業)

単位：千円

取組	事業概要	総事業費(補助金額)
該当なし		

3 県民参画に向けた取組

- ・高知大学と連携した取り組みの際に参加学生に対して産業振興計画の詳細説明
- ・企業訪問時に土佐の産業おこし参加プラン、産業振興計画シンポジウムのPR
- ・地域団体(春野地域ほか)の行事の際に産業振興計画のPR
- ・工業会、発明協会に対して産業振興計画シンポジウム、土佐MBAのPR
- ・高知市主催のイベントで、産業振興計画シンポジウム、土佐MBAのチラシの配布

4 相談案件：16件

NO.	相談日	事業種別	相談内容
1	4/10	商業	中古自動車の海外輸出事業について
2	4/29	商業	廃校になる中学校の活用について
3	5/8	商業	観光遊覧船運航に係る支援について
4	5/9	商業	ジビエ料理を提供する飲食店の新規開店に係る支援について
5	5/12	工業	柑橘類の搾汁機の開発について
6	5/16	文化	野中兼山の生誕400年記念行事について
7	6/8	商業	鮮魚の加工品に係る知的財産権制度の適用について
8	6/9	商業	伝統製法の味噌製造業者の事業拡大について
9	6/11	工業	木製の球を作る機械について
10	6/16	商業	廃校になった学校を活用した野菜工場の開設について
11	6/17	商業	温泉施設に併設した飲食店舗の活性化について
12	6/29	商業	竹を使ったコップや皿等の販路拡大について
13	7/9	商業	高知の海産物を提供する大規模飲食店舗の開設について
14	8/1	商業	異業種(食品加工)への参入に関する支援について

NO	相談日	事業種別	相談内容
15	8/14	商業	合鴨の飼育及び精肉販売に関する支援について
16	8/18	商業	トレーニングジム開設に係る支援について

嶺北地域アクションプランの進捗状況等

H26.9.12
嶺北地域本部

1 地域アクションプランの上半期の実施状況（総括）

(1) 総評

嶺北地域では、核となるプレイヤーが複数の取組を行っている現状に大きな変化は無く、各分野で新しい担い手やリーダーの人材育成が喫緊の課題である。

そのため、各分野ごとの担い手育成の取組に加えて、4町村が連携した観光・交流人口の拡大や移住促進の取組の中で、U・Iターンによる地域外からの担い手確保の取り組みにも力を入れている。一方で、地域内の人材育成として嶺北高校と連携して将来の担い手の育成にも取り組み、大学進学した卒業生も大学内での活動を通じて、嶺北地域の活性化に繋がっているなど一定の成果も見えてきている。

本年度の嶺北地域の28項目のアクションプランについても、概ね各計画に沿った取り組みを進めており、各アクションプランとの連携を視野に入れた取組も見られている。

県外の大学等との連携による取組では、交流人口の拡大から地域産品を活用した新たな商品開発・販売に具体的に取り組んでおり、所期の目的に向かって進みつつある。また、大阪圏都市部（行政、民間団体）との連携によるインターンシップ研修生の受け入れが定例化しており、二地域居住を含む、人的・物的交流にも具体的な成果も見えてきている。

(2) 具体的な動き

①地域の重点的な動き

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>“れいほく”ブランドの園芸産地の確立及びユズ加工品の販売促進</p> <p>■No.1 れいほくブランドの園芸産地の維持 (嶺北地域全域)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JA土佐れいほく(園芸部会、花卉部会) ・直販生産部会土佐町支部 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>れいほく八菜 販売額：1.6億円 れいほく八菜 生産者数：136人 研修による新規就農者数：8人(累計)</p> <p>れいほく八花 販売額：1.1億円 直販売上額：9.5千万円</p> <p>[H26 到達点]</p> <p>れいほく八菜 販売額：1.6億円 れいほく八菜 生産者数：155人 研修による新規就農者数：12人(累計)</p> <p>れいほく八花 販売額：1.1億円 直販売上額：8.5千万円</p> <p>[H25 到達点]</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>れいほく八菜 販売額：1.6億円→実績2.1億円 れいほく八菜 生産者数：170人→実績169人 研修による新規就農者数：8人(累計)→実績11人(累計) れいほく八花 販売額：1.2億円→実績1.1億円 直販売上額：8.5千万円→実績7.8千万円</p> <p>[取組状況]</p> <p>(担い手育成)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営実態調査 (三色ピーマン、シシトウ部会、モデル農家2戸) ・新規就農者等勉強会(2回、13名) <p>(れいほく八菜)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JA各生産部会の現地検討会(10回) ・天敵の推進：研究会(1回)、天敵リレー(4回)、 天敵利用促進ハウス設置(2カ所) ・栽培管理指導(土壌溶液分析)(10回) ・販売促進企画会議(2回)、圃場見学・出前授業・試食 PR(2回) <p>(れいほく八花)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栽培管理巡回指導(20回) ・土壌分析による施肥指導(6回) ・ノーブルを中心とした販売促進活動の検討(2回) <p>(直販)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栽培講習会(7回) ・現地検討会(1回) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>(担い手育成)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な担い手確保 ⇒関係機関、農業者が一体となった取組の推進 <p>(れいほく八菜)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基幹品目(米ナス、シシトウ、三色ピーマン)の栽培確立 ⇒生産技術の向上、病害虫対策の向上 ・販売促進活動などによる販売拡充 ⇒販売拠点(コープかがわ)の充実と消費宣伝 県内市場及び大阪市場の販売強化 <p>(れいほく八花)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノーブルの高品質・安定生産技術の確立 ⇒ノーブルの球根供給システムの確立と生産技術向上の体制づくり ・市場への販売促進活動

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 2 ユズ産地の確立と加工・販売の促進 (本山町、大豊町、土佐町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・嶺北地域果樹(ゆず)産地協議会 ・J A土佐れいほく 	<p>⇒県内外の市場商談会等への参加 (直販)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直販生産者の生産量の増 <p>⇒栽培管理指導による出荷量の増加及び品質向上</p> <p>[目標 (H27)]</p> <p>加工品販売額：6億円</p> <p>[H26 到達点]</p> <p>加工品販売額：4.5億円</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>加工品販売額：4.5億円→実績4.0億円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栽培技術講習会(1回) ・商談会への参加(4回) ・個別巡回指導(6回) ・生態(着花状況等)調査(12回) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユズ加工品の販路拡大 <p>⇒国外への販促活動の強化</p>
<p>J A 出資型法人を核とする地域活性化の取組</p> <p>■No. 6 J A 出資型法人を核とする地域活性化の取組(嶺北地域全域)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・J A土佐れいほく ・(株)れいほく未来 ・米米ハート 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>農業経営事業(園芸)売上高：3,000万円</p> <p>研修による新規就農者数：3人(累計)</p> <p>事業主体への新規雇用数：2人(累計)</p> <p>米粉等の販売額：1.1億円</p> <p>内訳 4,000万円(米粉等) 7,000万円(ブランド米等)</p> <p>米粉の使用量(米粉パン等)：7,000kg</p> <p>[H26 到達点]</p> <p>農業経営事業(園芸)売上高：2,450万円</p> <p>研修による新規就農者数：1人(累計)</p> <p>事業主体への新規雇用数：7人(累計)</p> <p>米粉等の販売額：1.05億円</p> <p>内訳 2,500万円(米粉等) 8,000万円(ブランド米等)</p> <p>米粉の使用量(米粉パン等)：7,000kg</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>農業経営事業(園芸)売上高：1,207万円→実績1,612万円</p> <p>研修による新規就農者数：0人(累計)→実績0人(累計)</p> <p>事業主体への新規雇用数：1人(累計)→実績5人(累計)</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>米粉等の販売額：1.55億円→実績1.10億円</p> <p>内訳 2,500万円(米粉等)→実績2,234万円 5,000万円(米粉パン等) 8,000万円(ブランド米等)→実績8,732万円</p> <p>[取組状況]</p> <p>(農業経営事業、米関連事業、農作業受託事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作付実績：園芸作物133a、水田(主食・飼料用)250a ・農作業受託：水稲1,000a、ハウス40a ・栽培研修会への参加(8回) ・ほ場巡回による栽培管理の助言指導(14回) <p>(米粉事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こうち農商工連携基金事業の採択(事業費：4,376千円) れいほく未来、とさ千里の連携による新商品、米粉加工品の販路拡大の取組 ・商品開発、販路開拓に関する委託契約の締結 (大阪圏2者) ・既存取引先(大阪)との販売促進協議(2回) ・イベント出店による販売、PR活動(15回) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業体(JA出資型法人)の経営の安定化 ⇒地元金融機関の協力のもと、中期経営事業計画(5ヶ年)の策定・実行支援 ・米粉・米粉加工品の販売拡大 ⇒農商工連携基金事業の効果的な活用 (県外料理研究家等の協力のもと、販売促進活動等への実践支援)
<p>肉用牛産業の再興及び土佐はちきん地鶏の振興による畜産業の展開</p> <p>■No.8 土佐あかうしの競争力の確保による肉用牛産業の再興(本山町、土佐町、大豊町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JA土佐れいほく ・(株)れいほく未来 ・飼養者 ・本山町 ・大豊町 ・土佐町 	<p>[目標(H27)]</p> <p>土佐あかうしの販売額：2.1億円</p> <p>[H26到達点]</p> <p>土佐あかうしの販売額：2億円</p> <p>[H25到達点]</p> <p>土佐あかうしの販売額：2億円→実績1.8億円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・畜舎建築着工 ・繁殖雌牛10頭導入(累計40頭)・・・7月市場終了時点 ・分娩10頭(累計14頭) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早期の畜舎整備

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 9 土佐はちきん地鶏・大川黒牛を活用した畜産業の活性化(大川村)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)むらびと本舗 ・大川村 	<p>⇒関係者による事業内容の協議(計画的な施設整備)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飼育担当者の飼養管理技術の向上 ⇒飼養管理技術の向上支援(現地指導等) ・加工場の整備検討 ⇒付加価値の構築 <p>[目標(H27)]</p> <p>黒牛の販売額:8.2千万円 はちきん地鶏出荷羽数:10万羽</p> <p>[H26到達点]</p> <p>黒牛の販売額:4.3千万円 はちきん地鶏出荷羽数:7万羽</p> <p>[H25到達点]</p> <p>黒牛の販売額:7.0千万円→実績3.3千万円 はちきん地鶏出荷羽数:7万羽→実績5.9万羽</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鶏舎の改築(換気・結露対策) ・飼養管理技術向上の取り組み <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員の飼養管理技術の向上 ⇒職員の飼養管理技術の向上支援(現場指導等) ・繁殖雌牛の増頭及び高齢牛の更新と肥育牛の増頭 ⇒計画的な繁殖雌牛の保留と肥育畜舎の整備
<p>嶺北材の増産及び販路拡大</p> <p>■No. 10 間伐の推進と素材生産の拡大(嶺北地域全域)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林所有者 ・森林組合 ・素材生産事業体 ・自伐林家 	<p>[目標(H27)]</p> <p>素材生産量:150,000 m³</p> <p>[H26到達点]</p> <p>素材生産量:100,000 m³</p> <p>[H25到達点]</p> <p>素材生産量:100,000 m³→実績78,943 m³(本山、大豊の共販所)</p> <p>[取組状況](6月末実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森の工場新規認定申請(4箇所) ・森の工場新規設定に向けた協議(1箇所) ・素材生産事業体との増産に向けた協議(7事業体) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原木増産体制の整備 ⇒搬出間伐の補助を受けるための計画作成支援 皆伐、再造林への支援

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 11 れいほくスケルトン(嶺北材の邸別販売)の促進(嶺北地域全域)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株) SUN SHOW ・レイホク木材工業(協) ・吉野川リビング(協) ・土佐町 	<p>[目標(H27)]</p> <p>木材の出荷量: 900 m³</p> <p>[H26 到達点]</p> <p>木材の出荷量: 720 m³</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>木材の出荷量: 540 m³→実績 908 m³</p> <p>[取組状況](7月末実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・納材実績: 10 棟、172.85 m³ <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安定した受注に向け新たな取引先の開拓 ⇒関係者と連携し検討実施
<p>大型製材工場の設置・稼働による加工体制の強化</p> <p>■No. 15 大型製材工場の設置による地域材の利用の促進(嶺北地域全域)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知おおとよ製材(株) ・大豊町 	<p>[目標(H27)]</p> <p>製材品の生産量: 55,000 m³</p> <p>[H26 到達点]</p> <p>製材品の生産量: 28,781 m³</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>製材品の生産量: 12,772 m³→実績 13,100 m³</p> <p>[取組状況](6月末実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「高知おおとよ製材」採用者の就業(4名:合計43名) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原木供給体制の整備 ⇒関係機関と連携し、原木市場を中心とした供給体制の整備検討
<p>地産外商の促進</p> <p>■No. 18 土佐産直サテライトセンター(とさ千里(大阪))の活性化による地産外商の促進(嶺北地域全域)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)とさ千里 ・J A土佐れいほく ・土佐町 	<p>[目標(H27)]</p> <p>土佐産直サテライトセンター(とさ千里)の販売額: 1.2 億円</p> <p>[H26 到達点]</p> <p>土佐産直サテライトセンター(とさ千里)の販売額: 0.85 億円</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>土佐産直サテライトセンター(とさ千里)の販売額: 0.85 億円 →実績 0.86 億円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県大阪事務所での木曜市(6回) ・イベント会場での物販(2回) ・商談会への参加(1回) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来店者増(売上増)に向けた取り組み ⇒地域住民をリピーターとして確保するための品揃

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>え(生鮮野菜、日配品、パン)</p> <p>催事開催による新規誘客</p> <p>県による支援(てんこす等の情報提供、県人会等へのPR)</p> <p>・店舗外販売への取組</p> <p>⇒利用者の拡大による売上増</p>
<p>嶺北地域の連携による交流人口の拡大</p> <p>■No. 19 嶺北地域の連携による交流人口の拡大(嶺北地域全域)</p> <p>《事業主体》</p> <p>・嶺北地域観光・交流推進協議会</p>	<p>[目標(H27)]</p> <p>公共関連宿泊施設での宿泊者数:12,000人</p> <p>新たに旅行商品となる体験メニュー数:5件(累計)</p> <p>[H26到達点]</p> <p>公共関連宿泊施設での宿泊者数:一人</p> <p>新たに旅行商品となる体験メニュー数:4件(累計)</p> <p>[H25到達点]</p> <p>公共関連宿泊施設での宿泊者数:一人</p> <p>新たに旅行商品となる体験メニュー数:3件(累計)</p> <p>→実績3件(累計)</p> <p>[取組状況]</p> <p>・嶺北地域の旅行商品化の動き</p> <p>商品化:1社・10本</p> <p>催行:1社・10本 365名</p> <p>・民泊研修の実施(2回)</p> <p>・エージェントへのプロモーション活動(3回)</p> <p>[課題と今後の対応]</p> <p>・広域観光のコーディネート組織(人)の機能強化</p> <p>・次年度以降の協議会の事務局体制の検討</p> <p>⇒嶺北地域観光・交流推進協議会で検討</p>

②上記以外で特記すべき取組

取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 4 米のブランド化による稲作農業の展開(本山町)</p> <p>《事業主体》</p> <p>・本山町ブランド化推進協議会</p> <p>・(財)本山町農業公社</p> <p>・本山町酒づくり協議会</p> <p>・ばうむ合同会社</p> <p>・本山町</p>	<p>[目標(H27)]</p> <p>ブランド米の販売額:1億円</p> <p>焼酎販売本数:17,800本</p> <p>[H26到達点]</p> <p>ブランド米の販売額:5,000万円</p> <p>焼酎販売本数:15,800本</p> <p>[H25到達点]</p> <p>ブランド米の販売額:5,000万円→実績4,336万円</p> <p>焼酎販売本数:12,600本→実績1,419本</p> <p>[取組状況]</p>

取組	取組状況 (結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 5 (株) 大豊ゆとりファームを核として 地域資源の活用により地域産業を持続化させる取組 (大豊町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (株) 大豊ゆとりファーム ・ 大豊町基石茶協同組合 ・ 大豊町 <p>■No. 7 直販所「本山さくら市」を核とした地域活性化の取組 (本山町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本山さくら市運営委員会 ・ (財) 本山町農業公社 ・ 本山町 	<p>(ブランド米)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 栽培管理指導 (10 回) ・ 田んぼアートの実施 ・ 「ディスカバー農山漁村 (むら) の宝」 受賞 <p>(焼酎)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 焼酎 P R 活動 ・ 新規取引開始 : 6 件 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>(ブランド米)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生産者価格の向上 ⇒ 直接販売増の取組の実施 <p>(焼酎)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 加工品 (焼酎等) の安定的な生産と販路拡大 ⇒ 卸業者等への P R 活動の実施 大阪圏飲食店への販促実施 <p>[目標 (H27)]</p> <p>基石茶関連商品の総販売額 : 0.5 億円</p> <p>[H26 到達点]</p> <p>基石茶関連商品の総販売額 : 0.2 億円</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>基石茶関連商品の総販売額 : 0.2 億円 → 実績 0.13 億円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基石茶の販促活動 ・ クールベジタブルの販促活動 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基石茶の茶葉、加工品の販路拡大 ⇒ 商談会への出展等による新たな取引先の開拓 <p>[目標 (H27)]</p> <p>販売額 : 1.8 億円</p> <p>[H26 到達点]</p> <p>販売額 : 1.36 億円</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>販売額 : 1.42 億円 → 実績 1.33 億円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 調理加工施設の整備に向けた検討 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 商品、情報発信機能の充実 ⇒ 栽培講習会、P R 活動等の継続実施

取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 24 滞在型市民農園の推進による地域の活性化(本山町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本山町 	<p>[目標(H27)]</p> <p>町内移住者:30人(累計)</p> <p>[H26到達点]</p> <p>町内移住者:30人(累計)</p> <p>[H25到達点]</p> <p>町内移住者:15人(累計)→実績24人(累計)</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設利用者(5組10人) ・町内移住者(2組2人) ・県外相談会への参加(4回、相談者17名) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・滞在後の移住への移行 ⇒施設利用者と地域の交流機会の拡大
<p>■No. 25 嶺北地域の連携による移住促進の取組(嶺北地域全域)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・れいほく田舎暮らしネットワーク ・本山町 ・大豊町 ・土佐町 ・大川村 	<p>[目標(H27)]</p> <p>移住者数:100人(累計)</p> <p>[H26到達点]</p> <p>移住者数:一人(累計)</p> <p>[H25到達点]</p> <p>移住者数:50人(累計)→実績142人(累計)</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移住促進連絡会の開催(6回) ・県外での移住相談会への参加(4回) ・移住相談受付件数:182件 ・移住実績:33件40名 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局体制の整備(役割分担) ⇒町村、れいほく田舎暮らしネットワーク、県により協議 ・空き家不足 ⇒空き家調査の実施等
<p>■No. 27 地域内高校と連携した将来の担い手育成に関する取組(嶺北地域全域)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)れいほく未来 ・嶺北高校 ・本山町 ・大豊町 ・土佐町 	<p>[目標(H27)]</p> <p>商品提案数:5件(累計)</p> <p>[H26到達点]</p> <p>商品提案数:13件(累計)</p> <p>[H25到達点]</p> <p>商品提案数:3件(累計)→実績11件(累計)</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米粉等を利用した新商品の開発及び販路開拓

取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
・大川村	<p>こうち農商工連携基金事業を活用し、(株)れいほく未来・(株)とき千里・嶺北高校による6次産業化の取組を展開中</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連携事業者による指導(2回) ・試食アンケート(1回) ・試作品の完成(2品目) ・(株)れいほく未来への提案(2品目) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校生が主体的に動き出すキッカケづくり ⇒高校生を主体とした模擬会社化の体制づくり ・卒業生との連携 ⇒在籍大学との連携

2 平成26年度産業振興推進総合支援事業費補助金の導入状況(交付決定又は採択事業)

単位：千円

取組	事業概要	総事業費(補助金額)
■No.8 土佐あかうしの競争力の確保による肉用牛産業の再興(土佐町)	土佐あかうしの生産基地整備による生産体制の強化に向けた取組(繁殖畜舎、堆肥舎等の整備)	81,000(12,500)

3 地域アクションプランの追加、修正、削除(予定)項目

[追加] 該当なし

[修正] 該当なし

[削除] 該当なし

4 県民参画に向けた取組

- ・土佐町部落長会での第2期計画 Ver3 の説明(4/18)
- ・大豊町区長会での第2期計画 Ver3 の説明(5/1)
- ・本山町商工会総会での第2期計画 Ver3 の説明(5/22)
- ・土佐地区商工会総会での第2期計画 Ver3 の説明(5/23)
- ・大豊町商工会総会での第2期計画 Ver3 の説明(5/26)

5 相談案件：0件

NO.	相談日	事業種別	相談内容
	該当なし		

仁淀川地域アクションプランの進捗状況等

H26.9.12
仁淀川地域本部

1 地域アクションプランの上半期の実施状況（総括）

(1) 総評

全36のプランについて、実行支援チームを編成、事業推進に向けた協議と進捗管理を実施し、それぞれの地域アクションプランに掲げた本年度到達点の達成を目指して取り組みを進めている。

事業のさらなるステップアップや課題を抱えている案件について、人材育成の講座への誘導、アドバイザーの派遣、各種補助金の活用など、場面に応じた支援事業を導入し、関係機関と連携した具体のサポートを実施している。

特に、現在、リニューアルオープンに向けて整備を進めている日高村の直販所「さんさん市」については、経営改善や運営体制の確立に向けて日高村との情報共有、推進のための協議を続けている。

農事組合法人ヒューマンライフ土佐の薬用作物栽培の事業では、県内での産地拡大に向けて、事業主体、越知町や農業振興部が連携した取り組みが本格的にスタートした。

また、平成22年度に設立し、旅行会社によるツアーの実績を大幅に伸ばしてきた仁淀川地域観光協議会の取り組みは、今年度も順調に入込客数を増やしており、引き続き、仁淀川地域の観光資源の掘り起こしを図り、県の観光施策とも連携してセールス活動を進めるとともに、来年度以降の協議会の体制の維持・充実にに向けて協議を進めている。

(2) 具体的な動き

①地域の重点的な動き

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>地域の特色を活かした多様な農業の展開</p> <p>■No.3 薬用作物の産地拡大による所得の向上 (仁淀川町、佐川町、越知町、日高村)</p> <p>《事業主体》</p> <p>・農事組合法人ヒューマンライフ土佐</p>	<p>[目標 (H27)]</p> <p>ミヤマコ作付面積：70ha サシヨウ作付面積：80ha ダ'ダイ作付面積：30ha</p> <p>[H26 到達点]</p> <p>ミヤマコ作付面積：60ha サシヨウ作付面積：80ha ダ'ダイ作付面積：30ha</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>ミヤマコ作付面積：52ha → 実績 52.1ha サシヨウ作付面積：65ha → 実績 50.8ha ダ'ダイ作付面積：23ha → 実績 25.3ha</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒューマンライフ土佐の通常総会開催(6/10)に向け、産振アドバイザー制度を活用して、財務諸表の分析、課題の抽出や総会資料作成を支援 ・越知町長の(株)ツムラ訪問に同行し、ヒューマンライフ土佐との関係強化や薬用作物の栽培促進について協議(5/22)

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 4 力強い高糖度トマト産地の確立(仁淀川町、佐川町、日高村)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ J A コスモス ・ J A コスモストマト生産部会 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ㈱ツムラを訪問し、今後の設備整備について協議(8/8) ・ ミシマサイコ H25 年度実証圃成績の生産者への周知(1回) ・ ミシマサイコの実証圃での生育調査(継続、3ヶ所で実施) 実証内容：堆肥施用による収量への影響(2ヶ所) ショウガとの輪作による収量への影響(1ヶ所) (実証箇所数は、上記3ヶ所+被覆資材を用いた発芽促進(1ヶ所)の計4ヶ所) ・ ミシマサイコ発芽状況の実態調査 ・ ㈱ツムラとの情報交換会の開催(環境農業推進課、中央西農業振興センター) ・ 薬用作物現地検討会の開催(6/23、6/24、7/3、7/4 生産者、㈱ツムラ、ヒューマンライフ土佐、農業振興センター) ・ ㈱ツムラ、ヒューマンライフ土佐、越知町の良好な関係を維持するため、ツムラのCSR活動の企画・実施に参加 ・ 生産状況等の聞き取り調査(6/23(越知町)、6/24(大豊町、本山町)、7/3(四万十町)、7/4(宿毛市、大月町)) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 薬用作物の産地の育成 ⇒生産状況等の聞き取り調査 ⇒現地巡回、現地検討会による生産者指導と生産者拡大のための取組の周知 ・ 安定生産技術の確立 産地・生産者間の収量格差、発芽率が低いことによる欠株原因・栽培技術に関する知識の不足。特に新規産地では収量が低い傾向 ⇒農業振興センター・山間試験室での実証試験 ・ 越知町、農業振興センターと連携した㈱ツムラとの関係強化 <p>[目標(H27)]</p> <p>販売高：5.1億円</p> <p>[H26 到達点]</p> <p>販売高：4.3億円</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>販売高：4.5億円 → 実績 3.9億円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 経営改善、経営目標の策定指導(個別カウンセリングの実施、個別経営目標の作成支援) ・ 新規就農者の営農定着支援 ・ 栽培技術の向上及び病害虫防除の徹底(促成トマト・夏秋トマト栽培指導) ・ 光センサー等整備の検討

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<ul style="list-style-type: none"> ・夏秋トマトの出荷販売計画の検討 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産地コンセプトを理解し、実践できる農業者の育成 ・光センサー等整備についてアンケート結果を踏まえた協議を実施 ・他産地商品との差別化した販売戦略の展開(夏秋トマトの規格外品「ふぞろいトマト」の系統販売) ・台風12号、11号の被災によりJAコスモス日高集出荷場が浸水し、機械設備がダメージを受ける。修繕にかかる費用は3億8千万円となる見込み。 <p>「攻めの農業実践緊急対策事業」の活用を検討中</p>
<p>「森の工場」などによる木材の増産体制の確立</p> <p>■No.13 仁淀川流域における木材産業の振興(仁淀川地域全域)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林組合 ・林業事業体 ・素材生産業者 ・製材業者等 	<p>[目標(H27)]</p> <p>素材生産量: 6.3万m³</p> <p>[H26 到達点]</p> <p>素材生産量: 6.0万m³</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>素材生産量: 5.5万m³ → 実績 5.9万m³</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木材増産推進ワーキンググループ(林業事務所内に新設)による管内24事業体への聞き取り調査実施 ・事業説明会を開催し、新たな補助事業等の周知を徹底 ・仁淀川森林組合製材工場の完成に向けた支援(6/9完成) ・森の工場新規認定1団地。既設森の工場9団地の事業計画ヒアリング(6月) ・森林経営計画作成指導(4~7月:7事業体) ・韓国建設企業団の産地商談会のサポート(4/17、5/27)。住宅用構造材及び内装材1棟分(ソウル市)を受注(6月)→住宅用構造材1棟分を高知新港より輸出(8/14) ・仁淀川町産木材や土佐漆喰等、県内の建築資材を使ったデザイン建築物の開発・販売促進の取組について、農商工連携基金助成事業の活用に向けた企業への支援(7月)。 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・増産に向けた体制づくり ⇒林業事業体の増産能力、体制づくりの具体的な進捗状況や課題を把握するなど、事業体等との情報共有を図りながら取組を進める。 ・韓国での高知県産木材による住宅建築の拡大 ⇒産地商談会への同行支援など県の信用力を活用した取組を進める。

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>「宇佐のうるめ」の消費拡大</p> <p>■No. 15 うるめのブランド化(土佐市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業組合宇佐もん工房 	<p>[目標(H27)]</p> <p>うるめ商品の販売額：1億円</p> <p>[H26到達点]</p> <p>うるめ商品の販売額：6,500万円</p> <p>[H25到達点]</p> <p>うるめ商品の販売額：5,000万円 → 実績5,109万円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H25年度の売上：約51,094千円(前年比140%) ・土佐市内の飲食店が参加し、うるめを活用したメニューを提供する「一本釣りうるめ祭り」を開催(4月) ・各種イベント、商談会へ参加 ・観光振興部と地域本部が進める「食の旅行商品化」事業にアドバイザーを導入し、1回目のWGを実施予定(8/26) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H26年度売上目標6,500万円の達成に向けて、さらなる販路拡大が課題 ⇒積極的に見本市等に出展を行うとともに、新商品開発等に取り組み、販路拡大を目指す。 ・売上の増加に伴い原材料であるうるめの確保が必要 ⇒漁業者との良好な関係を継続し、増産に対応する。
<p>「土佐和紙」の販売の促進</p> <p>■No. 16 「土佐和紙」の販売促進と保存・継承(土佐市、いの町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手すき和紙協同組合 ・高知県製紙工業会 ・いの町商工会 ・i-nos.net 他 	<p>[目標(H27)]</p> <p>土佐和紙の販売額：6.6億円(現状の確保)</p> <p>[H26到達点]</p> <p>土佐和紙の販売額：6.6億円(現状の確保)</p> <p>[H25到達点]</p> <p>土佐和紙の販売額：6.6億円 → 実績5.9億円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手すき和紙職人の販路拡大を支援(伝統的工芸品等支援事業が採択される8/1) ・いの町商工会が、日本商工会議所の小規模事業者地域力活用新事業全国展開事業を活用して、中心市街地活性化のために策定したプランの中で、紙の博物館を拠点として「紙の町」をPRしていくことが決定。現在、実践に向けて協議中 ・紙の博物館リニューアル準備会の開催 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手すき和紙職人の高齢化が進み、販路拡大のための営業活動が不十分となっている。 ⇒手すき和紙協同組合等と連携し、首都圏の美術大学や高

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>級雑貨店等をターゲットに、版画・日本画の用紙や文房具等としてPRやセールス活動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度開催予定の高知国際版画トリエンナーレ展やH27年に30周年を迎える紙の博物館の記念事業を契機とした館への集客と販路拡大の取組強化 <ul style="list-style-type: none"> ⇒「高知家統一セールスキャンペーン」(H26年度重点プロモーション品目「土佐和紙」)のプロモーション事業との連携 ⇒作品出展者等への版画用紙の見本帳の配布や会場での版画用紙の販売、トリエンナーレ展の会期中の土日祝日には、「土佐和紙職人市 in トリエンナーレ展」を開催し、土佐和紙の知名度アップを図る。 また、紙の博物館30周年記念事業については、いの町商工会が策定した中心市街地の再生に向けたプランとも連携し、集客力アップにつなげる事業(土佐紙まつり(仮称))を開催 ⇒紙の博物館(展示物、販売コーナーなど)の魅力ある施設づくりを検討
<p>仁淀川流域の広域観光の推進</p> <p>■No.26「奇跡の清流仁淀川」流域の広域観光推進(仁淀川地域全域)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仁淀川地域観光協議会 ・土佐市 ・いの町 ・仁淀川町 ・佐川町 ・越知町 ・日高村 ・いの町観光協会 ・越知町観光協会 ・さかわ観光協会 	<p>[目標(H27)]</p> <p>仁淀川地域観光協議会関連のツアー客数:730人 公共関連宿泊施設での宿泊者数:56,000人 主要観光施設の入込数:140,000人</p> <p>[H26到達点]</p> <p>仁淀川地域観光協議会関連のツアー客数:3,500人 公共関連宿泊施設での宿泊者数:54,000人 主要観光施設の入込数:138,000人</p> <p>[H25到達点]</p> <p>仁淀川地域観光協議会関連のツアー客数:2,500人→実績3,660人 公共関連宿泊施設での宿泊者数:54,000人→実績46,703人 主要観光施設の入込数:138,000人→実績138,021人</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月末の仁淀川地域観光協議会関連のツアー客数が1,848人(前年比109.2%)と引き続き数字を伸ばしている。 ・昨年に引き続きカヌー、ラフティングといった川遊びのメニューが好調を維持している。 ・協議会主催の観光物産PR(岡山市「京橋朝市」に出展10/5)や「仁淀川ひなまつり回廊(H27.2~3月)」の実施に向け準備中

重点的な取組	取組状況 (結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ (7/15 リニューアル)、ツイッター等のインターネットツールやパンフレット・マップ (個人・エージェント向け) による情報発信を実施 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県版ふるさと雇用事業を活用しているが、H27年度からの財源確保が課題 ⇒通常総会 (方向性の決定は幹事会に委任) にて、財源確保の努力を続け、現行のプロパー職員2名体制を維持する方向を確認 ・ツアーの造成が進むことによって、オペレーション業務、現地でのアテンドや営業に向ける仁淀川地域観光協議会の人役が不足してきており、新規の旅行会社の開拓、ツアーの造成が困難になってきている。 ⇒広域観光を推進するための県の方向性と歩調を合わせ、地域観光協議会の体制整備を検討する。 ・ツアーの造成数は順調に推移しているが、長期的に安定して誘客を行うためには、常に旅行会社やお客様に注目してもらえる楽しみ方の提案が欠かせない。 ⇒研修会等を通じて市町村や観光施設の担当者の意識の醸成を図る。また定例の担当者会で素材の持ち寄りを行う。

②上記以外で特記すべき取組

取組	取組状況 (結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 11 本川きじの販路の拡大と顧客ニーズに対応した商品開発 (いの町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本川きじ生産組合 ・庭先農家 ・いの町 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>本川きじの生産羽数：6,800羽</p> <p>[H26 到達点]</p> <p>本川きじの生産羽数：6,800羽</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>本川きじの生産羽数：6,375羽 → 実績 4,365羽</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産振アドバイザーの導入及び県中小企業団体中央会をアクションプランのチーム会に招き、本川きじ生産組合の法人化 (H26.12月を予定) に向けて協議中 ・新商品「きじ生ハム」の試作品が完成 ・貯卵庫、脱毛器、液体型急速冷凍機などの生産設備の整備を町単独事業で実施予定 (施設は町有) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・売上を伸ばすための新たな販路の開拓

取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 17 集客施設を核にした高岡地区の活性化(土佐市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土佐市商店街活性化推進協議会等 	<p>⇒法人化に向けた経営計画の策定の中で、販売戦略を構築中</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状では、売上が冬期に集中しているため、通年で販売できる商品開発が課題 ⇒現在、生ハムの試作品段階であり今後、味の調整やパッケージや単価の検討などを行い、早期の商品化を目指す。また、「きじ重」のレシピ開発にも着手予定。 ・安定した生産体制の構築 ⇒昨年の夏期の暑さによるダメージを踏まえ、孵卵率・飼育状況の把握と改善のため、中央家畜保健衛生所と連携して指導を行う。また、経営の安定化に向けた生産組合の法人化や、生産体制の安定化及び品質向上のための設備投資を行う。 <p>[目標(H27)]</p> <p>施設直販市での販売額：79,000千円</p> <p>[H26到達点]</p> <p>施設直販市での販売額：62,000千円</p> <p>[H25到達点]</p> <p>直販所の売上：62,000千円 → 実績42,581千円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土佐市、商工会、JA、地域本部のメンバーでドラゴン広場運営協議会(チームドラゴン会)を立ち上げ、運営改善に向けた協議を継続して実施 ・6月から産振アドバイザーを導入し、施設の管理、運営方法の改善に向けて助言を受けている。 ・来場者数:H26年度(4~7月)37,517人(前年比86.2%) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドラゴン広場は、地域の産品販売、観光情報発信、地域住民のコミュニティーの場といった役割を果たしているが、集客のための仕掛けづくりや、安定した施設運営のノウハウ獲得が課題 ⇒ドラゴン広場運営協議会(チームドラゴン会)を定期的に開催して、集客と売上増の検討と実践を続ける。 ⇒魅力ある直販所とするため、レジ・陳列等の売り場全体のレイアウトを変更。今後、POPやのぼり旗等でさらに魅力ある売り場づくりを行う。 ⇒直販所の商品、出荷者を増やすため、集荷の仕組みづくりや生産者等へ出展の呼び掛けを続け、JAとさし女性部とも連携した取り組みを行う予定。また、観光客等の満足度を高め、売上増につなげるため、仁淀川流域の産

取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 18 いの町商店街(仁淀川七色商店街)の活性化(いの町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いの町 ・いの町商工会 	<p>品等による「お土産コーナー」の設置を検討する。 ⇒イベント企画・開催によって集客を進めるとともに、今後も課題等に応じ、積極的に産振アドバイザー制度を活用して、店舗の魅力づくりや情報発信を行う。</p> <p>[目標(H27)] いの町商店街の空き店舗率: 20%未満(H23 25.3%)</p> <p>[H26 到達点] いの町商店街の空き店舗率: 21%未満</p> <p>[H25 到達点] いの町商店街の空き店舗率: 21%未満 → 実績 21%</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度は、日本商工会議所の小規模事業者地域力活用新事業全国展開事業の実践の年であり、いの町中心市街地の再生に向け策定したプランをもとに取り組みを進める。 ・商工会、観光協会、紙の博物館、手すき職人、製紙会社、生産農家、飲食店等の実践者による協議を経て、各事業の企画を仕上げている。 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プランの実践に当たって、プレーヤーとなる事業者や住民の参加が重要となる。 ⇒「紙」、「職人」、「食」、「仁淀川」の4つをテーマにそれぞれの部会で商品開発やイベント企画を行い、「土佐紙まつり(仮称)(H26.10/11~12/14)」で発表 ⇒観光振興部と地域本部が進める「食の旅行商品化」の取組の中で「生姜料理」の商品開発に取り組む。 ・商店街の情報発信の拠点である「暮らしのかけ橋交流館なないろ」(運営:いの町商工会)の効果的な運営 ⇒消費者と店主をつなぐ企画商品づくりや、PR活動の実施 ⇒H27.10月で施設の賃貸期限が切れるため、その後の運営体制を検討
<p>■No. 19 地域産品を活用した冷菓等の製造販売(いの町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(有)高知アイス 	<p>[目標(H27)] 冷菓等の販売額: 4.37億円</p> <p>[H26 到達点] 冷菓等の販売額: 4.31億円</p> <p>[H25 到達点] 冷菓等の販売額: 4.12億円→実績 3.92億円</p> <p>[取組状況]</p>

取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 20(株)フードプランを中心とした農山村 6次産業化の推進(仁淀川町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)フードプラン ・仁淀川町 	<ul style="list-style-type: none"> ・直営売店でのH25年度売上12,238千円(前年比312%) ・販路拡大を目指し、海外(シンガポール、香港、アメリカ、マレーシア)の商談会等に積極的に参加 ・取得したハラール認証を生かしてマレーシアでの販路拡大の取組を実施 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外での販路開拓やハラール認証を生かした需要拡大に対応した生産設備の整備 <ul style="list-style-type: none"> ⇒冷凍保管庫を工場敷地内へ設置し、ストック容量の増と出荷作業の効率化、コスト削減を図る。 ⇒産振総合補助金採択申請中(8/22審査会) ・新たな海外販路の開拓 <ul style="list-style-type: none"> ⇒中東ドバイでの商談会に参加 ⇒産振総合補助金採択申請中(8/22審査会) ・冷菓等はシーズン商品のため、四季を問わず販売できるスイーツ等の販路拡大 <ul style="list-style-type: none"> ⇒新商品のパッケージと持ち帰り商品用手提げ袋のデザイン制作 ⇒産振総合補助金採択申請中(8/22審査会) ・工場視察、直営売店への来客者の増加に伴い、既存施設では来客者の満足度を十分満たすことができなくなっている。 <ul style="list-style-type: none"> ⇒売店の飲食スペース及び物販コーナーの増築 ⇒工場視察用の窓の設置 ⇒産振総合補助金採択申請中(8/22審査会) <p>[目標(H27)]</p> <p>販売額：4.0億円</p> <p>[H26到達点]</p> <p>販売額：5.2億円</p> <p>[H25到達点]</p> <p>販売額：4.9億円 → 実績 4.8億円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ステップアップ事業(6/13交付決定)の活用により、経営分析、経営計画づくりに取り組んでいる。(第1回7/23) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現施設での生産能力が限界に達しており、需要に対する対応が不十分。経営計画に基づく会社運営がなされておらず、人材育成、組織体制の弱さも課題 <p>⇒経営コンサルタントの参画による経営方針、経営計画の</p>

取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 21 売れる商品づくりによる地産外商の推進(佐川町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・佐川町 ・JAコスモス ・佐川町商工会 ・企画本舗さかわ屋 ・地元酒造会社 ・地元乳業者 ・地元加工業者 ・黒岩じるし ・地元酪農家 など 	<p>策定を行い、経営の改善と設備投資に向けた財務環境の整備に取り組む。</p> <p>⇒財務環境の整備の進捗度に応じて、農山漁村活性化プロジェクト支援交付金を活用した施設整備を検討する。</p> <p>[目標(H27)]</p> <p>生乳出荷量：480t</p> <p>[H26到達点]</p> <p>生乳出荷量：380t</p> <p>[H25到達点]</p> <p>生乳出荷量：270t → 実績 326t</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地乳プロジェクト会の定期開催による新商品開発の検討 ・地元農産物を使用した加工品の開発等の検討 ・地元事業者が「佐川ものづくり支援事業補助金」や「中小企業・小規模事業者ものづくり・商業・サービス革新事業」を活用し、地乳や農産物等を使用した新商品(地乳アイス新製品、ニラ佃煮、紅茶を使った焼菓子等)の開発を進めている。 ・地元乳業者が「中小企業・小規模事業者ものづくり・商業・サービス革新事業」の活用により、牛乳の安定的な製造のための設備整備等に取り組んでいる。 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・売上高を伸ばすために地乳のブランド力を高めることが必要 <ul style="list-style-type: none"> ⇒乳業者を中心とした酪農家との関係強化や生産基盤の強化に取り組む。 ・地乳を使った新たな商品開発や、地乳に対する消費者の認知度を再び上げることが必要 <ul style="list-style-type: none"> ⇒「佐川ものづくり支援事業補助金」を活用し、「さかわの地乳」シリーズ認定シールと販促グッズの作成に取り組む。 ⇒佐川町や佐川町商工会、事業者等と連携し、地乳プロジェクト会等において新商品開発の検討を進める。 ⇒さかわの地乳をテーマにした販促イベントの企画を行う。

取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 24 企業進出による雇用の増(ペット用木質系排泄物処理剤製造施設整備事業)(日高村)</p> <p>《事業主体》 ・(株)エスエス</p>	<p>[目標 (H27)] 販売額：9,000万円</p> <p>[H26 到達点] 販売額：4,000万円</p> <p>[H25 到達点] 販売額：4,000万円 → 実績 2,226万円</p> <p>[取組状況] ・日産 400 ケースを目指した生産体制の調整 ・OEM 先と連携した販路の拡大 ・OEM 先であるアース・バイオケミカル(株)から要望のあった原料・製品をストックする倉庫を、工場に隣接した場所に日高村が確保 (H26. 5 月から供用開始)</p> <p>[課題と今後の対応] ・OEM 先の販促による製品の売上向上や製造コスト削減の取り組みが重要 ⇒OEM 先の情報を得ながら、フル操業に向けた協議を進める。 ⇒現在、日産 350 ケース前後を供給している状況。今後も、海外への輸出拡大を含む OEM 先の販売促進の取り組みに合わせ、安定的な製造に取り組む。</p>
<p>■No. 25 直販市の機能強化(生産・出荷の拡大及び観光情報発信等)による地域の活性化(日高村)</p> <p>《事業主体》 ・日高村</p>	<p>[目標 (H27)] 施設での販売額等：103,200千円</p> <p>[H26 到達点] 施設での販売額等：65,170千円</p> <p>[H25 到達点] 体験型観光入込客数：15,700人 → 実績 12,500人</p> <p>[取組状況] ・産振総合補助金を活用した直販所「さんさん市」のリニューアル工事は、10月末までに完成し、11月のオープンを目指している。 ・新たな施設は、これまでの直販所の機能のほか、新たに観光情報発信コーナー、飲食コーナーを備えたものになる。 ・産振アドバイザー制度で派遣したアドバイザーを村単独事業で確保し、運営体制の整備、PRやイメージ戦略の策定等、リニューアルオープンに向けた準備を進めている。 ・公募により「駅長(支配人)」を採用(H26.7月) ・運営組織となる法人の設立手続を開始(H26.7月設立) ・仮店舗での営業開始(H26.5月末～) ・7月から産振アドバイザーを導入し、直販所に隣接する農産物加工施設の改修、特産品の開発等に向けて助言を受け</p>

取組	取組状況 (結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 33 歴史的風致維持向上計画の推進(佐川町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・佐川町 ・さかわ観光協会 ・佐川町内の地域づくり関連団体 	<p>ている。</p> <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商品の品揃えと販売の仕組みの磨き上げや、運営主体となる新法人の経営体制の確立 <ul style="list-style-type: none"> ⇒商品確保に向けた生産者への周知、出荷者の増、集荷体制の整備を進める。 ⇒引き続きアドバイザーの助言を得ながら、法人設立及び売上向上、安定した運営のための準備、特産品の開発を進める。 ⇒お客様がわざわざ来店する魅力的な加工品の開発 ・台風12号、11号の被災により仮店舗及び建築中の新店舗(基礎・柱)が浸水したが、仮店舗は、8/11から営業を再開。新築工事は進捗に大きな遅れはないが、流出した木材の消毒・乾燥と、トイレの電気設備の取り換えが生じた。 <p>[目標 (H27)]</p> <p>歴史的風致地区への入込客数：10,000人</p> <p>[H26 到達点]</p> <p>歴史的風致地区への入込客数：10,000人</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>歴史的風致地区への入込客数：10,000人 → 実績 9,699人</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・佐川町歴史的風致維持向上計画がH30年度までの5年間延長となり、竹村家分家旧竹村呉服店の修復・保存事業や、司牡丹酒造(株)1号蔵他酒蔵群修復・保存事業が新規メニューとして追加された。 ・まち歩き観光ガイド(NPO法人 佐川くろがねの会)利用者数が大幅に増加(H24年度：1,339人→H25年度：2,986人→H26年度4～7月：1,600人) ・多くの観光客をご案内しているNPO法人 佐川くろがねの会が、産振アドバイザー制度を活用して観光ガイド養成研修を実施し、ガイドの増員やガイド台本基本編2種(携帯版、詳細版)の作成等、くろがねの会の基盤強化につながった。 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さかわ観光協会を中心とした佐川町の物産販売や情報発信、地域発の観光メニューづくりの強化 <ul style="list-style-type: none"> ⇒浜口邸での物産販売、観光情報発信機能の整備 ⇒住民参加による牧野公園植栽計画の推進 ⇒さかわ観光協会が中心となって、佐川くろがねの会との

取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 34 越知町の総合的な観光推進と地場産品の販売促進(越知町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おち駅運営協議会 ・越知町観光協会 ・JAコスモス ・越知町 など 	<p>連携により、歴史的町並みを活用した体験観光づくりを進める。</p> <p>⇒佐川町上町地区でのにぎわいを、町内に広げるための戦略づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・佐川町の観光振興に向けた関係機関の役割分担と機能強化 <ul style="list-style-type: none"> ⇒産振アドバイザー制度の活用による、さかわ観光協会のおもてなしの質の向上 <p>[目標(H27)]</p> <p>施設での販売額：6,000万円 体験メニューの造成：6メニュー 案内人養成数：6人 ラッピングインストラクター数：8人</p> <p>[H26到達点] 施設での販売額：6,300万円</p> <p>[H25到達点] 施設での販売額：6,000万円 → 実績 6,278万円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おち駅物販経営協議会(毎月1回開催)による販売体制の強化に向けた協議 ・カヌー、ラッピング救命救急講習(4/12) ・カヌー、ラッピングの利用者増加(H24年度：カヌー282人、ラッピング530人→H25年度：カヌー840人、ラッピング998人→H26年度4月～7月：カヌー254人、ラッピング302人) ・産振アドバイザー制度を活用した情報発信力向上講座(Facebookを活用した情報発信)の開催(6/2、25) ・横倉山案内人養成講座の開催(6/26) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・販売体制の強化 <ul style="list-style-type: none"> ⇒おち駅物販経営協議会において月次単位で販売動向の分析等を行い、販売現場の状況を反映したタイムリーな売上向上に取り組む。 ⇒産振アドバイザーの指導を活かし、POSシステムデータを活用した商品別・生産者別の売り上げ状況の分析や出荷者へのフィードバックの取り組みを進める。併せて、POPの活用や商品の並べ方等による客単価の向上など、顧客目線のサービス提供に取り組む。 ⇒年間の売上状況を出荷者に提供することで計画的な栽培・出荷を促進していく。 ⇒会員の加入促進により商品の確保に取り組む。 ・体験観光メニューの充実等 <ul style="list-style-type: none"> ⇒横倉山案内人養成講座を開催することにより、地域資源

取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 35 屋形船を活用した拠点施設の整備による交流人口の増と地域の活性化(日高村)</p> <p>《事業主体》</p> <p>・日高村</p>	<p>を活かした体験型観光のメニューを充実させる。 ⇒カヌー、ラフティングの基地整備に向けて越知町と観光協会が協議中</p> <p>[目標(H27)]</p> <p>体験型観光入込客数：23,500人</p> <p>[H26到達点]</p> <p>体験型観光入込客数：16,200人</p> <p>[H25到達点]</p> <p>体験型観光入込客数：15,700人 → 実績 12,500人</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在3隻運航を行っているが、仁淀川漁協総会にて5隻運航が承認され、夏期シーズンに向けて準備中 ・乗船者数：H24年度1,785人(5/6～)、H25年度3,277人、H26年度(4～7月)1,691人 ・仁淀川地域観光協議会による旅行会社へのセールス ・発着場に近接した河原への遊歩道整備が決定(完成：H27.2月末) ・屋形船の発着場の敷地内に村単独事業での公衆トイレの設置が決定(完成：H26.12月末) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光の視点だけでなく、地域コミュニティの場づくりを含めた拠点施設の整備が必要 ⇒役場内でのプロジェクト会議での検討や、地域住民との合意形成による施設整備を進める。 ・ツアー客に対応できる集客力の向上と情報発信 ⇒5隻(うち予備1隻)運航での利用人員の増 ⇒他の観光資源と連携したパッケージでのセールスやイベントの開催 ⇒村内の観光資源PRのためのツールの作成や新「さんさん市」での情報発信 ⇒屋形船のホームページやブログを再構築して情報発信の強化を検討する。

2 平成 26 年度産業振興推進総合支援事業費補助金の導入状況（交付決定又は採択事業）

単位：千円

取組	事業概要	総事業費（補助金額）
<p>■No. 20(株)フードプランを中心とした農山村 6次産業化の推進（仁淀川町） ※交付決定 6/13</p>	<p>仁淀川町のカット野菜事業については、カット野菜の需要の増加により現施設での生産能力が限界に達し、受注できない状況が生じている。この課題解決のため、施設整備に向けた事業計画書の作成や投資可能な財務環境づくりを目指して専門家に経営分析等を委託し、指導・助言を得ることにより、課題を明確にし、その解決を図る。</p>	<p>3,527 (1,633)</p>

3 地域アクションプランの追加、修正、削除（予定）項目

[追加]

■ 生姜等加工品製造施設整備事業（いの町）

仁淀川流域の基幹品目である、生姜の増産及び加工品の生産性の向上を図り、顧客からの受注に対応できる安定的な生産体制を確立することにより、いの町内等の生姜生産者の所得の向上及び雇用拡大につなげる。

[修正]

■ 「No. 18 いの町商店街（仁淀川七色商店街）の活性化」の第2期計画の修正

（理由）いの町商店街再生プラン（H25年度策定）を実践するための取り組みが明確になったため

■ 「No. 28 集客施設の整備による新居地区の活性化」の名称と事業主体、主な内容の修正

（理由）国庫補助事業において「観光交流施設」として整備することが決定し、事業の名称と事業主体、事業内容に変更が生じたため。

4 県民参画に向けた取組

- ・いの町商工会総会で土佐MBAの紹介（5/20）
- ・日高村商工会総会で土佐MBAの紹介（5/21）
- ・土佐市商工会総会、越知町商工会総会で土佐MBAの紹介（5/23）
- ・いの町観光協会総会で県の観光動向、仁淀川流域への入込等について説明（5/26）
- ・商品開発や経営改善を目指す事業者等への土佐MBAの紹介（4件）

5 相談案件：10件

NO.	相談日	事業種別	相談内容
1	4/9	建築・木材販売加工	仁淀川町産木材や土佐漆喰等、県内の建築資材を使ったデザイン住宅の開発及び販売促進

NO.	相談日	事業種別	相談内容
2	5/28	農産物等販売	農産物直販所の拡充整備
3	5/29	乳業	牛乳製造の能力向上のためのボイラー設備等の増設
4	6/3	食品加工	ケールの生産者確保及び乾燥機器の導入
5	6/6	食品加工	ブラックベリーの加工・販売体制の確立
6	6/18	食品加工	お茶のスイーツの加工施設や経営体制の充実強化
7	6/24	食品加工	生姜加工施設の建設
8	6/26	食品加工	カット野菜の洗浄施設の整備
9	7/9	畳縁加工販売	畳縁を使った製品の販売促進
10	7/15	食品加工	ブルーベリーを活用した菓子の製造開発

有望素材シート（26年度）（案）

様式4

『地域アクションプラン』検討過程での有望素材の洗い出し

市町村名	いの町	素材名	生姜、ゆず皮
		関連素材	
現状・課題	<p><現状> 高知県の生姜栽培は、作付面積（463ha）、生産量（2万4千トン）ともに、日本一を誇る。中でもいの町は高知県の生姜栽培の発祥の地であり、現在約50戸の農家が合計で1,000トン（県内7位）の生姜を栽培している。 西村青果株式会社はいの町で昭和26年創業以来63年間生姜卸業を行っている。生鮮部、香辛料加工部、栽培部からなり、香辛料加工部は昭和60年からおろし生姜やゆず皮の加工品、ねりわさびなどの香辛料加工品の製造や全国販売を行うなど、いち早く農業の6次産業化に取り組んできた経緯がある。 近年、中国産冷凍野菜から基準値を超える残留農薬が検出されたことを発端に、国産生姜の需要が急増した。</p> <p><課題> 現状の体制（保冷施設の容量不足）では、貯蔵に限界があり、国産生姜の需要拡大に対応できない状況である。</p>		
今後の方向性	<p>保冷施設の整備により、生姜の加工品の生産性向上及び販売拡大を図る。 生姜の取扱量が増加するため、保冷の下処理作業等を行う常勤職員を4～5名程度、新規に雇用する予定。 また、いの町内等の生産者の所得向上につなげるため、大手食品会社等との安定的な取引を目指す。</p>		

『有望素材』を活かした具体的な取り組み（案）

『地域アクションプラン』における具体的な取り組み案

項目	取り組み名	生姜等加工品製造施設整備事業				
	関係市町村名	いの町				
事業の概要	<p>仁淀川流域の基幹品目である、生姜の増産及び加工品の生産性の向上を図り、顧客からの受注に対応できる安定的な生産体制を確立することにより、いの町内等の生姜生産者の所得の向上及び、地域の雇用拡大に繋げる。 主要取扱品目の生姜について、大手食品会社の餃子の中具や大手コンビニチェーン店のおろし生姜などの受注が予定されているほか、ゆず皮の加工品についても大手天然調味料製造会社からの受注が予定されていることから、これらに対応するため、以下の事業を行う。</p> <p><保冷施設の整備> ・建屋 ・冷蔵庫 ・冷凍庫 ・塩蔵生姜タンク</p>					
事業主体等	<p>【事業主体】 西村青果（株）</p> <p>【関係機関】 生姜生産農家、高知県園芸連、JAとさし、JAコスモス、JA高知市</p>					
主な内容・スケジュール	取組手順	事業実施【H26】	1年後【H27】	2年後【H28】	3年後【H29】	4年後【H30以降】
	保冷施設の整備	11月末 農地転用・開発許可 H27.2～3月 着工予定	8月末までに 完成予定			
	生産力の強化		整備した施設を活用し、生産性の向上を図る			→
	生産農家等との連携		いの町内外の生姜生産農家及び高知県園芸連等との連携を強化して仕入量を増加させる。			→
指標・目標	項目	事業実施【H26】	1年後【H27】	2年後【H28】	3年後【H29】	4年後【H30以降】
	売上高（加工部門）の増 雇用数の増	210,662千円	276,000千円	279,000千円	282,000千円	285,000千円
	【設定根拠】	<p>【推計の考え方】 この事業は、全国展開する大手食品会社等からの受注に対応するものであり、売上高の増と増産による雇用の増が期待できる。</p>				
仕分						
総事業費等	<p>総事業費 70,000千円（うち26年度70,000千円） （内訳 国： 県：35,000千円 市町村： その他：35,000千円）</p> <p>想定する支援事業（補助金名称、人的支援の内容、その他） 国： 県：産業振興推進総合支援事業 人的支援： その他：</p>					
備考						

追加項目(案)

【仁淀川地域】

項目	目的	実施主体	実施のし方	効果	その他
生姜等加工品製造施設整備事業 (いの町)	仁淀川地域の基幹品目である、生姜の増産及び加工品の生産性の向上を図り、顧客からの受注に対応できる安定的な生産体制を確立することにより、いの町内等の生姜生産者の所得の向上及び、地域の雇用拡大に繋げる。	・西村青果株式会社		・生姜等の加工品の生産力の強化	◆生産体制の整備・販売強化 ◆原材料の確保

事業計画					目標	
H23	H24	H25	H26	H27	計画	目標(H27)
		生産体制の整備・販売強化 保冷施設の整備			生姜等加工品の販売額(H25:210百万円)	276百万円 (H27.9)
		生姜等加工品の製造・販売				
		原材料の確保				
		生産農家等との取引量の安定化を目指す取組				

修正項目(案)

【仁淀川地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
18 いの町商店街(仁淀川七色商店街)の活性化 (いの町)	空き店舗・旧町屋・倉庫等について、地域産品の販売やコミュニティーの場、新規起業希望者へのチャレンジショップ等への有効活用を目指し、いの町商店街の再生へ向けた取組を行う。人を商店街へ呼び込むための取組として、仁淀川七色ロード市の定着化・拡大を図るとともに、商店街の核となるまちの駅の設置に向けた検討を図る。	いの町 いの町商工会	・イベント『よどがわ七色ロード』の実施(H24~25) ◆H24に計5回イベントを実施し、商店主への意識づけと、地域内外に対する商店街のPRを行ったことにより、若い商店主を中心として、商店街を盛り上げていこうという意識が育ち、実行組織ができた。 ◆イベントだけでは顧客、売り上げの増加には結び付きにくい。イベントも含め、商店街を面として磨きあげ、発信するための計画づくりを多くの関係者を巻き込んで策定する必要があると考え、25年度に国の全国展開支援事業の補助金を導入し、計画策定に取り組んでいる。	・商工会の会員をはじめ多くの事業者、住民が主体的に関わり、実現可能で効果的な事業計画を策定する必要がある。	◆いの町商店街の再生に向けた取組
修正前					



【仁淀川地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
18 いの町商店街(仁淀川七色商店街)の活性化 (いの町)	空き店舗・旧町屋・倉庫等について、地域産品の販売やコミュニティーの場、新規起業希望者へのチャレンジショップ等への有効活用を目指し、いの町商店街の再生へ向けた取組を行う。「紙の町をお金にする」「まちなかを元気にする」を目標として、新商品の開発及び各店舗の元気づくりに取り組む。	いの町 いの町商工会	・イベント『よどがわ七色ロード』の実施(H24~25) ◆H24に計5回イベントを実施し、商店主への意識づけと、地域内外に対する商店街のPRを行ったことにより、若い商店主を中心として、商店街を盛り上げていこうという意識が育ち、実行組織ができた。 ◆イベントだけでは顧客、売り上げの増加には結び付きにくい。イベントも含め、商店街を面として磨きあげ、発信するための計画づくりを多くの関係者を巻き込んで策定する必要があると考え、25年度に国の全国展開支援事業の補助金を導入し、計画策定に取り組んだ。 ◆商工会の会員が主体的に関わり実現することができる事業計画を策定した。また、実現に向けてのきめ細かい支援を商工会が行う仕組みが定着しつつある。	いの町内の事業者が開発した食、紙、観光の新商品を紙のまちから生まれたものとして一体的に売り出すための工夫が必要。	◆いの町商店街の再生に向けた取組
修正後					

修正項目(案)

【仁淀川地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
28 集客施設の整備による新居地区の活性化 《土佐市》	土佐市の新たな地域振興の拠点、地域情報発信基地として「観光交流センター」(仮称)を整備し、交流人口の拡大と地域の活性化を目指す。	・(仮称)「企業組合 土佐の夜明け」を予定	・体験型観光及び食観光の推進(H21～23) ◆地域資源を活用した観光商品づくりに取り組む中で、具体的な動きが出始めた。 ・新居地区への新たな集客施設の整備の検討(H24～25) ◆防災機能を備えた複合施設として整備する検討が進んだ。	・施設整備の内容や運営方法、体制等の検討	◆規格外の農産物等を使ったレストランの設置 ◆仁淀川及び新居海岸等を活用した観光メニューの案内及び情報発信

修正前

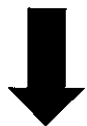


【仁淀川地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
28 交流施設の整備による新居地区の活性化 《土佐市》	土佐市の新たな地域振興の拠点、地域情報発信基地として「観光交流センター」(仮称)を整備し、交流人口の拡大と地域の活性化を目指す。	・(仮称)「特定非営利活動法人 新居を元気にする会」を予定	・体験型観光及び食観光の推進(H21～23) ◆地域資源を活用した観光商品づくりに取り組む中で、具体的な動きが出始めた。 ・新居地区への新たな交流施設の整備の検討(H24～25) ◆防災機能を備えた複合施設として整備する検討が進んだ。	・施設整備の内容や運営方法、体制等の検討	◆規格外の農産物等の販売 ◆仁淀川及び新居海岸等を活用した観光メニューの案内及び情報発信

修正後

第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
規格外の農産物等を扱ったレストランの設置						
「観光交流センター」(仮称)整備及び運営方法の検討			「観光交流センター」(仮称)オープン	「観光交流センター」の安定した運営		
仁淀川及び新居海岸等を活用した観光メニューの案内及び情報発信						
観光案内機能についての検討			「観光交流センター」(仮称)内での観光案内及び情報発信など			



第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
規格外の農産物等の販売						
「観光交流センター」(仮称)整備及び運営方法の検討			「観光交流センター」(仮称)オープン	「観光交流センター」の安定した運営		
仁淀川及び新居海岸等を活用した観光メニューの案内及び情報発信						
観光案内機能についての検討			「観光交流センター」(仮称)内での観光案内及び情報発信など			

高幡地域アクションプランの進捗状況等

H 2 6 . 9 . 1 2
高 幡 地 域 本 部

1 地域アクションプランの上半期の実施状況（総括）

(1) 総評

本年4月には、産業振興総合補助金を活用した2つの施設が相次いでオープンするとともに、新たに追加されたアクションプランにおいても、生産や販路の拡大に向けて積極的に動き出している。

25年度にシイラ加工食品のヒット商品を生み出した「けんかま」では、県外への販路を拡大しながら好調な売上を維持しているほか、他のアクションプランにおいても、産業振興アドバイザーや各関係機関の支援策を活用しながら、商品開発や販路拡大に挑む姿勢が活発化している。

観光分野では、昨年度設置された行政、民間、関係団体からなる広域観光組織の活動が活発化しており、28年度開催予定の地域博覧会の名称を「2016奥四万十博」に決定し、今後、運営組織の体制づくりや事業計画の策定に取り組むこととしている。

また、5月に開催された産業振興シンポジウム須崎会場には、300人を超える参加があり、須崎市では7月に須崎市産業振興計画検討委員会が設置されるなど、高幡地域内での産業振興に関する意識の高まりがみられる。

(2) 具体的な動き

①地域の重点的な動き

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>まとまりのある産地づくり</p> <p>■No.1 地域基幹園芸品目の生産振興と農家の所得向上（須崎市、中土佐町、津野町）</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ J A 土佐くろしお ・ J A 四万十 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>主要農産物販売額：H27 園芸年度 56.8 億円</p> <p>[H26 到達点]</p> <p>主要農産物販売額：H26 園芸年度 56 億円</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>主要農産物販売額：H25 園芸年度 53.8 億円→実績 55.9 億円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現地検討会、目慣らし会等（32 回開催） ・ 栽培及び低コスト現地実証圃の調査・検討（25 ヲ所） ・ I P M 技術実証圃の調査・検討（6 ヲ所） ・ 排水及び循環型処理装置の実証・検討（6 ヲ所） <p>[課題と今後の対応]</p> <p>栽培技術の定着化</p> <p style="padding-left: 20px;">⇒実証圃の調査・検討の継続実施、 技術マニュアル等の作成</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 2 中山間地域での持続可能な農林業経営の確立(栲原町、津野町)</p> <p>《事業主体》</p> <p>・JA津野山</p>	<p>[目標(H27)]</p> <p>農協取扱主要品目売上:5.9億円 所得400万円以上の農家数:5戸</p> <p>[H26到達点]</p> <p>農協取扱主要品目売上:5.6億円 所得400万円以上の農家数:5戸</p> <p>[H25到達点]</p> <p>農協取扱主要品目売上:5.3億円→実績5.0億円 所得400万円以上の農家数:4戸→実績5戸</p> <p>[取組状況]</p> <p>・栽培指導(7月末) 栽培講習会11回、現地検討会7回、実証圃・モデル園設置5カ所、個別巡回指導等52回</p> <p>[課題と今後の対応]</p> <p>平坦地なみの所得をあげるための進捗管理 ⇒個別巡回指導等の継続実施</p>
<p>■No. 3 基幹品目等の維持・発展による地域農業の活性化(四万十町)</p> <p>《事業主体》</p> <p>・JA四万十</p>	<p>[目標(H27)]</p> <p>ニラ販売金額:10億円</p> <p>[H26到達点]</p> <p>ニラ販売金額:9.3億円</p> <p>[H25到達点]</p> <p>ニラ販売金額:9.3億円→実績8.1億円</p> <p>[取組状況](7月末)</p> <p>・現地検討会等の開催 ミョウガ3回、ピーマン6回、ニラ12回、露地ショウガ4回</p> <p>・JAと連携した品目別経営分析説明会の開催 5品目(ミョウガ、ピーマン、ニラ、キュウリ、水耕切) 参加率21%</p> <p>[課題と今後の対応]</p> <p>収量・品質の向上 ⇒こうち新園芸システムと連携した取り組みにより、現行栽培技術の検証と新たな技術組立による更なる収量・品質向上</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>森を活かす取組</p> <p>■No. 17「四万十ヒノキ」のブランド化を主体とした地域森林資源の有効活用 (中土佐町、四万十町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四万十町森林組合 ・須崎地区森林組合 ・四万十町内製材業者 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>四万十ヒノキのブランド品販売 : 原木 9,000 m³、製品売上高 2.7 億円 F S C 等認証森林面積 : 5,700ha F S C 認証材製品売上高 : 20 百万円 J A S 認定工場 : 1 社増設</p> <p>[H26 到達点]</p> <p>四万十ヒノキのブランド品販売 : 原木 9,000 m³、製品売上高 2.7 億円 F S C 等認証森林面積 : 5,700ha F S C 認証材製品売上高 : 12 百万円</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>四万十ヒノキのブランド品販売 : 原木 7,000 m³、製品売上高 2.5 億円 →実績 原木 8,486 m³、製品売上高 3.8 億円 F S C 等認証森林面積 : 5,644ha→実績 5,650ha F S C 認証材製品売上高 : 10 百万円→実績 10 百万円</p> <p>[取組状況] (7 月末)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外商活動延べ 108 回 (県内 68 回、県外 40 回) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・顧客のニーズに応じた商品の開発・改良 ⇒アンケート等を実施して、商品の問題点等を検討
<p>■No. 18「1 億円産業の復活」をスローガンとする津野山産原木シイタケの産地化の推進 (梶原町、津野町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ J A 津野山 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>乾燥シイタケの販売量 : 11t</p> <p>[H26 到達点]</p> <p>乾燥シイタケの販売量 : 10t</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>乾燥シイタケの販売量 : 8.9t→実績 6.6t</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県椎茸品評会への出展 (5 月) ・全農全国椎茸品評会への出展 (6 月) ・産業振興アドバイザーによる講演会及び助言指導の実施 (6/28) ・生産者部会による販売戦略の検討予定 (9 月) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>1 億円産業に向けた戦略の策定 ⇒ J A 担当者や生産者部会と協議</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 21 循環型社会の構築を促進するための 森林資源の有効活用(梶原町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・梶原町森林組合 ・梶原町 ・ゆすはらペレット㈱ 	<p>[目標(H27)]</p> <p>木材生産量: 5,000 m³ 認証材の販売量: 1,600 m³ ペレット原材料の調達: 3,900t ペレット生産量: 1,700t</p> <p>[H26 到達点]</p> <p>木材生産量: 3,000 m³ 認証材の販売量: 1,500 m³ ペレット原材料の調達: 3,900t ペレット生産量: 1,700t</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>木材生産量: 2,800 m³→実績 2,013 m³ 認証材の販売量: 1,400 m³→実績 1,486 m³ ペレット原材料の調達: 3,900t→実績 2,854 t ペレット生産量: 1,700t→実績 1,411 t</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・営業活動延べ 35 回(県内 16 回、県外 19 回) ・ペレット生産に関する協議(8 回) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・FSC 認証材の知名度の向上 ⇒営業活動の充実
<p>地域の特産品を活用した商品づくり</p> <p>■No. 5 葉にんにくを活用した加工食品の生 産・販売の拡大 (須崎市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)アースエイド 	<p>[目標(H27)]</p> <p>売上額: 20,000 千円</p> <p>[H26 到達点]</p> <p>売上額: 5,000 千円</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>—</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展示商談会、販促相談会(Mart×日本アクセス おいしいもの再発見プロジェクト等)への参加(10 件) ・ネット通販(オイシックス等)の開始(2 社) ・商品開発(2 品目) ・新規取引開始(7 件) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>販路開拓と商品開発 ⇒メディア戦略等による消費者への認知度向上</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 13 四万十の栗再生プロジェクト (四万十町)</p> <p>《事業主体》 ・四万十の栗再生プロジェクト推進協議会</p>	<p>[目標 (H27)] 原材料供給量 (JA 集荷量) : 100 t</p> <p>[H26 到達点] 原材料供給量 (JA 集荷量) : 60 t</p> <p>[H25 到達点] 原材料供給量 (JA 集荷量) : 80 t → 実績 22 t</p> <p>[取組状況] ・推進協議会 (2 回)、栗振興大会 (1 回) の開催 ・生産者への栽培指導及び特選栗の認定基準の見直し ・「四万十の栗」の認知度向上のためのマスコミ等への露出 地方版、全国版のTV (6 社 9 回)、新聞 (3 社 7 回)、 タウン誌等 (6 回) ・「おちゃくりカフェ」4/26 オープン 売上高 : 約 8,000 千円 来店者数 : 4,433 名 (7 月末)</p> <p>[課題と今後の対応] 生産者の意欲向上と集荷体制の確立 ⇒特選栗の認定基準見直しによる買取価格の安定化、集荷 事業の導入</p>
<p>■No. 30 シイラ加工の生産体制の強化 (四万十町)</p> <p>《事業主体》 ・四万十町 ・興津漁協四万十マヒマヒ丸企業組合 ・興津漁協</p>	<p>[目標 (H27)] 加工品販売金額 : 15,000 千円</p> <p>[H26 到達点] 加工品販売金額 : 15,000 千円</p> <p>[H25 到達点] 加工品販売金額 : 15,000 千円 → 実績 12,690 千円</p> <p>[取組状況] ・通常総会開催 (6/4) ・水産加工業者との連携事業に係る意見交換 (2 社) ・イベントへの出店 (1 回) ・従業員の常勤雇用 (2 名)</p> <p>[課題と今後の対応] ・安定的な原魚の確保及び経営管理、生産体制の強化 ・新規取引先の確保 ⇒原魚の不足時における他所からの購入、 水産加工業者等と連携した販路拡大の取り組み</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■NO. 31 シイラ加工食品の生産拡大 (四万十町) 《事業主体》 ・(株)けんかま</p>	<p>[目標 (H27)] フィレ取扱数量：34t</p> <p>[H26 到達点] フィレ取扱数量：25t</p> <p>[H25 到達点] フィレ取扱数量：25t→実績 17t</p> <p>[取組状況] ・こうち農商工連携事業によるアドバイザーの招聘 (6回) ・フィレ取扱数量 (7月末)：3.2t ・シイラを使った竹輪の売上 (7月末) 1,021,100本 16,347千円 (前年同期比 129.3%)</p> <p>[課題と今後の対応] 競合他社製品との差別化を図る仕掛け ⇒量販店との商談など営業力の強化</p>
<p>■NO. 34 「中土佐のうまいもん食わしちゃお」 商品開発プロジェクト (中土佐町)</p> <p>《事業主体》 ・企画・ど久礼もん企業組合</p>	<p>[目標 (H27)] 開発する商品数：5商品 売上高：28,000千円</p> <p>[H26 到達点] 開発する商品数：2商品 売上高：28,000千円</p> <p>[H25 到達点] 開発する商品数：2商品→実績 3商品 売上高：28,000千円→実績 34,801千円</p> <p>[取組状況] ・新商品試作 (2商品) ・売上 (7月末) 店舗：3,227千円 (前年比 183.9%) 全体：9,917千円 (前年比 68.3%) ・商談会及び営業活動 (5回) ・イベント等への出店 (7回) ・取材、視察対応 (4回)</p> <p>[課題と今後の対応] 販売体制の強化と経営改善 ⇒産業振興アドバイザーの導入</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>6次産業化への取組等による拠点ビジネス</p> <p>■No. 36 津野町地産地消・外商販売戦略 (津野町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさとセンター ・津野町 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>高知店販売額：90 百万円 総販売額：162 百万円</p> <p>[H26 到達点]</p> <p>高知店販売額：90 百万円 総販売額：160 百万円</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>高知店販売額：90 百万円→実績 87 百万円 総販売額：156 百万円→実績 154 百万円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知店販売額(十津店、瀬戸店、満天の星直販部門) 売上高(7月末)：30,268 千円(対前年比 116%) ・総販売額(上記高知店3カ所及び町内3カ所) 売上高(7月末)：53,147 千円(対前年比 105.0%) ・直販所連絡会(4回)、関係者経営会議等(4回)での売上高の分析、改善強化などを実施 ・新商品の販売開始(7/9～)：茶茶、茶ぼたん ・イベントの実施(2回) <p>※(株)満天の星(加工所及びアンテナショップ) 売上高(7月末)：70,055 千円(対前年比：113.3%)</p> <p>[課題と今後の対応]</p> <p>高知店、直販全般の戦略見直し ⇒外部専門家への委託による販売戦略の再構築</p>
<p>■No. 37 四万十町拠点ビジネス体制の強化 (四万十町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)あぐり窪川 ・四万十町 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>地域産品・土産品等の磨き上げ及び新商品開発 ：5品目以上</p> <p>道の駅あぐり窪川販売金額：4.2 億円 アンテナショップ販売金額：4.5 千万円 常勤雇用者数：3名</p> <p>[H26 到達点]</p> <p>地域産品・土産品等の磨き上げ及び新商品開発 ：5品目以上</p> <p>道の駅あぐり窪川販売金額：3.5 億円 アンテナショップ販売金額：4.4 千万円 常勤雇用者数：3名</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>地域産品・土産品等の磨き上げ及び新商品開発 ：5品目以上→実績 5品目以上</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>道の駅めぐり窪川販売金額：3.5億円→実績3.2億円 アンテナショップ販売金額：4.3千万円→実績4.1千万円 常勤雇用者数：3名→3名</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・販促イベントの実施(4回) ・生産者向け「蔵ニュース」の発行(8回) ・道の駅めぐり窪川(5月末)売上高：48,961千円 (前年同期比82.3%) ・アンテナショップ しまんとマルシェ「四万十の蔵」 売上高(7月末)：12,806千円(前年同期比114.4%) ・常勤雇用者数：3名 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>情報発信機能の充実 ⇒産地とアンテナショップとの定期的な交流</p>
<p>中心市街地の賑わいづくり</p> <p>■No. 32 大正町市場商店街活性化事業(中土佐町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大正町市場組合 ・中土佐町商工会 ・中土佐町 	<p>[目標(H27)]</p> <p>大正町入込客の増加(浜ちゃん食堂)：28,000人</p> <p>[H26 到達点]</p> <p>26,000人</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>26,000人→実績24,118人</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浜ちゃん食堂入込み客数(7月末)：7,650人(前年比83.6%) ※6月に10日間臨時休業有り ・大正町市場組合に地域おこし協力隊を導入 ・百円市イベント開催による地元客による賑わいづくり (毎月第4金曜日) ・空き店舗の活用：5月から1店舗出店 ・アドバイザーを招聘し商店街活性化に向けたワークショップ等の実施(2回) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>地元住民の参画による商店街活性化と情報発信の強化 ⇒関係機関と連携した仕組みづくりとフェイスブックの活用</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>滞在型、体験型観光の推進</p> <p>■No. 38 高幡地域における広域観光の推進(高幡地域全域)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高幡広域市町村圏事務組合(高幡広域観光推進本部) 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>主要観光施設入込客数：372,000人 宿泊数：40,000人</p> <p>[H26 到達点]</p> <p>主要観光施設入込客数：367,370人 宿泊数：39,421人</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>—</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主要観光施設入込客数(6月末)：64,061人 (前年度比：73.5%) ・宿泊数(6月末)：8,604人(前年度比：88.8%) ・高幡広域観光推進本部会の開催(4回) ・講演会の開催(1回) ・県外へのセールス活動(4回) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>効率的な観光情報の集約 ⇒ホームページの作成</p>
<p>■No. 39 須崎市の教育旅行や団体旅行の誘致に向けた体制の整備(須崎市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・須崎市観光協会 ・NPOすさきスポーツクラブ 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>民泊受入世帯数：100世帯 教育旅行受入数：10,000人</p> <p>[H26 到達点]</p> <p>民泊受入世帯数：100世帯 教育旅行受入数：5,000人</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>民泊受入世帯数：100世帯→実績61世帯 教育旅行受入数：5,000人→実績5,176人</p> <p>[取組状況] (7月末実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民泊受入世帯の新規開拓訪問件数：10軒 ・民泊受入世帯数：1軒増加(合計62軒) ・教育旅行等の受入件数：11件 うち民泊受入：1校115人 うち体験受入：1,370人 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>民泊受入世帯の増加 ⇒受入世帯100世帯に向けた営業活動の実施</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■NO. 43 わざわざいこう「海洋堂ホビー館四万十」を核としたミュージアムのまちづくり(四万十町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四万十町 ・(株)海洋堂 ・(株)奇想天外 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>ホビー館の1年間入場者数：50,000人 常勤雇用者数：3人</p> <p>[H26 到達点]</p> <p>ホビー館の1年間入場者数：50,000人 常勤雇用者数：3人</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>ホビー館の1年間入場者数：50,000人→実績 65,395人 常勤雇用者数：3人→実績 3人</p> <p>[取組状況] (7月末)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入館者数 16,990人 対前年比 59.1% のべ入館者数 232,227人 (H23. 7. 9～H26. 7. 31) ・企画展開催 (3回) <ul style="list-style-type: none"> 「昭和の面白コレクション 高橋俊和 ぼくのタイムスリップ展」H26. 3. 21～H26. 6. 16 「漫画コーナー」H26. 3. 21～H27. 3. 31 「松村しのぶ ネイチャーワールド」H26. 7. 5～H26. 9. 1 ・イベントの開催 (8回) ・広報活動 (4回) <ul style="list-style-type: none"> ※海洋堂かっぱ館入場者数 6,874人 (5. 20～7. 19 臨時休館) のべ入場者数 90,176人 (H24. 7. 7～H26. 7. 31) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海洋堂ホビー館を拠点とした滞在型観光の仕組みづくり ⇒観光協会や地元団体等との連携強化

②上記以外で特記すべき取組

取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 14 滞在型市民農園等を活用した四万十町の移住を受け入れやすい風土づくり(四万十町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四万十町 ・営農支援センター四万十(株) 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>施設稼働率：90% 移住者数：15組</p> <p>[H26 到達点]</p> <p>施設稼働率：90% 移住者数：15組</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>施設稼働率：90%→実績 97.4% 移住者数：8組→実績 17組</p>

	<p>[取組状況] (7月末)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ クラインガルテン四万十の入居状況 滞在型 22 棟 うち利用：全棟 日帰型 16 区画 うち利用：15 区画 ・ お試し滞在住宅運営状況 大正中津川：1組、広井：3組 ・ 移住相談窓口の増設（土日、祝日対応） 相談件数 本庁：97件 サテライト：11件 計 108件 ・ 空家調査 8回 ・ 移住実績 8組 12人 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 入居者の移住に繋がる仕組みづくり ⇒地域住民との交流促進、サポート体制の整備
<p>■NO. 26 浦ノ内湾産養殖マダイの販路拡大 (須崎市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高知県漁協深浦支所 ・ 土佐鯛工房 ・ 乙女会 ・ (株) 大東冷蔵 ・ (有) 小島水産 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>販売数量</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 土佐鯛工房：約 8 万尾 ・ 乙女会：約 5.5 万尾 <p>[H26 到達点]</p> <p>販売数量</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 土佐鯛工房：7.5 万尾 ・ 乙女会：5 万尾 <p>[H25 到達点]</p> <p>販売数量</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 土佐鯛工房：7 万尾→実績 7.5 万尾 ・ 乙女会：4.5 万尾→実績 4.5 万尾 <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各グループによる県内・外各地への販促活動 商談会への参加 (2回：高知県内、東京) 県外量販店で直売会開催 (3回：山口 1回、大阪 2回) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ブランド魚 (海援鯛、乙女鯛) の安定した販売先の確保 ⇒積極的な営業活動の実施
<p>■NO. 29 中土佐町地域ブランドの創出と販売 促進 (中土佐町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中土佐町 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>商品販売高 25,000 千円</p> <p>[H26 到達点]</p> <p>商品販売高 14,962 千円</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>—</p>

	<p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「びんび鯉のタタキ」予約販売(7月末) : 126セット 1,037千円 (前年対比:154%) ・「びんび鯉のタタキ」をイベントでPR: 東京1回、大阪1回、岡山1回 計3回 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水産加工場の整備と事業体制の安定化 ⇒漁協等との連携強化
--	--

2 平成26年度産業振興推進総合支援事業費補助金の導入状況(交付決定又は採択事業)

単位:千円

取組	事業概要	総事業費(補助金額)
<p>■No.26 浦ノ内湾産養殖マダイの販路拡大 (須崎市) ※ステップアップ事業(水産振興部対応)</p>	<p>・販促資材作成、販路開拓のための 営業活動の実施</p>	<p>952(442)</p>

3 地域アクションプランの追加、修正、削除(予定)項目

[追加] ■JA土佐くろしおが担う地域農業の活性化(須崎市、中土佐町、津野町)

地域の農業者の作業軽減及び農地の維持等を目的にJA出資農業生産法人による作業受託組織を設立し、効率的な組織運営とコスト削減を図る。

2つの直販所を移転統合、拡充して、地域農産物や地元食材を活かした惣菜、加工品の販売を行い、農業者の所得向上を目指す。

4 県民参画に向けた取組

○産業振興計画シンポジウムのPR、案内(5月)

・須崎市広報誌への掲載

・地域アクションプラン事業者、地域団体(JA、森林組合、商工会議所、観光協会等)、金融機関、民間事業所等への案内

○JA津野山での第2期計画Ver3の説明(4/28)

○土佐MBAへの参加の働きかけ

(株)アースエイド、桐島畑、(株)十和おかみさん市 など

5 相談案件:6件

NO.	相談日	事業種別	相談内容
1	4/12	食品加工	地域原材料を活用した商品開発
2	4/28	水産業	陸上養殖について
3	5/8	食品加工	豚肉の加工事業について
4	5/17	食品加工	桜酒について
5	6/6	農業	直販所の整備について
6	6/14	食品加工	栗の葉の活用について

有望素材シート (26年度) (案)

『地域アクションプラン』検討過程での有望素材の洗い出し

市町村名	須崎市、中土佐町 津野町	素材名	水稲、ミョウガ、キュウリ、シシトウ、インゲン、ニラ、オクラ、花卉、柑橘類、ピワ等
		関連素材	
現状・課題	<p><現状></p> <p>1 個別担い手の確実な減少</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後、農業従事者の高齢化も一段と進行し、リタイア組をカバーする新規個別就農者の確保は実際には困難。(特に水稲栽培) 耕作放棄地はほとんどが水稲で、露地、果樹等の農作物。ハウス面積は、緩やかな減少。(ハウス農家数はやや減少するものの、1経営体の経営面積が増えるとの予測) 農地を維持していく集落営農が十分進まないことに加え、農地集積・利用を担う地域の受け手となる農家も減ってきている。 個々の農家の農地の維持にも限界があり、このままでは生産力が大幅に減退。(JAが行っている事業の利用が減少し、求心力低下は避けられない。) <p>2 農産物直販所の売上の減少</p> <ul style="list-style-type: none"> 管内でJAが関係する農産物直販所は、「くろしお市」「みのり市」「かわうそ市」「あさぎり市」がある。(H25年度：出荷会員数合計は346名、販売額計232百万円) そのうち「くろしお市」と「みのり市」は、生産者が主体となって経営されており、他店との競合、出荷者の高齢化やPOSシステム未整備(みのり市)等の問題があり、出荷会員の運営参加の負担が増加、会員数の減少でピーク時の約半分の売上である。(H25年度2店計：出荷会員数合計は154名、販売額計95百万円) 2店舗は、経営の改善が必要であるが、資金面や設備、敷地スペース等の制約があり、また、個々の施設を改修して単独で経営することは非常に厳しい。 JA本所(大間)移転。(跡地の活用について検討する中、当地域は、サラリーマンの屋敷需要、独身高齢者への惣菜販売、大間駅利用者(主に学生)等の需要が見込まれる立地であることから、JAが運営する直販所を設置し、地元食材を活かした惣菜、加工品販売による農業者の所得向上や地域に貢献できる取組が望まれている。) 		
	<p><課題></p> <p>1 農地の保全を図るための仕組みづくり</p> <p>2 農業者を元気にさせる農産物直販施設の改善 地域産物を活かした新たな惣菜・加工品づくりによる農業者の所得向上</p>		
方今向後性の	<p>1 家族経営・共同組織(集落営農・受託組織等)を補完する、経営の持続性のある新たな法人の設置 JA出資農業生産法人の作業受託による農業者の作業軽減、農地維持及び共同利用施設(育苗・施設等)の効率的な運営</p> <p>2 農産物直販所、農家レストラン(加工施設)設置による販売施設の充実による農業者の所得向上 地域食材を中心とした惣菜等の販売と施設内飲食コーナー設置による地域住民等の利用しやすい環境の提供による購入機会の創出</p>		

『有望素材』を活かした具体的な取り組み(案)



『地域アクションプラン』における具体的な取り組み案

項目	取り組み名	JA土佐くろしおが担う地域農業の活性化				
	関係市町村名	須崎市、中土佐町、津野町				
事業の概要	<p>1 JA出資農業生産法人の農作業受託等による地域の農業者の作業軽減及び農地の維持 共同育苗施設の運営体制の整備、農作業受託体制の円滑化に向けた機械・設備の整備、地域の農地を活用した農業経営の実施</p> <p>2 地域素材を活用した直販所、農家レストラン(加工施設)等の運営による農業所得の向上及び地域の活性化 本所跡地等を活用し、農産物(野菜、果実)の直販コーナーの拡大と地域食材を活用した惣菜の販売など機能の拡充に必要な直販所・農家レストラン(加工施設等)の施設整備を行う。</p>					
事業主体等	JA土佐くろしお					
	【関係機関】 須崎市、中土佐町、津野町					
主な内容・スケジュール	取組手順	事業実施【H26】	1年後【H27】	2年後【H28】	3年後【H29】	4年後【H30以降】
	JA出資農業生産法人の設立	<ul style="list-style-type: none"> 事業計画の作成 関係機関との調整 施設・機械整備の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 法人設立 水稲作業受託開始 機械の整備 育苗施設の効率化検討 人材育成(オペレーターの確保) 	<ul style="list-style-type: none"> 水稲作業受託 機械の整備 育苗施設の整備 人材育成 	<ul style="list-style-type: none"> 水稲作業受託 人材育成 	→
	直販所・加工施設の整備	<ul style="list-style-type: none"> 収益調査等による店舗規模、戦略の検討 事業計画の作成 関係機関との調整 	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関等の連携 会員数増加への動員 人材育成(接客、加工等) 施設整備 	<ul style="list-style-type: none"> 人材育成 販売促進 		→
指標・目標	項目	事業実施【H26】	1年後【H27】	2年後【H28】	3年後【H29】	4年後【H30以降】
	雇用数の増					
	【設定根拠】	【推計の考え方】				
仕分		【考え方】				
総事業費等	総事業費(内訳国：)	千円	(うち26年度)		千円	
		県： 千円	市町村： 千円	その他： 円		
	想定する支援事業(補助金名称、人的支援の内容、その他)	国： 県：高知県産業振興推進総合支援事業 人的支援：				
		その他：				
備考						

追加項目(案)

【高幡地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
<p>JA土佐くろしおが担う地域農業の活性化</p> <p>【須崎市、中土佐町、津野町】</p>	<p>JA出資農業生産法人を設立し、農作業受託等による地域の農業者の作業軽減及び農地の維持等を図る。</p> <p>また、「くろしお市」「みのり市」の2つの直販所を移転統合、拡充して、地域農産物や地元食材を活かした惣菜、加工品の販売を行い、農業者の所得向上を目指す。</p>	<p>JA土佐くろしお</p>			<p>◆JA出資農業生産法人の設立及び施設・機械等の整備</p> <p>◆農産物直販所の整備</p>

第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
		JA出資農業生産法人の 設立 実施計画の作成	JA出資農業 生産法人設立	機械の整備、人材育成、育苗施設等の改 修等による作業受託面積拡大	 新たな作業受託組織設立 (H25:0社)	1社
		農産物直販所の整備 実施計画の作成	施設・機械の整備 人材育成	運営開始、人材育成 販売促進		

幡多地域アクションプランの進捗状況等

H 2 6 . 9 . 1 2

幡 多 地 域 本 部

1 地域アクションプランの上半期の実施状況（総括）

(1) 総評

本年度新たな取組となった4案件を含めたアクションプラン45案件は、当初計画に沿って概ね順調に進捗している。

産業振興推進総合支援事業費補助金の活用においては、7月の審査会で、土佐清水市と黒潮町の2事業者の案件が採択となり、事業規模の拡大や販路の拡大に向けて取り組むこととしている。

農業分野の取組でも、三原村ではユズの産地化の促進に向けて、新たに選果・搾汁・加工施設の整備を予定しており、8月の審査会に提案し、承認を受けた。

観光分野では、「はた博」で関係が強化された連携効果を発揮できるよう幡多広域観光協議会に民間事業者が参画する広域観光推進部会を設置し、民間事業者の意見を反映する体制づくりに取り組んでいる。また、「はた博」で造成した主要なイベントの開催や体験プログラムの磨き上げを行い、観光のブランド化に取り組むこととしている。食の分野では、土佐清水市の清水サバ、四万十市の「中村の塩タタキ」、宿毛市のきびなご丼の3品を幡多の観光商品として売り込んでいく体制作りに取り組んでいる。

(2) 具体的な動き

①地域の重点的な動き

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>安定した農業経営体づくりと地域に根ざした有望品目づくり</p> <p>■No.1 水稲と露地野菜を基幹とした水田農業の担い手育成（幡多地域全域）</p> <p>《事業主体》</p> <p>・JA高知はた</p>	<p>[目標 (H27)]</p> <p>・販売額 1,500 万円以上の農業経営体 10 経営体</p> <p>[H26 到達点]</p> <p>・5 経営体</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>・3 経営体 → 実績 4 経営体</p> <p>[取組状況]</p> <p>・大規模志向農家ネットワーク 16 名構築</p> <p>・ブロックリー大規模経営に向けた研修会の開催 (4/14、6/18)</p> <p>[課題と今後の対応]</p> <p>ネットワークを活かした大規模農家の育成 ⇒品目別経営モデル、農家作業管理システムの周知 農地集積と雇用確保</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 2 洋ランのブランド確立・流通促進事業 (宿毛市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 蘭遊六志会 ・ 石田蘭園 	<p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 売上高 128,300 千円 <p>[H26 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 売上高 105,900 千円 <p>[H25 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 売上高 108,600 千円 → 実績 69,193 千円 <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 産振補助金 <ul style="list-style-type: none"> → 集出荷施設完成 (H26. 2. 26) ・ 蘭遊六志会 (6 名) <ul style="list-style-type: none"> → 六志会メンバーから仕入れた素材を集出荷施設にて仕立て、西武・そごうへ 100 鉢出荷 (100 万円) → 海外輸出について地産地消・外商課、貿易協会と情報交換 (6/12) → 上海、ミャンマーでの営業活動 (7/2~12) → ネット販売のHPを作成。9 月から運用開始。 → 洋蘭商談会@大阪 2014 を 11/4 に開催予定。産地・流通支援課と情報交換 (6/20) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>販売促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 市場や消費者のニーズに応じた新商品の開発 ⇒ 集出荷施設での出荷可能量の検討及び体制づくり
<p>■No. 5 三原村農業公社を核とした農業支援システムの構築 (三原村)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (公財) 三原村農業公社 ・ 三原村 ・ J A 高知はた 	<p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 栽培面積 50ha、果実生産量 400t、販売金額 (農家手取額) 27,500 千円 <p>[H26 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 栽培面積 37ha、果実生産量 120t、販売金額 (農家手取額) 18,000 千円 <p>[H25 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 栽培面積 37ha → 実績 32.5ha、果実生産量 120t → 実績 115.8t、販売金額 (農家手取額) → 実績 17,363 千円 <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ふるさと雇用事業 6 名、起業支援型事業 3 名、地域人づくり事業 10 名雇用 (公社職員 H25:14 名→H26:21 名) ・ 酢玉・加工ユズ販路開拓 (H25 1 社 105t) ・ ユズの青果出荷率向上対策として共同選果施設の導入検討

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 21 直七の生産、加工、販売の促進(宿毛市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直七生産組合 ・直七の里(株) ・直七酒販(株) 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修施設整備で後継者育成 <ul style="list-style-type: none"> →県立農業大学校、農業振興センターと連携開始 ・農業公社が販路を開拓 <ul style="list-style-type: none"> →JAに共同出荷(連携)を打診 →三原村全域の販売許可を受ける ・ユズ加工品(新商品「ユズゆべし」)のPR活動(県内・東京・大阪・名古屋)(5/31、6/11、27) ・ユズの青果率向上に向けた栽培技術講習(4/28、5/28、6/27) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>ユズ産地拡大と後継者育成</p> <ul style="list-style-type: none"> →青果率向上(現状:9.5%→目標:農業公社出荷30%) <p>獣害(シカ、ウサギ等)対策の規模拡大</p> <p>共同選果機、搾汁・加工施設の導入(H26~27整備予定)</p> <ul style="list-style-type: none"> →産振補助金8月審査会で承認。 <p>目標(H27)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直七果実生産量200t <p>[H26到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直七果実生産量150t <p>[H25到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直七果実生産量70t → 実績103t <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと雇用事業で1名を雇用 ・取引企業者数約100社(商談中含む) ・地場産品商談会への参加(5/20) ・CGCグループ関西地区会長・社長会での商品提案 <ul style="list-style-type: none"> →CGC東海、北陸、関西、中国での販売決定(ポン酢) ・大手物流会社2社との取引決定 ・セブンアイホールディングスの夏ギフトでポン酢4本セットの売出し決定(継続) ・551蓬萊(豚まん)でのポン酢採用決定(通年) ・土佐清水市の小夏農家の搾汁の受注 ・料理マスターズブランド認定コンテストへの参加(6/8) ・浜幸のサマースイーツフェアで新作「直七の涼ぜりい」を販売(6/12~15) <ul style="list-style-type: none"> →好評により、浜幸の秋フェアで新作を販売予定 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>新商品の開発や他社とのコラボレーション企画の検討</p> <p>直七産地化のための関係機関との連携</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 28 栗からはじまる西土佐地産外商プロジェクト(四万十市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)しまんと美野里 ・四万十川を良くする会 ・四万十市 ・西土佐商工会 	<p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栗加工品製造量 8t ・原材料(生栗)の仕入量 12t <p>[H26 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栗加工品製造量 6t ・原材料(生栗)の仕入量 10t <p>[H25 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栗加工品製造量 6t → 実績 3.1t ・原材料(生栗)の仕入量 10t → 実績 7.1t <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネット活用による販路開拓(eコマース)に向けて全国商工会連合会の小規模事業者持続化補助事業を導入 ・地域産品商談会への参加及び県内業者への営業活動 ・起業支援型地域雇用創造事業により1名(～11/30)及びふるさと雇用により1名を継続雇用 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>原材料の確保</p> <p>⇒集荷の継続実施</p> <p>出荷まで至っていない栗の発掘(新規開拓、栽培管理、収穫支援等)</p> <p>商品ラインナップの見直し</p> <p>⇒利益率の高い商品の絞り込み</p>
<p>森林資源の活用促進</p> <p>■No. 9 森の工場・間伐の推進(幡多地域全域)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森の工場の認定を受けた事業体 	<p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森の工場の木材生産量 20,000 m³ <p>[H26 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森の工場の木材生産量 18,000 m³ <p>[H25 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森の工場の木材生産量 20,000 m³ → 実績 11,850 m³ <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森の工場を新たに3工場設立 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>基盤整備推進による木材生産性の向上</p> <p>⇒作業道路整備、高性能機械の導入</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 10 「四万十の家」と地域産ヒノキの販売の推進（四万十市）</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 四万十市 	<p>[目標 (H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「四万十の家」 着工戸数 30 戸 <p>[H26 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「四万十の家」 着工戸数 25 戸 <p>[H25 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「四万十の家」 着工戸数 25 戸 → 実績 38 戸 <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 四万十市産材利用促進事業の継続実施（受付件数 7 件） ・ 四万十市広報誌で「四万十の家」を掲載 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>四万十ヒノキのPR強化</p> <p>⇒四万十ヒノキブランド化推進協議会会員市町村間の連携の推進及び各種イベントへの参加</p>
<p>■No. 11 町内の持続可能な山林資源を活用した製炭事業（大月町）</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大月町備長炭生産組合 	<p>[目標 (H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 備長炭販売量 240t、生産窯 20 基、生産者 20 人 <p>[H26 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 備長炭販売量 129t、生産窯 7 基、生産者 8 人 <p>[H25 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 備長炭販売量 107t → 実績 79.8t 生産窯 9 基 → 実績 7 基 生産者 9 人 → 実績 8 人 <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ふるさと雇用事業で 1 名を雇用 ・ 製炭窯の稼働率及び生産性の向上 <ul style="list-style-type: none"> →組合員 8 人で全窯（7 基）のフル稼働 ・ 四国、関西にて直売等セールス活動（6 月、10 月、2 月） ・ 大月町臨時議会（7/10）にて窯 3 基分の補助決定（町単） <ul style="list-style-type: none"> →窯 3 基の建設開始（7 月末～） <p>[課題と今後の対応]</p> <p>組織体制の強化</p> <p>⇒大月町備長炭生産組合の法人化</p> <p>販路拡大</p> <p>⇒セールス活動日数の増加</p> <p>窯増設による原木確保</p> <p>⇒地元伐採業者との安定した原木供給の契約</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>安定した漁業生産を目指す取組</p> <p>■No. 15 宿毛近海の水産資源を活用した地域ブランド確立・推進事業(宿毛市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)沖の島水産 	<p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・売上高 6,867 万円 <p>[H26 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・売上高 6,006 万円 <p>[H25 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・売上高 5,000 万円 → 実績(見込) 5,374 万円 <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月別売上高 <ul style="list-style-type: none"> →H26.4月: 12,142 千円(前年同月比: 134%) →H26.5月: 10,418 千円(前年同月比: 531%) →H26.6月: 12,311 千円(前年同月比: 245%) ・「目指せ!弥太郎商人塾」でH26受講中 ・産振補助金 <ul style="list-style-type: none"> →水産加工施設完成(6/2) →販路開拓 →ホームページの開設 ・県外催事等への出展による販促活動 <ul style="list-style-type: none"> →居酒屋産業展(7/29~31)(東京) →東京シーフードショー(8/20~22)(東京) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>人材育成 ⇒「目指せ!弥太郎商人塾」でH26受講中</p> <p>商品開発 ⇒市場、消費者ニーズの調査</p>
<p>■No. 20 大月町種苗生産施設活用による県内産養殖種苗のシェア拡大(大月町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大月町 ・(株)山崎技研 	<p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マダイ 100 万尾、シマアジ 50 万尾 <p>[H26 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マダイ 40 万尾、シマアジ 30 万尾 <p>[H25 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マダイ 40 万尾 → 実績 0 尾(魚病による) シマアジ 30 万尾 → 実績 30 万尾 <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雇用の創出 10 名(正規 4 名、パート 6 名: H26.6 月時点) ・カンパチの受精卵 6,748 千粒採取(4/13~5/7) <ul style="list-style-type: none"> →古満目: 1,996 千粒を飼育水槽へ収容、61.6 千尾が生存(生存率 3%)、38 千尾を沖出し →浦ノ内: 4,752 千粒、80 千尾が生存(生存率 1.7%) ・イサキ放流種苗生産

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>No. 35 カツオ文化のまちづくり事業(黒潮町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒潮町商工会 ・黒潮町 ・高知県漁協 	<p>→親尾候補 103 尾を陸上水槽に収容</p> <p>→80～250g の受精卵の産卵(6/3 時点)</p> <p>→1.4 百万粒の受精卵を水槽へ収容、300 千尾が生存。8 月に沖出し(平均全長 70mm)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノコギリガザミ <ul style="list-style-type: none"> →浦戸湾放流用種苗のノコギリガザミ(エガニ)の生産を開始(6/24) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>マダイ種苗の魚病発生</p> <p>⇒防除の確立に向け感染時期や感染源の解明に取組み中(事業主体)</p> <p>⇒難治癒疾病協議会へ参加し、全国の試験研究機関と研究成果や疫学的な情報交換を実施。(県)</p> <p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流人口 18,000 人 <p>[H26 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流人口 17,000 人 <p>[H25 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流人口 18,000 人 → 実績 22,000 人 <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒潮一番館の休館日(火曜日)を利用した「びりびり市」の開催継続(7月末 14回、約 240 人来場) ・土佐さがのもどりカツオ祭実行委員会の開催(3回) ・道の駅「なぶら土佐佐賀」との連携協議(月 1 回開催) ・交流人口(6月末): 3,900 人(前年同期: 4,159 人 94%) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>カツオ文化のまち佐賀の周知</p> <p>⇒メディアを活用したPRや町内外イベントでのPR活動</p> <p>道の駅との連携</p> <p>⇒道の駅と定期的に協議を行い、小鉢商品の提供やタタキの実演販売等を実施</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>地域産物を活用した6次産業の振興</p> <p>■No. 4 6次産業化推進による地域農業振興事業(大月町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)大月農園 	<p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・売上高: 35,000千円 <p>[H26到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・売上高: 30,000千円 <p>[H25到達点]</p> <p>—</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急雇用事業で2名を雇用 ・生姜(大生姜+サンゴ生姜)植付(2反弱)(4~5月) ・ケール: 夏作用(約2ha)をハウス育苗植付中(春作は刈取、加工済み) ・H25売上高(H25.6月~H26.5月) 18,204千円 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>複合経営の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> →母体事業である建設業とバランスの取れた経営 →農作物の生産量の安定と品質向上 →加工品(生姜ドレッシング等)の販売促進
<p>■No. 12 地域活性化のための魚加工・販売体制の強化・推進(宿毛市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すくも湾漁業協同組合 	<p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冷凍フィレ 30t、冷凍キピナゴ 15t <p>[H26到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冷凍フィレ 36.6t、冷凍キピナゴ 10t <p>[H25到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冷凍フィレ 19t → 実績 20t ・冷凍キピナゴ 10t → 実績 1.7t <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと雇用事業で4名を雇用(加工3名、輸送1名) ・取引先46社(東京の学校給食含む) <ul style="list-style-type: none"> →横須賀学校給食に23千食1,600千円のシラ切身を納入 ・高知県内外の病院、学校給食用に継続して営業を実施 ・日々の「生産高-仕入額」について漁協の関係職員が情報共有できるように改善(目標60千円/日)(6月から) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>収益性の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ⇒主力商品であるキピナゴバラ凍結の安定的な生産と作業効率の向上 ⇒利益率の高い商品の開発及び販路開拓

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 13 宿毛湾を中心とする地域水産物の流通・加工体制の推進(宿毛市)</p> <p>《事業主体》</p> <p>・(株)ピアサーティー</p>	<p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・売上高 2.7 億円 <p>[H26 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・売上高 2.2 億円 <p>[H25 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・売上高 2.0 億円 → 実績 2.02 億円 <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月別売上高 <ul style="list-style-type: none"> →H26.4月: 21,599 千円(前年同月比: 122%) →H26.5月: 18,145 千円(前年同月比: 116%) →H26.6月: 19,049 千円(前年同月比: 149%) ・鮮魚加工商品(冷凍フィレ等)を「五穀」系列チェーン店に出荷 ・沖の島水産(宿毛市)と連携し、「五穀」系列チェーン店での「春の鯛祭」「鯉祭」で宿毛産魚類のPR実施。 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>新商品の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> →アドバイザーの導入 <p>衛生面管理の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> →HACCPの取得等 <p>生産及び販路拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> →冷蔵庫の確保及び新施設整備の検討
<p>■No. 14 民間企業との連携による水産物の販路拡大(宿毛市・大月町)</p> <p>《事業主体》</p> <p>・すくも湾漁業協同組合</p>	<p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原魚供給高 1.19 億円 <p>[H26 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原魚供給高 1.19 億円 <p>[H25 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原魚供給高 1.03 億円 → 実績 0.21 億円 <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雇用の創出(H26.6: 9名)と雇用募集中(3名) ・鮮魚を使用した加工(惣菜)商品の製造出荷が順調 ・水産物地産外商推進事業費補助金活用 <ul style="list-style-type: none"> →養殖プリフィレ加工に関する先進地視察(熊本県天草: 4/25~26) →養殖プリフィレ試験加工開始(5月) <ul style="list-style-type: none"> (菌検査、残留抗生剤、放射能検査等も実施) ・高知県食品高度衛生管理手法認定申請(1商品) <ul style="list-style-type: none"> →26年1月取得 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>原魚の安定確保</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 21 直七の生産、加工、販売の促進(宿毛市)(再掲)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直七生産組合 ・直七の里(株) ・直七酒販(株) 	<p>⇒すくも湾漁協の冷凍施設を活用し、適宜冷凍保管。 養殖ブリフィレ加工の体制強化</p> <p>⇒機器整備による加工能力の向上(水産基盤整備事業で対応予定)</p> <p>⇒人員確保(ハローワークで募集中)</p> <p>目標(H27)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直七果実生産量 200t <p>[H26 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直七果実生産量 150t <p>[H25 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直七果実生産量 70t → 実績 103t <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと雇用事業で1名を雇用 ・取引企業者数約100社(商談中含む) ・地場産品商談会への参加(5/20) ・CGCグループ関西地区会長・社長会での商品提案。 →CGC東海、北陸、関西、中国での販売決定(ポン酢) ・大手物流会社2社との取引決定 ・セブンアイホールディングスの夏ギフトでポン酢4本セットの売出し決定(継続) ・551蓬莱(豚まん)でのポン酢採用決定(通年) ・土佐清水市の小夏農家の搾汁の受注 ・料理マスターズブランド認定コンテストへの参加(6/8) ・浜幸のサマースイーツフェアで新作「直七の涼ぜりい」を販売(6/12~15) →好評により、浜幸の秋フェアで新作を販売予定 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>新商品の開発や他社とのコラボレーション企画の検討 直七産地化のための関係機関との連携</p>
<p>■No. 22 地域の素材を活用した「おいしいもの」づくり(宿毛市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幡多美味工房、地域事業者等 	<p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新商品の開発8アイテム、取引先数5社 <p>[H26 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新商品の開発17アイテム、取引先数4社 <p>[H25 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新商品の開発10アイテム → 実績 17アイテム <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雇用の創出 →自社雇用2名 ・新商品の開発(H26.4月~7月):3アイテム

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 24 地域資源を統括したプログラム構築によるしみずの元気再生事業(土佐清水市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株) 土佐清水元気プロジェクト ・土佐清水市 	<ul style="list-style-type: none"> ・オリジナルの商品(野菜ジャム:なす、かぼちゃ、トマト、キビナゴの燻製、ケンポロー豚の肉マン、ケンポロー豚串)を自社販売ルートで販売中 ・OEM生産 <ul style="list-style-type: none"> →ゆずの塩だれ(JA高知はた) ・幡多地域の生産者と連携した新商品 <ul style="list-style-type: none"> →プリン(国産百花ハチミツを使用) →土佐ジローミンチ肉 ・ペットショップからの商品開発依頼 <ul style="list-style-type: none"> →ペットフード(はちきん地鶏を使用) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>加工施設の新設と加工機械の導入・増設 きびなごバラ凍結の販売 ⇒宿毛市が推進する「きびなご井」事業との連携による、販売促進</p> <p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雇用者(臨時・パートを含む)70人 ・地元農産物等の活用100t ・売上額2.5億円 <p>[H26 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雇用者(臨時・パートを含む)56人 ・地元農産物等の活用85t ・売上額2億円 <p>[H25 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雇用者(臨時・パートを含む)56人→実績56人 ・地元農産物等の活用120t → 実績75t ・売上額1.8億円 → 実績1.28億円 <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・催事等での販促PR活動(東京2回、県内10回) ・商談会等への参加(東京2回、高知1回) ・OEM生産の継続→11社、12アイテム ・下ノ加江冷凍施設での一次加工体制の構築に着手 ・雇用者(臨時・パートを含む)(7月末実績)57人 ・地元農産物等の活用(7月末実績)40t ・売上額(7月末実績)0.46億円 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>業務用(一次加工)商品の販売拡大 ⇒一次加工処理施設の整備による作業効率の向上、生産量の拡大 水産事業者との連携</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 25 土佐清水発! 宗田節が良くでる加工施設整備・販路拡大事業(土佐清水市)</p> <p>《事業主体》</p> <p>・(株) ウェルカムジョン万カンパニー</p>	<p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・売上高 36,000 千円 <p>[H26 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・売上高 30,000 千円 <p>[H25 到達点]</p> <p>—</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営戦略及び衛生管理面の強化に向けて、産業振興アドバイザーを招聘(5/14、5/23、7/18) ・商談会等への参加(県内3回) ・催事等での販促PR活動(東京1回、徳島1回、県内3回) ・産振補助金7月審査会で採択(加工施設の新築等) ・売上高(1~7月末実績) 22,000 千円 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>1 アイテムに頼りきった商品構成 ⇒新商品の開発</p> <p>生産量の拡大及び衛生管理面の強化 ⇒加工施設の規模拡大(産振補助金を導入)</p>
<p>■No. 26 地元農産物を使った商品開発事業(四万十市)</p> <p>《事業主体》</p> <p>・四万十市</p>	<p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新商品の開発 15 アイテム <p>[H26 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新商品の開発 13 アイテム <p>[H25 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新商品の開発 13 アイテム → 実績 12 アイテム <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユズ商品(JA高知はた)、ぶしゅかん商品(チームぶしゅかん)、かりんとう(LLPしまんと)、ギョーザ(土佐四万十本舗)の4プロジェクトを推進 ・各種イベントでの販促活動(6回) ・商談会への出展(1回) ・検討チーム会の開催(チームぶしゅかん、LLPしまんと) ・四万十市農商工等連携プロジェクト事業報告会(7/24) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>販路の拡大 ⇒新商品の開発、各種イベント等でのPR</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 28 栗からはじまる西土佐地産外商プロジェクト(四万十市)(再掲)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)しまんと美野里 ・四万十川を良くする会 ・四万十市 ・西土佐商工会 	<p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栗加工品製造量 8t ・原材料(生栗)の仕入量 12t <p>[H26 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栗加工品製造量 6t ・原材料(生栗)の仕入量 10t <p>[H25 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栗加工品製造量 6t → 実績 3.1t ・原材料(生栗)の仕入量 10t → 実績 7.1t <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネット活用による販路開拓(eコマース)に向けて全国商工会連合会の小規模事業者持続化補助事業を導入 ・地域産品商談会への参加及び県内業者への営業活動 ・起業支援型地域雇用創造事業により1名(～11/30)及びふるさと雇用により1名を継続雇用 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>原材料の確保</p> <p>⇒集荷の継続実施</p> <p>出荷まで至っていない栗の発掘(新規開拓、栽培管理、収穫支援等)</p> <p>商品ラインナップの見直し</p> <p>⇒利益率の高い商品の絞り込み</p>
<p>■No. 37 水産物加工施設整備事業(黒潮町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(有)土佐佐賀産直出荷組合 	<p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規雇用 5名 <p>[H26 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規雇用 1名 <p>[H25 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規雇用 3名 → 実績 新規雇用 1名 <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営戦略及び衛生管理面の強化に向けて産業振興アドバイザーを招聘(5/8、5/29、7/17) ・「きびなごフィレ」がテレビ番組(6月放送旅サラダ)で取り上げられたことにより注文が殺到(約1,200個) ・こうち生協でのカタログ販売(昨年からは毎月2～3アイテム掲載) ・かたくちいわしの魚醤の仕込み(5月) ・良品工房・オカッテ(都内)にて産直フェアの開催(7/3～7/9):自社商品を使用したランチを提供しながら、販促活動の実施。

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 38 防災関連新産業創造事業(黒潮町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒潮町 ・(株)黒潮町缶詰製作所 	<ul style="list-style-type: none"> ・(株)五味商店開催商談会へ参加し、商談成立2件(7/24) ・産振補助金7月審査会で採択(加工施設の新築) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>生産量の拡大及び衛生管理面の強化 ⇒加工施設の規模拡大(産振補助金を導入)</p> <p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・売上高74,000千円 <p>[H26到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・売上高32,400千円 <p>[H25到達点]</p> <p>—</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災関連産業交流会に加入(5/1) ・缶詰工場が4月上旬に稼働開始し試作品を製作中 ・缶詰レシピ確定(味付け、量等)・6種類 ・缶詰工場の作業手順書、管理シートを作成し運営 ・10社と商談中 ・日本缶詰協会主催の基礎技術講習を2名受講 ・食物アレルギーコントロールプログラム研修の実施(4/10～11) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>商品の完成及び人材育成 ⇒レシピが確定している商品から順次、ラベルデザインや賞味期限、商品価格を決定 研修の充実 防災関連製品の認定及び販路開拓</p>
<p>地域再生への総合的な取組</p> <p>■No. 23 土佐清水市地域再生計画(大岐地区等の開発計画)(土佐清水市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土佐食(株) ・土佐清水市 	<p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雇用者(臨時・パートを含む)200人 ・地元水産物の活用2,800t ・売上額15億円 <p>[H26到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雇用者(臨時・パートを含む)195人 ・地元水産物の活用3,500t ・売上額17億円 <p>[H25到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雇用者(臨時・パートを含む)200人 → 実績195人 ・地元水産物の活用3,300t → 実績3,500t ・売上額17億円 → 実績16.8億円

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 30 西土佐拠点ビジネス推進事業(売り出せ西土佐プロジェクト)(四万十市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 四万十市 ・ 西土佐商工会 ・ 地域事業者等 	<p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 展示会等への参加(台湾1回、東京1回、広島1回、仙台1回、県内1回) ・ 5/16に道の駅「めじかの里 土佐清水」の指定管理者となり、7/19リニューアルオープン ・ 雇用者(臨時・パートを含む)(7月末実績)197人 ・ 地元水産物の活用(7月末実績)1,000t <p>[課題と今後の対応]</p> <p>食品の更なる販路拡大 ⇒新商品の開発及び販促活動</p> <p>原魚の確保 ⇒漁協、加工組合、加工業者、行政が一体となった対策の検討</p> <p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 商品数 14商品 ・ 雇用者数 正規2人+α <p>[H26 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 商品数 21商品 ・ 雇用者数 正規2人 <p>[H25 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 商品数 15商品 → 実績 18商品 ・ 雇用者数 正規2人 → 実績 2人 <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ふるさと雇用事業で2名の雇用継続(既存直販市) ・ 41℃プロジェクト(全国商工会連合会事業を活用した昨年からの継続事業)として、熊谷市と多治見市と連携した「アツいまち対決」を実施(7月~9月) ・ 地域人づくり事業を導入し、地域のマネジメントが出来る人材を確保 ・ 西土佐ふるさと市組合(道の駅の指定管理予定団体)の総会で法人化を承認 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>道の駅の運営体制の構築 ⇒道の駅整備検討会、幹事会で検討</p> <p>地域をマネジメントできる人材の確保</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 31 拠点ビジネスの推進(大月町まるごと販売事業)(大月町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(一財)大月町ふるさと振興公社 	<p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・売上額 2.5 億円 <p>[H26 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・売上額 2.05 億円 <p>[H25 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・売上額 2.0 億円 → 実績 1.82 億円 <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雇用の創出(移住関連1名、情報発信1名の計2名) ・道の駅の販売金額 <ul style="list-style-type: none"> →直販所 H25.4月:1,156万円;H26.4月:1,252万円 H25.5月:1,313万円;H26.5月:1,415万円 H25.6月:941万円;H26.6月:1,433万円 →売店 H25.4月:206万円;H26.4月:180万円 H25.5月:298万円;H26.5月:318万円 H25.6月:156万円;H26.6月:160万円 ・つつじまつりの実施(4/27) ・高知家移住笑談会への参加(5/11) ・高知暮らしフェアへの参加(6/21 東京、6/29 大阪) ・産振アドバイザーを導入し新商品開発の検討 <ul style="list-style-type: none"> →第1回(7/17~18) ・移住体験ツアーの実施(7/5~6) ・売店及び2階レストランにWifi設置(7/28) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>経営の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ⇒産振アドバイザー(社員教育、店舗運営)の指導を受け、経営の改善を図る <p>情報発信の強化と販路開拓</p> <ul style="list-style-type: none"> ⇒大月町出身者など、大月町にゆかりがある方々へのアプローチを図る
<p>■No. 36 佐賀地区の地域資源を活用した拠点ビジネスの推進(黒潮町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)なぶら土佐佐賀 ・黒潮町 	<p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雇用者数 正規5名、フル・パート14名 ・売上額 160,000 千円 <p>[H26 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雇用者数 正規5名、パート14名 ・売上額 120,000 千円 <p>[H25 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雇用者数 パート10名 → 実績 正規5名、パート14名

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅オープン(4/14) ・オープンからのレジ通過者数(7月末):61,321人 ・オープンからの売上実績(7月末):6,780万円 ・商工会事業活用によるアドバイザーの導入 ・地域イベント(5/3 カツオと鯉のぼりの川渡しフェスティバル)との連携・・・フェスティバル会場での道の駅のアイスクリーム券の配布、地域が作成した紙の鯉のぼりを道の駅で販売 ・黒潮一番館との連携協議(月1回開催) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>直販スペースの改善、フードコートメニューの充実 ⇒アドバイザーの導入により改善</p>
<p>滞在型・体験型観光の推進</p> <p>■No. 39 幡多広域における滞在型・体験型観光の推進(幡多地域全域)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(一社) 幡多広域観光協議会 	<p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育旅行受入数4,000人 ・一般旅行受入数30,000人 <p>[H26 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育旅行受入数1,000人 ・一般旅行受入数5,000人 <p>[H25 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育旅行受入数1,000人 → 実績972人 ・一般旅行受入数5,000人 → 実績5,948人 <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育旅行の受入(7月末現在:7校 265人) ・楽しまんとはた旅のPR→ガイドブック70,000部を作成し、道の駅やSA等約350箇所に配布 ・観光商品のブランド化に向けて、JTB職員をアドバイザーとして招へいし、現地視察、市町村プレゼンを実施(6/9~10)→観光商品の洗い出し ・食のブランド化(塩タタキ(四万十市)、清水サバ(土佐清水市)、キビナゴ丼(宿毛市))に向けた関係機関協議 ・藤沢アドバイザーによる民泊研修を開催し(6/9~10)、新たに19件が登録 ・第1回広域観光推進部会を7/16に開催 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>幡多広域観光協議会の体制強化 ⇒民間団体、事業者が参画する仕組みの構築 ⇒運営資金を確保するために、法人化後の総括、今後の事業計画を策定し、市町村へ協力依頼</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 40 竜串観光再発見事業 (土佐清水市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土佐清水市 ・土佐清水市観光協会 ・NPO竜串観光振興会 ・竜串地区 ・竜串自然再生協議会 	<p>[目標 (H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入込客数 12.5 万人 <p>[H26 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入込客数 11.5 万人 <p>[H25 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入込客数 11 万人 → 実績 10.2 万人 <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアガイドによる竜串・見残し観光実施中 ・足摺海洋館あり方検討委員会 (4/16、5/17、7/24) において、検討内容の最終とりまとめ ・竜串地区のにぎわいづくり・ファンづくりとして、竜串桜浜海水浴場においてイベント開催 (7/6、8/12) ・観光施設の快適性向上のため、トイレ等の改修に着手 (県補助金活用) ・ふるさと雇用事業で1名の雇用継続 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>地域資源を活かした具体的な戦略展開 ⇒地区全体の将来ビジョン創造、受入体制の充実 はた博で造成した体験プログラムの磨き上げ</p>
<p>■No. 42 足摺・竜串を中心としたジオパークへの取り組みによる交流人口の拡大 (土佐清水市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土佐清水市 ・(仮称) 足摺・竜串ジオパーク推進協議会 	<p>[目標 (H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジオパークガイド登録者数 10 人 <p>[H26 到達点]</p> <p>—</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>—</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土佐清水市産業振興課内にジオパーク推進係設置 (4/1) ・土佐清水ジオパーク推進準備会設立 (4/17)、第1回推進準備会開催 (6/20) ・土佐清水市内にてジオパーク講演会開催 (4/17) ・日本ジオパークネットワーク準会員加盟 (5/1) ・日本ジオパークネットワーク研修会及び総会への参加 (5/28～5/29) ・市広報誌を活用した住民向け周知活動 (7、8、9月号) ・先進地(認証地)視察(室戸、四国西予) ・市職員等を対象とした庁内連携研修会開催 (8/26)・9/1付けで専門員1名を雇用

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 43 四万十市の地域資源を活かした通年・滞在型観光の推進(四万十市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四万十市観光振興連絡会議 ・奥四万十楽しまんとプロジェクトチーム ・四万十市 	<p>[課題と今後の対応]</p> <p>推進体制の構築、受入体制の整備 ⇒準備会を核とした協議会の立ち上げ、ジオパークの素材(ジオサイト)の選択、地域での勉強会の開催</p> <p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入込客数 120 万人 <p>[H26 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入込客数 120 万人 <p>[H25 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入込客数 - → 実績 126 万人 (指標及び目標の変更) <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四万十花絵巻の開催(桜、藤、つつじ、菖蒲、紫陽花) ・サイクルトレイン四万十号の運行 江川崎～窪川: 4/19～5/25 の土、日、祝 132 人 ・四万十川周遊川バス運行(4/26～5/6) ・予土県境地域連携実行委員会(H26. 3. 27 設立)担当者会(7/31)において、サイクルイベント「2リバービューライド」(9/14(日)開催)の当日の運営体制等について協議 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>通年・滞在型観光に向けた観光商品の開発・ブラッシュアップ ⇒体験メニューのブラッシュアップ 愛媛県との県境連携(予土県境地域連携実行委員会)の強化による周遊の促進</p>
<p>■No. 45 黒潮町の地域資源を活かした体験型観光の推進(黒潮町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NPO砂浜美術館 ・黒潮町 	<p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入込客数 60 万人 <p>[H26 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入込客数 69 万人 <p>[H25 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入込客数 69 万人 → 実績 62.9 万人 <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Tシャツアート展開催(5/3～5/7 20, 217 人) ・大方シーサイドはだしマラソン(5/3 1, 148 人) ・いごっそうアクアスロン大会(7/27 227 人) ・黒潮町観光ネットワーク総会(7/1 21 人) ・民泊受入衛生講習会(5/20 6 人)

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<ul style="list-style-type: none"> ・防災プログラムの磨き上げに向けて観光アドバイザーを招聘(6/21) ・スポーツ合宿、大会の招致(5団体 932人) ・スポーツ合宿等誘致活動(12.団体) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>宿泊観光客の増 ⇒スポーツ大会、合宿の誘致活動の強化</p>

②上記以外で特記すべき取組 特になし

2 平成26年度産業振興推進総合支援事業費補助金の導入状況(交付決定又は採択事業)

単位：千円

取組	事業概要	総事業費(補助金額)
■No. 25 土佐清水発!宗田節が良くでる加工施設整備・販路拡大事業(土佐清水市)	衛生管理面の強化、製造量の拡大に向けた加工場の新築及び販売促進	21,735 (10,062)
■No. 37 水産物加工施設整備事業(黒潮町)	衛生管理面の強化、製造量の拡大に向けた加工場の新築	77,760 (36,000)

3 地域アクションプランの追加、修正、削除(予定)項目

[追加] ■衛生管理強化による干物等水産加工品販路拡大事業(大月町)

宿毛湾産の魚類を活用した干物加工施設を増設し、生産拡大・販売促進に取り組むことで、地域資源の活用促進、雇用の創出につなげていく。

■四万十地域の素材を活かした新たな外商戦略の構築(四万十市)

加工施設を新たに整備し、生産拡大・販売促進を図るとともに、地域商社機能の強化に向けて、四万十市地域の事業者が参画する研究会を立ち上げ、地域製品のブラッシュアップを図る。

[修正] ■「No. 43 四万十市の地域資源を活かした通年・滞在型観光の推進(四万十市)」の事業主体に、「41℃プロジェクト」を追加する。

(理由)平成25年度に発足し、継続して観光推進活動を行うこととなったため。

4 県民参画に向けた取組

- ・幡多地域のパネル展示(6/27~7/11:県庁1階)
- ・幡多信用金庫との包括協定連絡会(4/25)
- ・中村商工会議所役員会で食の観光商品化に向けた取組の概要説明(5/14)
- ・高知県産業振興計画シンポジウム(5/16:四万十市 中央公民館)
- ・宿毛商工会議所、宿毛市、地域本部等できびなご井の観光商品化に向けた協議(6/12)
- ・土佐清水商工会議所、土佐清水市、土佐清水市観光協会、地域本部等で清水サバの観光商品化に向けた協議(7/3)
- ・ハローワーク四万十で産振計画の説明(7/23)

5 相談案件：8件

NO.	相談日	事業種別	相談内容
1	4/2	雇用	共同作業所における専門人材の雇用に関する相談
2	4/11	食品加工	加工場の新設及び店舗開設に関する相談
3	5/28	食品加工	水産加工品の商品開発に関する相談
4	5/28	食品加工	畜産物の食品加工に関する相談
5	6/6	食品加工	農産物の食品加工に関する相談
6	6/10	観光	龍馬パスポート登録に関する相談
7	7/16	食品加工	農産物の食品加工に関する相談
8	8/6	商品販売	地域産品のネット販売に関する相談

追加項目(案)

【幡多地域】

項目	取組の概要	実施地	実施の目的と効果	費用	主な内容
46 衛生管理強化による干物等水産加工品販路拡大事業 【大月町】	衛生管理を強化した加工場の新設や増産に向けた加工機器の導入を行うことにより、従来取引のなかった業務筋・小売業などの販路拡大を図るとともに、個人の休眠顧客等に対し、掘り起こしを行う。原魚調達についても地元商人との連携により多様な食材に対応できる商品ラインアップの拡充を進める。	・土佐大月海産			◆加工生産体制の機能充実(加工施設機器導入) ◆販路開拓

事業計画					実績及び計画		
H24	H25	H26	H27	H28(計)	実績(H27)	計画(H27)	
		加工生産体制の機能充実(加工施設機器導入)			→	商品売上高 (H25:13,000千円)	17,500千円
		加工処理施設の整備	加工施設機器の機能充実	生産体制の一本化			
		販売開拓					
		新規顧客の掘起こし		販促グッズ等作成検討			

事業計画					数値目標	
H24	H25	H26	H27	H28	計画	目標(H27)
		自社商品の強化 施設・設備等整備 商品開発・試作・パッケージデザイン・市場調査・PR 販路拡大 地域商社としての役割強化 四万十市地域商品研究会設立 研究会でのスキルアップ、ブラッシュアップ			商品売上高 (H25:23,000千円)	30,000千円

修正項目(案)

【幡多地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
43 四万十市の地域資源を活かした通年・滞在型観光の推進 《四万十市》	四万十市内での滞在期間を延ばし、宿泊を促す「通遊型観光からの脱却」と閑散期(秋・冬)にも観光客に訪れていただく通年型観光へ向けた取組及び観光客の情報収集などの拠点となる施設整備により、宿泊型観光の増加を図る。	・四万十市観光振興連絡会議 ・奥四万十楽しまんとプロジェクトチーム ・四万十市	・花まつりの通年化(H22～23) ・食まつりとしてのイベント合同開催(H23～) ◆通遊型観光からの脱却と閑散期(秋・冬)における集客増のため、秋に特化した宿泊を促すイベント開催にあたって、飲食店組合や旅館組合等との連携を強化し、官民一体となった観光客受入体制の足場を築くことができた。 ・自転車観光の推進(H24～) ◆自転車による地域振興の各種取組が高知・愛媛県境連携協議会の動きにつながるなど、取組の広域化が見られ始めた。(H25) <観光商品開発数>H24:74体験	・イベントに頼らない誘客の仕組みづくりと観光商品の造成 ・マイカー旅行者をターゲットとした観光拠点の整備	◆四万十川観光拠点整備 ◆地域資源を活用した観光商品(体験型メニューなど)の開発 ◆新たに開発された観光商品(体験メニューなど)を使った観光客の受入



修正前



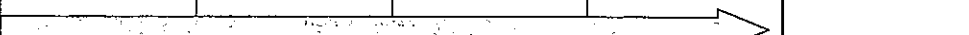

【幡多地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
43 四万十市の地域資源を活かした通年・滞在型観光の推進 《四万十市》	四万十市内での滞在期間を延ばし、宿泊を促す「通遊型観光からの脱却」と閑散期(秋・冬)にも観光客に訪れていただく通年型観光へ向けた取組及び観光客の情報収集などの拠点となる施設整備により、宿泊型観光の増加を図る。	・四万十市観光振興連絡会議 ・奥四万十楽しまんとプロジェクトチーム ・四万十市 ・41°Cプロジェクト	・花まつりの通年化(H22～23) ・食まつりとしてのイベント合同開催(H23～) ◆通遊型観光からの脱却と閑散期(秋・冬)における集客増のため、秋に特化した宿泊を促すイベント開催にあたって、飲食店組合や旅館組合等との連携を強化し、官民一体となった観光客受入体制の足場を築くことができた。 ・自転車観光の推進(H24～) ◆自転車による地域振興の各種取組が高知・愛媛県境連携協議会の動きにつながるなど、取組の広域化が見られ始めた。(H25) <観光商品開発数>H24:74体験	・イベントに頼らない誘客の仕組みづくりと観光商品の造成 ・マイカー旅行者をターゲットとした観光拠点の整備	◆四万十川観光拠点整備 ◆地域資源を活用した観光商品(体験型メニューなど)の開発 ◆新たに開発された観光商品(体験メニューなど)を使った観光客の受入

修正後

第1期計画					H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	指標		目標値(H27)	
						入込客数 (H21:95.5万人) (H24:117万人)	120万人
四万十川観光拠点整備 四万十川に訪れた観光客の窓口となる施設の検討	・観光資源案内、道路情報、休憩機能を有した施設整備 ・自動車使用による観光客へのおもてなし向上		観光協会と連携した四万十川観光におけるハブ機能の構築				
地域資源を活用した観光商品(体験メニューなど)の開発 ・地域住民を交えた新たな資源の発掘、地域の魅力の再確認 ・地域の食・文化・歴史などを活用した観光商品(体験メニューなど)の造成 ・自転車を活用した観光商品の造成					マーケット、ニーズに沿ったプログラムの磨き上げ		
							
新たに開発された観光商品(体験メニューなど)を使った観光客の受入 広報、セールス、多数受入時の支援						観光商品増による入込客数の増、リピーターの増	



第2期計画					H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	指標		目標値(H27)	
						入込客数 (H21:95.5万人) (H24:117万人)	120万人
四万十川観光拠点整備 四万十川に訪れた観光客の窓口となる施設の検討	・観光資源案内、道路情報、休憩機能を有した施設整備 ・自動車使用による観光客へのおもてなし向上		観光協会と連携した四万十川観光におけるハブ機能の構築				
地域資源を活用した観光商品(体験メニューなど)の開発 ・地域住民を交えた新たな資源の発掘、地域の魅力の再確認 ・地域の食・文化・歴史などを活用した観光商品(体験メニューなど)の造成 ・自転車を活用した観光商品の造成					マーケット、ニーズに沿ったプログラムの磨き上げ		
							
新たに開発された観光商品(体験メニューなど)を使った観光客の受入 広報、セールス、多数受入時の支援						観光商品増による入込客数の増、リピーターの増	

『地域アクションプラン』検討過程での有望素材の洗い出し

市町村名	大月町	素材名	宿毛湾産のイワシ、アジ、サバ、タイ等
		関連素材	
現状・課題	<p>平成4年頃より、大月町橋浦地区において地元水産物を活用した干物等水産加工事業を営んでいる。これまでの主要顧客は通信販売による個人が主体となっており、顧客リスト数は延べ5,000人程度となっている。しかしながら、その大部分が休眠顧客となっており、現在はその一部顧客(約150人)がリピーターとなり主力販売商品であるセット商品の購買層になっている。今後さらなる事業拡大を図るため、個人の通信販売という既存事業に加え、スーパー等業務筋の販路を開拓し、会社の両輪としたい。現在、大阪の食品会社と連携した商品の販路拡大を検討しており、味等では高い評価をいただいているものの、既存施設では衛生管理体制が充分でないため、取引が進んでいない。新たに加工場を建設し、衛生管理のできる体制を整え、業務筋の販路を開拓したい。加工場は、26年12月に建設を完成し、業務筋商品の生産を行う。当面は既存施設(個人顧客)との併用で対応していき、将来は新しい加工場の設備増強を行い、一元化を行いたい。</p>		
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 衛生管理のできる新加工場建設。 従来の個人顧客とあわせて業務筋等への販路開拓。 効率的な加工体制の構築。 商品ラインアップの拡充。 		

『有望素材』を活かした具体的な取り組み(案)

『地域アクションプラン』における具体的な取り組み案

項目	取り組み名	衛生管理強化による干物等水産加工品販路拡大事業			
	関係市町村名	大月町			
事業の概要	<p>大阪の食品事業者から水産加工商品(キビナゴ加工品)の販売取扱いについて打診を受けており、従来の個人顧客を主体とした販売から業務筋も含めた新たな販路の開拓を計画している。今回、衛生管理に対応できる加工場の施設整備を行うことにより、キビゴマの販売についての取扱いが開始される予定である。又、リピーターとなっていた個人顧客や地元学校給食等にも、より安全・安心な水産加工の生産体制を整えることにより、積極的なセールス活動が可能となる。今回、新たに加工場の建設と生産体制の拡充を行うことにより地域水産物の利用促進と、大月町の外販の核である「大月町ふるさと振興公社」との連携をより密にし、売上増による収益の拡大と加工作業員の雇用増を図る。</p>				
事業主体等	<p>【事業主体】土佐大月海産 代表者 中野 美和 http://www.gallery.ne.jp/osakana/ 【関係機関】大月町、大月町商工会</p>				
主な内容・スケジュール	取組手順	前年度 【H25】	事業実施 【H26】	1年後 【H27】	2年後以降 【H28~】
	加工場新設		加工場新設(衛生管理に対応できる区分管理型加工場の建設) ※旧施設との併用による生産	新設加工場による生産体制の一元化	
	生産機器の導入			加工体制強化 ・乾燥機 ・冷凍、冷蔵庫 ・殺菌庫他	
	販路拡大・販売促進等	大阪食品事業者より商品取扱いの打診		営業活動の拡充	販促グッズ検討作成 商品ラインアップの拡充 営業活動
指標・目標	項目	前年度 【H25】	事業実施 【H26】	1年後 【H27】	2年後以降 【H28~】
	【設定根拠】	<ul style="list-style-type: none"> 稼働個人顧客数150人 売上げ 10,000千円 業務筋販売先 3社 売上げ 3,000千円 	<ul style="list-style-type: none"> 稼働個人顧客数150人 売上げ 10,000千円 業務筋販売先 3社 売上げ 3,000千円 	<ul style="list-style-type: none"> 稼働個人顧客数200人 売上げ 12,500千円 業務筋販売先 5社 売上げ 5,000千円 	<ul style="list-style-type: none"> 稼働個人顧客数200人 売上げ 15,000千円 業務筋販売先 7社 売上げ 15,000千円
	【推計の考え方】	<p>個人顧客の売上げについては、当面休眠顧客へのDMに新規掘り起しにより、前年度25%増を目標とする。業務筋販売先については、生産体制の拡充と合わせ、整備後に年間2件の新規獲得を進める。これにより、2年後以降の売上15,000千円を目指す。</p>			
仕分		【考え方】			
総事業費等	総事業費	千円 (うち 26年度 千円)			
	(内訳 国: 県: 市町村: その他:)				
	想定する支援事業(補助金名称、人的支援の内容、その他)	国: 県: 高知県産業振興推進総合支援事業 人的支援:			
備考					

有望素材シート (26年度追加分) (案)

『地域アクションプラン』検討過程での有望素材の洗い出し

市町村名	四万十市	素材名 関連素材	地域産品
現状・課題	<p><現状> 地域素材を活かした産業化への取組と流通の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四万十市には、多品種の農産物、四万十川の水産物といった素材があり、産業振興計画策定以降、当地域でも地域素材を活かした新商品が生みだされ、流通に乗せようという機運が生まれきた。しかし、全体的に見ると、まだまだ付加価値が付けきれていない現状にある。 ・四万十市を中心に地域コミュニティ誌を発刊してきた(有)せいぶ印刷工房が、コミュニティ誌のノウハウを活かし、轄多地域全域からの地域特産品を発掘するとともに、アイテムを補充するため、自ら加工施設を持ち、商品開発、製造加工を行い、地域外に向けた通販や、インターネット販売の取り組みを始め、国内、海外への販売も順調に業績を伸ばし、地域素材を活用した「地域プラットフォーム」の機能を果たすようになってきた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後求められる、県外流通に乗せていくためには、衛生面からの指摘に耐える施設や、目の肥えた消費者に訴求しうるデザインを高める等の課題を乗り越えることを強く迫られるようになっており、有望な素材があっても現状のままでは販売できないものが多い。 ・さらにプラットフォーム機能を果たしている(有)せいぶ印刷工房の加工場が手狭で、これ以上の新商品開発及び製造加工が見込めない状況である。 ・この現状を解決すべく、地域商社的な役割を担いながら、地域素材を活かした商品開発、製造加工のプラットフォームとしての機能が果たせるようになれば、大層受注にも対応可能となり、集積効果として、地域全体の農産物、農産加工品の販売額の増加が期待できる。また、地域での雇用の創出も見込まれ、一層の地域活性化につながるものである。 		
今後の方向性	<p>地域の素材を活かした商品の開発、販路拡大及び地域商社としての役割強化による四万十地域産品の県外及び海外への発信、販売。</p> <p>(1) 自社商品の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新商品開発、販路拡大、加工場の新設及び機械設備の導入 (2) 地域商社としての役割強化 (地域生産者の商品力向上) ・地域生産者、事業者が連携を行える場(プラットフォーム的な会)として研究会を立ち上げ、各分野の専門家を交え勉強会等を開き、参画事業者のスキルアップ及び商品のブラッシュアップを図ることにより、新たな地域商品の掘り起こしと生産を促進させて、各生産者、事業者が、国内外への販売が可能な商品ラインナップを増加させる。 		

『有望素材』を活かした具体的な取り組み(案)

『地域アクションプラン』における具体的な取り組み案

項目	取り組み名	四万十地域の素材を活かした新たな外商戦略の構築				
	関係市町村名	四万十市				
事業の概要	<p>(1) 自社商品の強化</p> <p><施設・設備等整備事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・加工場の増設 ・冷蔵庫、冷凍庫、乾燥機等の設備導入 <p><販路拡大事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・展示会等への参加 ・新商品開発 ・既存商品の磨き上げ <p>(2) 地域商社としての役割強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四万十市地域商品研究会(仮称)の設立 					
事業主体等	<p>【事業主体】</p> <p>有限会社せいぶ印刷工房</p> <p>【関係機関】</p>					
主な内容・スケジュール	取組手順	事業実施【H26】	1年後【H27】	2年後【H28】	3年後【H29】	4年後【H30~】
	商品開発・製造	商品開発、試作 パッケージデザイン 市場調査 PR	加工施設・設備導入 試作・パッケージデザイン 市場調査 PR	試作 パッケージデザイン 市場調査 PR	試作 パッケージデザイン 市場調査 PR	試作 パッケージデザイン 市場調査 PR
	商品販売	販売開始				
	研究会立上げ	四万十市地域商品研究会(仮称)立上げ				
指標・目標	項目(期末:10月末)	事業実施【H26】	1年後【H27】	2年後【H28】	3年後【H29】	4年後【H30~】
	売上高(千円)	25,000	30,000	40,000	50,000	70,000
	【設定根拠】	【推計の考え方】 既存事業売上に当計画により開発された商品の売上を合算				
		【考え方】 展示商談会、既存得意先への提案を行い販路拡大に努める				
総事業費等	総事業費(内訳)	<p>36,000千円 (うち 27年度 36,000千円)</p> <p>国: 県: 3,000 市町村: 1,500 その他: 31,500</p>				
	想定する支援事業(補助金名称、人的支援の内容、その他)	<p>国: 県: 3,000 人的支援:</p> <p>その他:</p>				
備考						

